

会長のページ	年頭所感	河野 雅行	3
年 頭 所 感	日本医師会長	横倉 義武	4
年 頭 所 感	宮崎県医師会顧問	秦 喜八郎, 稲倉 正孝	6
年 頭 所 感	各郡市医師会長		7
年 頭 所 感	各専門分科医会長		12
年頭のご挨拶	宮崎県知事	河野 俊嗣	19
年頭のご挨拶	宮崎大学長	池ノ上 克	20
年頭のご挨拶	宮崎県選出国會議員		21
年頭のご挨拶	宮崎県議會議員		24
新 春 随 想(その1)			25
	谷口 二郎, 石渡 正子, 山村 善教, 宮田 純一, 永友 淳司		
	高崎 眞弓, 山田 琢也, 清山 知憲, 安藤 健一, 坂田 師通		
	松岡 敬子, 盛田修一郎, 坂田 師隣, 楠元 正輝, 宝珠山 弘		
	石川 恵美, 加藤 丈司, 中村 政人		
エコー・リレー(497)		皆川 明大, 今田 真一	39
診療メモ	DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team		
	災害派遣精神医療チーム)について	河野 次郎	94

平成28年 1月～12月までの叙勲及び表彰・祝賀受賞会員	40
叙勲・祝賀	42
表彰・祝賀	44
あなたできますか？(平成27年度医師国家試験問題より)	45
宮崎県感染症発生動向	46
各種委員会(介護保健委員会, 地域医療構想委員会)	48
九州医師会連合会第1回各種協議会	50
九州医師会連合会第360回常任委員会	62
日医インターネットニュースから	64
理 事 会 日 誌	66
ベストセラー	71
県 医 の 動 き	73
会員の異動・変更報告	74
ドクターバンク情報	75
行 事 予 定	81
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会	83
宮大医学部学生のページ(第12回清花祭)	96
あ と が き	100
~~~~~	
お知らせ	
宮崎県医師会医療情報コーナー	61
宮崎県医療勤務環境改善支援センター	63
麻薬譲受証に記載すべき譲受人氏名及び押印する麻薬専用印について	72
平成28年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い	72
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています	79
郡市医師会への送付文書	98

## 医師の心得

1. 私たちは、皆さまの  
健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに  
最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに  
医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの  
「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの  
健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年 3 月12日制定)

〔表紙作品：写真〕

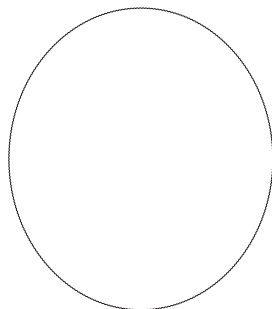
### 烏帽子の朝

北浦町の海に 烏帽子岩 と呼ばれる岩があります。冬になると、この岩の近くから朝陽が昇ります。また冬なので、いわゆるダルマ朝陽が見られることもあります。烏帽子岩とダルマ朝陽のコラボ写真は滅多に撮れず、多くの写真家がいいショットを求めて挑戦に来る風景のひとつです。

ひ だか とし あき  
延岡市 日 高 利 昭

# 年 頭 所 感

宮 崎 県 医 師 会

会 長 ^{かわ}河 ^の野 ^{まさ}雅 ^{ゆき}行

新年おめでとうございます。年頭にあたりましてご挨拶申し上げます。

昨年も様々な出来事がありました。マイナンバー制度の導入があり、事前から様々な憶測がされていましたが、思ったほどの混乱は伝えられていないようです。一方、喧伝された程の効果も今のところ不明です。4月には熊本地震がありました。更に、全国的に水害や火山噴火や地震が頻発して日本全土が揺れ動いているようにあります。JMAT等でその都度ご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。社会保障・医療費の財源とされていた消費増税延期で心配された通り、診療報酬改定は厳しいものでした。国も医療の重要性は認めているようですが、将来に不安を残しました。医療事故調査制度や、地域医療構想で振り回されました。第24回参議院議員選挙があり、県医連推薦の自見英子先生と松下新平先生が当選されました。中央では、初の女性都知事や野党にも女性党首が誕生して、女性の指導者就任が進んだことは朗報であり、政治が身近に感じられるようになりました。8月のリオ・オリンピック、パラリンピックでは日本選手団の活躍に沸きました。次の東京オリンピックは会場変更や開催費用の問題で紛糾しているようです。当初予算よりも莫大な超過額となっているそうです。今後は経済にゆとりのある都市でしか開催できないかもしれません。オリンピック商業化の付けであろうと思われます。この影響は、我が県にも及び県立病院の建て替え工事費の高騰に当局は頭を抱えていると聞きます。国際的には多発するテロが止む気配がありません。しかも地域から全世界に広まっており、中には日本人を標的にした事件もありました。統計によると先の大戦に匹敵する累計死者が出ているそうです。隣国による度重なる領海侵犯や、別の隣国による核やミサイル実験等々相変わらず物騒な国際情勢です。年末には北国大統領のしたたかな外交に振り回されました。隣国大統領の弾劾騒動や、南国大統領放言や、超大国大統領の番狂わせ選出等々がありました。これ等の一連の経過は、一般国民の不満が相当鬱積した発露と解説されています。更に大統領といえども、我々と同様、普通の人間であると認識できました。このような世界情勢から、我が国も自国の防衛や食料・エネルギー問題・憲法改定等々、真の意味での独立を再思考する時期かもしれません。

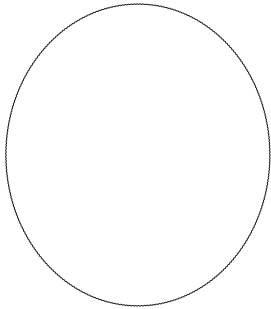
横倉日医会長が世界医師会長に選出されました。日本人では武見、坪井会長に続いて3人目となります。会長は九州出身ですし、近々診療報酬・介護報酬改定への関ぎ合いも始まります。日医を全面的に応援すると共にご活躍を祈念します。

このように、わずか一年の間に様々な出来事がありました。

今年こそ、特に医療については穏やかな一年であってほしいものです。

皆様の更なる県医師会に対するご協力をお願いすると共に、ご多幸を祈ります。

# 年 頭 所 感



日 本 医 師 会

会 長 横 倉 義 武

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年 4 月、6 年前の東日本大震災の恐怖を再び呼び起こさせるような大地震が熊本で発生しました。会員の先生方におかれましては、JMATとして現地で支援に当たられるだけでなく、多くの支援金もお寄せいただき、改めて感謝申し上げます。

また、昨年は各地で台風を始め天候不順が続き、土砂災害や洪水、更には火山噴火等、さまざまな災害が相次ぎ、多くの方々が避難生活を余儀なくされました。災害はいつ起きるか分からず、万全な備えをしておくことが必要です。日本医師会といたしましても引き続き、災害対策基本法上の指定公共機関としての責務を果たしていく所存です。

さて、2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築が急務となっていますが、本年 3 月までには各地域で地域医療構想が策定されることになっています。各地域における住民の年齢構成や医療資源、交通アクセス等、その置かれた状況はさまざまであり、地域の特性に合わせた構想を策定するためには、地域医療を担う医師会と行政が強固な信頼関係を構築し、各地域に求められる医療の姿を共有していかなければなりません。

わが国では、脳卒中を発症した場合、まずは医療機関に搬送されることになります。回復すれば自宅に戻り、更にリハビリや医療サービスが必要な場合は回復期病棟等や慢性期病棟等で療養を続けたり、介護が必要であれば、老健や介護施設で介護サービスを受けることもあります。また、自宅に帰って再び発症するようなことがあれば、再入院するといったことが繰り返されるわけですが、こうした過程においても、常に患者さんの人生を見守っていく「かかりつけ医」の役割は大変大きいものがあります。最終的に患者さんが安心して旅立たれ、また家族の方々がその患者さんを心安らかに送り出すところまでしっかりと見届けていく、こうしたことが来るべき超高齢社会における医療の姿なのではないでしょうか。

今年は、トランプ米国大統領が誕生し、わが国でも国防問題や経済政策、社会保障を巡って活発な議論が展開されることが予想されます。政府では新たに設置した未来投資会議において、第 4 次産業革命として、ICTの活用により必要なサービスが必要な時に必要な人に届く、超スマート社会の実現を打ち出しておりますが、かかる状況においても必要なことは、人を大事にする政治、政策であると思います。昨年、あるシンポジウムで「国民の健康」についてさまざまな議論を交わす機会がありましたが、その過程においてこの思いを強くしました。

資源に恵まれていない日本が、広大な土地と豊富な資源を有する超大国と互角に対応できた要因は人であり、子ども達の健康と成長を見守りながら、健全な教育を施してきたからに他ありません。医

療と教育に対して予算が回らないようであれば、あらゆる意味で国が衰退していくのは明らかであり、この2つを犠牲にするような政策は断じて行ってはなりません。

医療政策の立案を担う厚生労働省の方々には、ぜひ医療現場の方々と実際に交流し、その実情を的確にキャッチすることで、現場の声を反映した政策の立案をされるだけでなく、財務省ともしっかりと議論され、適正な社会保障財源を獲得していただきたいと思います。

また、昨今では、過重労働による痛ましい悲劇が散見されるようになりました。患者さんの状態が刻々と変化していく中で、夜間、人生の最期を迎えようとする患者さんを前に、勤務時間外だからと帰るわけにはいかず、何日も徹夜して診療に当たったというような経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

若い医師の方達には、患者さんに寄り添うというその心をぜひ、受け継いでいっていただきたいと思いますが、過重労働状態の中で医療を行うことは患者さんのためにはならないことは明かです。この問題の解決のためには、より働きやすい環境整備に努めることはもちろんのこと、医師の側においても働き方に対する意識を変えていく必要があるのではないかと考えています。

昨年10月には、東京工業大学の大隅良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。日本人としては、前年の大村智北里大学特別栄誉教授に続く2年連続の快挙です。大隅栄誉教授は記者会見の席上、「大学の研究環境の劣化により、将来的にノーベル賞が出なくなる」と不安を述べておられました。臨床医学は基礎医学がベースにあって始めて成り立つものです。日本の医学が非常に高い水準を維持できたのは、基礎医学に従事された方々のご尽力によるところが大きく、医学の将来を俯瞰すると、基礎医学の研究に関する環境づくりも、医療界のみならず社会全体で考えていくべき課題ではないかと感じております。昨年11月に、安倍晋三内閣総理大臣にお会いした際に、医療研究に優れた功績を挙げられた方々を顕彰するため「内閣総理大臣賞」の創設を要望して参りましたが、本賞の創設が実現し、医学研究に携わる先生方の励みとなることを願っています。

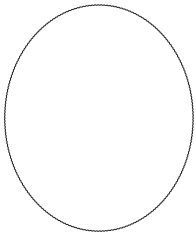
終わりにになりますが、私は昨年10月に開催された世界医師会台北総会におきまして、世界医師会次期会長に選出いただきました。国民の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げたわが国の医療システムやノウハウを広く世界に発信していきたいとの思いで立候補いたしました。現在ではグローバル化の進展と相俟って、医療界を取り巻く多くの問題が国境を越えて立ちはだかつております。その解決に向けて、世界医師会が果たす役割はますます重要になると考えており、その責任の重さを痛感しております。

一方、わが国においては少子高齢化に伴う医療提供体制の再構築や医師の地域偏在、診療科偏在の問題、更には医療の高度化等に伴う医療費の増大への対応など、多くの問題が山積しており、わが国の医療が進むべき道筋を早急に示す必要があると考えています。

とりわけ熱かった昨年の夏、日本のみならず世界中をより一層熱くさせたあのブラジル・リオでのオリンピック・パラリンピックが、3年後にはこの日本で開催されることになります。開催に当たっては、外国人観光客の受け入れ態勢や熱中症対策、更にはイベント関連事故や自然災害、テロリズム等による予測不可能な傷病者への災害医療体制など、多くの課題も残されておりますが、東京都医師会始め、関係機関とも協力し、その準備を進めていく所存です。

「地域から国へ」、そして「日本から世界へ」を目指し、日医執行部はこれからも一丸となって対応して参る所存でございますので、会員の皆様方には深いご理解と格段のご支援を賜りますようお願い申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

## 年 頭 所 感



宮崎県医師会顧問

秦 喜八郎

あけましておめでとうございます。

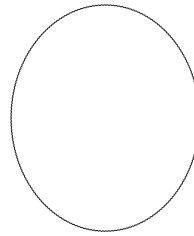
大方の予想を裏切って、トランプ次期大統領が誕生しました(11/10)。米主要メディア・テレビは最後までクリントン氏優勢を伝えていました。世論調査手法の問題、隠れトランプ支持者の読み違い等が指摘されています。

1980年代からの急速なグローバル化や新自由主義が生んだ格差の拡大と疎外感から来る既存体制への不信感、移民に職を奪われたと考える白人労働者の熱狂的支援がトランプ勝利の原動力とされています。

数少ないトランプ当選予測者と言われるエマニュエル・トッド氏(仏・歴史学者)は自由貿易による競争激化で不公平が募っている」「問題はなぜ指導者層やメディア、学者にそんな社会の現実が見えないかという点だ」と答えていました。投票日前夜のテレビでニューヨークのレポーターが「クリントン氏優勢が伝えられていますがここではトランプ氏支持が多いようです」と実況中継していました。見ていて気にもとめませんでした。真実から目をそらしていたのかもしれません。

先き行き不安から下がっていた株価も回復、積極的財政政策への期待から、米金利上昇、円安、株高傾向になっています(11/19)。これが「新常态」となって景気が回復するとの期待もあります。世界情勢への理解の不充分さからやがて、立往生との予測もあります。

英のEU離脱、仏大統領選や独首相選への影響、反グローバリズム、保護貿易主義や極右勢力の台頭を懸念する声もあります。新春早々から注意深い見守りが必要です。



宮崎県医師会顧問

稲 倉 正 孝

新年明けましておめでとうございます。

昨年も世界中で色々な出来事が起こりました。その中でも印象に残っている想定外と言われた2つの出来事について考えてみました。

1つ目は、6月23日に行われた英国の欧州連合離脱是非を問う国民投票です。英国のEUからの離脱が決まりました。投票率72.1%、離脱票51.9%、残留票48.1%という僅差の結果でした。EU離脱派の主張は、表向きは「国として主導権を回復する」としているが、本音は「これ以上、移民・難民は受け入れられない」ということだと言われています。

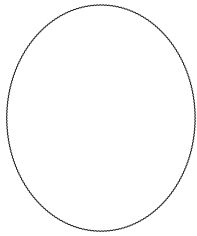
2つ目は、11月8日に行われた米大統領選2016で、政治経験のない「不動産王トランプ氏」が「初めての女性大統領候補クリントン氏」を破り全世界に衝撃が走りました。獲得選挙人総数は、共和党のトランプ氏が306人(56.8%)、民主党のクリントン氏が232人(43.1%)でした。獲得選挙人数ではトランプ氏の快勝でした。獲得した票数ではクリントン氏5,933万票、トランプ氏5,916万票とクリントン氏の方が上回りました。トランプ氏は過激な発言を繰り返して問題点を浮き彫りにし、長く続いた民主党政権が何も変えられなかったことに対する国民の失望を増幅させることに成功したとも言えます。米国民が目立った成果を示せない既存の政治家に失望したとの見方もあります。

今回の2つの選択は、今後の世界の政治・経済・軍事に重大な影響を及ぼすと予想されます。マスコミの予想と国民の選択は僅差ではあるが逆になりました。その理由は、国民が何を望み、どの様な不満を抱いているかのメディア側の分析不足と思われます。

グローバリゼーションは、強者には大きな利益をもたらしたが、全世界に大きな格差を作ってしまった。そのため、国民の不平等感・不満は増大しました。今回の英国のEU離脱と米国大統領選2016は、実は現状不満者と現状維持者との争いであつたことが分かります。

自国第一主義、自国民中心主義の流れが、軍事力・経済力と結びつく時、民主主義・平和主義の流れを逆流させるのではないかと危惧しています。

## 年 頭 所 感



宮崎市郡医師会長  
川 名 隆 司

謹んで新春のご祝詞を申し上げます。旧年中は、一方ならぬご厚情を賜り誠にありが

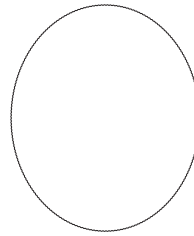
とうございました。

宮崎市郡医師会のA会員数は、昨年4月時点で364名であり平均年齢は59.6歳、B会員は394名、56.7歳です。一般の企業であれば定年間近の年齢ですが、閉院・退職し第二の人生を謳歌する羨ましい話は聞いたことがありません。私どもは、ゴールが定められていないマラソンランナーのようにも思えます。加えて、普通の方なら仕事から解放される休日や夜間まで、何らかの対応を迫られることも珍しくはありません。しかし、これも当然と言えば当然であり、異を唱える医師はいないでしょう。

その一方で、厚労省の新研修医指導ガイドラインには「本人の同意のない時間外労働は禁止」「体調不良時には休ませる」「ミスをして頭ごなしに叱らず優しく諭す」等の指導要項が列挙されていると聞きました。私は外科でしたが、優しく諭された記憶はありませんし、指導医は労働基準法など端から頭になく、受け持ち患者の術後に病棟に泊まることは常識でした。隔世の感を禁じえないその指導ガイドラインで、果たして医師の使命感や倫理観を涵養できるのか大いに危惧されるところです。

宮崎市郡医師会病院を始めとする本会諸施設の建替整備事業は、現在基本設計の段階で、予定通りに進めば2018年度に建設工事に着工し、2020年度の竣工となります。宮崎市を始め市郡歯科医師会、市郡薬剤師会、県看護協会と緊密に連携し、災害・救急医療に強い医療防災ゾーンを構築すべく邁進したいと思います。

結びに、本年が皆様にとりまして、更に繁栄の年となりますよう心からご祈念申し上げ、初春のご挨拶とさせていただきます。



都城市北諸県郡医師会長  
飯 田 正 幸

あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年中は当医師会へのご支援、ご協力大

変ありがとうございました。

一昨年移転しました、医師会病院・健康サービスセンター・夜間急病センターの3施設は様々な改修工事を行いながら順調に運営しておりました。しかし2年目のジンクスでしょうか、医師会病院は開院した26年度より27年度の収益が減少し担当者・会員のなかで心配の声が上がっています。開院1年目の成績の良さに油断したわけではありませんが、増収に向けて役員一同知恵を絞る毎日です。

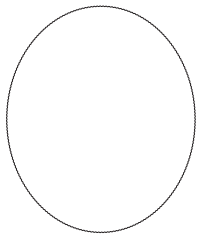
昨年4月熊本地震で大きな災害が発生しました。医師会病院のDMAT2隊とJMAT1隊が要請により出動いたしました。宮崎県での災害時後方支援地域での震災でこれからの災害対応を改めて考えなければならぬと思いました。

昨年は地域医療構想会議が行われ、病床を減らす話し合いなのかと心配しました。総務省から交付金を貰い、税金をどんどん使う公的病院が先に地域医療構想を確定するような話もありましたが、全日病や日医の抗議によって無くなりました。十分な補助金や税金からの補填のある公的病院と民間病院が同じ診療報酬の中でやっていくことはおかしいと思っています。

診療報酬改定があっても、人件費を上げられるだけのプラス改定にはなっていません。医療費以上の税金(27兆円)を使う公務員給与は三年連続上がっています。医療費の約48%は人件費です。同じ人件費で医療の分は上がらないのか財務省の公務員に説明していただきたいものです。

年の初めから愚痴になってしまいましたが、本年も当医師会に対しご協力、ご支援よろしく願います。

本年が皆様にとりまして輝かしい年になりますことを祈念いたしまして新年の挨拶と致します。



延岡市医師会長  
吉 田 建 世

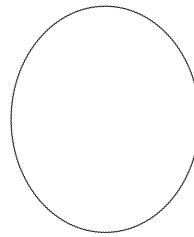
新年明けましておめでとう  
ございます。旧年中は当医師  
会へのご支援を賜り、感謝申

し上げます。

昨年 7 月より会長として 2 期目となりました。当医師会の運営は、医師会病院、看護学校、救急医療の問題など、相変わらず課題山積であります。会員の平均年齢が 60 歳を超える中、延岡市としても新規開業において開業補助金を準備してくれていますが、なかなか若い人の新規開業が増えて来ません。この状態では、10 年後は救急医療が立ち行かなくなるのではと心配もしていますが、頑張って対応していきたいと考えております。

さて、今年は今後の医療体制にとって大変重要な年になります。と言いますのも平成 30 年に医療保険と介護保険の同時改定があり、今年がその準備の年だからです。今年中に様々な議論が行われ、改定内容が決定されます。消費税増税が見送られたことで、社会保障費に充てる財源が不足することが予想され、マイナス改定も危惧されています。国は社会保障の財源は確保していくと言っていますので、医師会としても、地域医療の充実のため、きちんと議論を重ね、的確に主張をしていく事が重要と考えます。

今年も県医師会の会員の先生方には、よろしくお願い申し上げます。



日向市東臼杵郡医師会長  
渡 邊 康 久

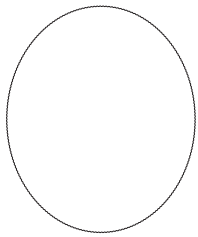
新年明けましておめでとう  
ございます。

先生方にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、旧年中のご厚情に対し心からお礼を申し上げます。

昨年 11 月、TPP 承認案と関連法案が TPP 特別委員会で可決され、混合診療の全面解禁や営利企業の医療参入が現実味を帯びてきた感がありました。その後、アメリカ大統領選挙で共和党候補トランプ氏が当選し、TPP へ離脱のメッセージを発したことにより、TPP の発効は不透明となってきました。アメリカは従来から日本の医療制度について干渉をしてきていますので、トランプ氏が提唱している二国間貿易協定においても、引き続き医療制度改革を求めてくることも予想され、予断を許さない状況が続くそうです。

さて、平成 27 年度から始まった「2025 年を見据えた地域医療構想」の策定が終わり、「宮崎県地域医療構想」としてまとめられました。今後「地域医療構想調整会議」で議論を深めていくことになります。本県の人口減少に歯止めはかかりません。少子高齢化社会を迎えて、当地域の患者に応じた医療を効率的に提供する体制を構築することが求められます。今後、行政と連携しながら、目指すべき医療提供体制を実現するために会員の先生方と一体となって取り組みたいと思っています。取り分け、医療従事者の確保・看護師の養成に力を入れてまいります。

最後になりましたが、皆様にとりまして幸多き年になるよう祈念いたしまして新年のご挨拶といたします。



児 湯 医 師 会 長  
永 友 和 之

明けましておめでとうございます。

何らかの業績があったかど

うかはともかく、県理事4年+児湯医師会長16年=20年の歳月が流れました。

‘96年「ダイアナ妃が離婚」→‘06年「悠仁さまのお誕生」→‘16年「トランプ現象」

児湯医師会会員数 52名→58名→72名 ↑

有床診療所数 20→ 9 →4施設 ↓

医師会活動はおおむね順調に経過しております。

社員総会の出席率は昔も今もほぼ80%と良好です。児湯内科医会や宮崎病院医療セミナーなどの講演会や勉強会が月1～2回のペースで開催されて、会員は知性に溢れております。

医師会主催のミニバレーボール大会は毎回40チーム、200名の参加で賑わっており、昨年は山口整形外科のジェットガトリングチームが優勝しました。

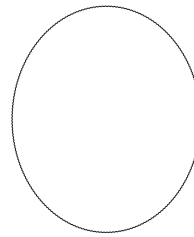
日曜・休日の在宅医制度は地域医療のモデルになる位にほぼ整っています。特に小児科は充実しております。

救急医療は川南病院などの5つの病院がフル稼働しています。宮崎市夜間急病センターや西都児湯医療センターなどにも会員の有志が当直に出向いております。

児湯准看護学校は、赤字ながらもなんとか遣り繰りしております。

当医師会の埋蔵金はかなり減ってはいますが、何とかなるだろうと楽観視しております。以上です。

今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



西都市西児湯医師会長  
松 本 英 裕

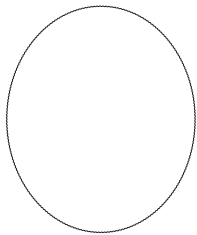
あけましておめでとうございます。

会長職を仰せつかって早半

年が過ぎました。半年間、何をしてきたかと自問自答してもすぐに答えが出てきません。まだまだ活動できていないのが実情なのでしょう。その中で副会長時代から参加してきた、在宅医療・介護連携、認知症施策推進に関しては引き続き関わらせて頂き、多職種連携の大事さ必要性を感じております。今後もそれらの活動への参加から、やるべき道を見い出し、まい進していきたいと思います。私個人としては救急医療にも関心があり、西都児湯医療センターを中心とした一次、二次(三次)救急への取組みを先生方、行政と話し合っていきたいと考えております。また三師会の結束もさらに深め、講演会を中心に共に研鑽できる取組みを続けていきたいと思っています。

昨年の“自分の一文字”を考えてみました。最初に浮かんだのは“革”でした。変革，革命，改革といった2字熟語があります。アメリカ合衆国はトランプ氏が大統領になり変革，革命，改革が起きるかもしれません。私自身，会長になった事を含め，昨年は多くの変革があった年でした。今年もいい意味で何か変革，改革できる一年にしたいと思います。

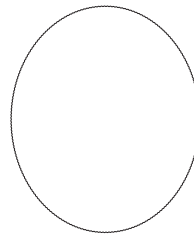
最後になりましたが，皆様方に当医師会へのご指導，ご鞭撻をお願いし，今年も新執行部と共に会員の先生方の幸せを祈念しながら頑張っていきたいと思います。



南 那 珂 医 師 会 長  
島 田 雅 弘

南那珂より新年のごあいさ  
つを申し上げます。当医師会  
では医師の高齢化が進み、A

会員の平均年齢が60歳を超えてきました。日南市においてはこの5年程新規開業がなく、市長の音頭のもとIT企業を誘致し若者の地域定着を図っていますが直ぐに効果が出るわけでもなく、県下一の速度で住民の高齢化が進む現状では開業の魅力がないのかもしれません。県立日南病院も医師不足で科によっては新患日を制限しやりくりが大変のようですが、研修医が毎年7名程在籍して戦力になっているそうです。先生方が多忙の中診療時間前後にカンファレンスをまめに開くなど面倒を良くみてくれると研修医の間でシステムの評価が高いようです。日南市立中部病院も医師不足から一時経営難に陥りましたが、リハビリを中心に据えた方針が功を奏し、27年度は市からの繰り入れなしに黒字化を達成できました。10月にはリハビリ棟が完成し、更なる飛躍が期待されます。串間市民病院も松田先生を中心に地域医療に力を入れ、訪問診療を積極的に行い地域包括ケア病棟も導入されています。問題は地域医療構想です。この医療圏は急性期、慢性期ともに病床が多く、地域の事情を考慮するとはいえ、これからの人口減を考えると病床削減及び転換は避けられそうになく、青森県、岐阜県のように公立病院の統廃合が計画されてくる可能性もあります。このようにがんばっている公立病院と医療連携を進めている医師会としても真剣に向き合っていかなければならない課題と考えています。今年度も御指導御鞭撻の程よろしくお願い致します。



西 諸 医 師 会 長  
内 村 大 介

新年あけましておめでとう  
ございます。

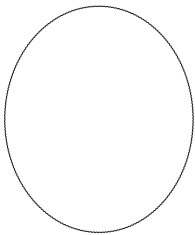
2017年の新春を迎え、皆様  
におかれましては健やかに新  
年を迎えられたことと、心よりお喜び申し上げます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。新しい年の始まりに際し、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、震度7を観測した熊本地震が4月に発生し、一時は18万人を超える方々が避難生活を強いられるなど甚大な被害を被りました。仮設住宅等で未だに不自由な生活を余儀なくされている被災者の方々が、一日でも早く震災前の暮らしを取り戻すことができるよう願うばかりです。また、11月に行われたアメリカ大統領選挙では、ドナルド・トランプ氏が勝利しましたが、今後、どのような舵取りをしていくのか注目の集まるところです。

さて、当医師会におきましては、小林市・えびの市・高原町の2市1町からの依頼を受けて「地域包括ケア」構築のために、各首長をはじめ、当地域の医療・介護に携わる様々な職種の方々にお集まりいただいて西諸地域在宅医療介護連携推進協議会を昨年1月に設置致しました。当西諸地域での地域包括ケアへの取り組みは、二次医療圏である2市1町が一緒になって取り組むべきではありますが、これまでに協議会を2回開催したにも関わらず、なかなか協議が上手く進んでいないのが現状であります。

しかしながら、当西諸地域の住民の皆様が、住み慣れたご自宅で人生の終末を迎えられるような支援体制を構築するための支援センターの設置が必須であり、今後2市1町のトップには強いリーダーシップを発揮していただければと強く願っております。

最後になりますが、当医師会に対しまして本年も変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。併せて会員の先生方のご多幸を祈念致しましてご挨拶と致します。



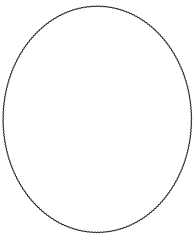
西臼杵郡医師会長

佐 藤 元二郎

新年あけましておめでとうございます。謹んで新春の  
お慶びを申し上げます。

平成28年熊本地震におきましては被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに被災地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。今回の震災により阿蘇大橋崩落、俵山トンネル方面も通行止めとなっているため阿蘇方面からの熊本市内へのアクセスが迂回路を利用するしかなく早期の復興を願うばかりです。

西臼杵地区では高血圧と、特に糖尿病有病率が高く透析患者数が多い状況です。CKD(慢性腎臓病)対策の取り組みとして、特定健診(検尿、採血)の推進、医療機関での早期発見、生活習慣病の治療の徹底、高千穂町立病院の病診連携医を中心にCKD連携パスを利用し、ステージが進行している患者さんには腎臓内科医にコンサルトし治療方針指導、保健師、管理栄養士と協働で食生活の個別指導も始め、腎不全、循環器病の予防に尽力しています。12月3日、県内の医療従事者を目指す多職種の学生25名を高千穂町に招いて、在宅医療、在宅介護の多職種連携の現場訪問に加え、宿泊しながら高千穂の文化(夜神楽)を学び、地域住民との交流を深める多職種連携教育実習を3町で行い、4日には町民公開講座として3町からの実践報告、宮崎大学医学部の吉村学教授の基調講演があり、学生さんも町民と一緒に参加され、看取りまで支える在宅医療の理解が深まり大変好評でした。2人ほど将来西臼杵地区で仕事に従事したいと希望あり嬉しく想いました。当地区は高齢化率が38%となり、加齢に伴って身体の運動機能や生理的な機能が低下して、活動が低下する「フレイル」の段階を経て要介護状態になる高齢者が増えています。12月8日、東京大学加齢医学教授・秋下雅弘先生をお招きし「高齢者の生活習慣病管理～健康長寿からフレイルまで」の講演会があり、健康長寿のためのサルコペニア予防、フレイル対策、高齢者の生活習慣病管理の工夫、服薬アドヒアランスと副作用対策、ポリファーマシーを避ける工夫など、かかりつけ医がすべき役割の重要性を学びました。会員の先生方と地域住民の健康寿命を伸ばすための実践的な指導も行っていく所存です。当地区の開業医不足は深刻ですが、これからもご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。今年も皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



宮崎大学医学部医師会長

鯨 島 浩

新年明けましておめでとうございます。新春にあたり、  
宮崎大学医学部医師会を代表  
して一言、ご挨拶申し上げます。

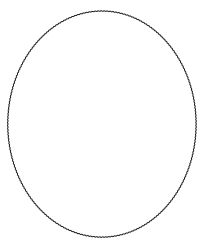
2017年は、トランプ米国新大統領の就任をはじめ、世界的にも大きな変動を迎える年になります。医学界においても、新専門医制度の実質的な導入、地域医療構想の継続、新たな医療計画の策定等があり、大学医学部医師会もその対応が迫られます。

その一方で従前の課題も残されています。最大の課題は医師不足であり、宮崎における医師増員の継続的取り組みが必要です。地域枠学生への早期からの積極的な関わり、医学部5年生と6年生でのキャリアデザインサポートを介した宮崎県への定着の試み、選択度・自由度の大きい研修医制度の提供による積極的な勧誘、女性医師のキャリアサポートやポジティブアクションによる定着化の試み、等々を今年もより一層推進していきます。幸い、昨年は宮崎県内への定着が増加傾向を示しました。今年もその勢いをさらに着実なものにしたいと思います。県内の医師会、行政機関各位と協力し、医師数増加に向けてイニシアチブを発揮し努力してまいりますので、ご助言、ご協力をお願いいたします。

また、大学病院では、住民目線からの分かりやすい診療体制に向けた再編を今後とも進めていきます。外科は2015年から大講座制に移行し、臓器や疾患ごとに診療方針を統合しつつ更なる発展を目指しています。2016年には消化器病センターを設置し、今年中には増改築した新たなセンターも完成します。内科に関しても、疾患や病態ごとに治療方針を統合する新たな体制作りが本格化します。このように、大学病院の基軸である内科系、外科系の診療体制を住民により分かりやすい形で提供し、地域の要望に応える医療連携をさらに推進したいと考えています。

宮崎大学医学部医師会は、昨年4月に新たな役員体制となりました。本年も、各医師会、宮崎県の行政の皆様と協力し、宮崎の医療を活性化するために努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 年 頭 所 感



内科医会長  
小 牧 斎

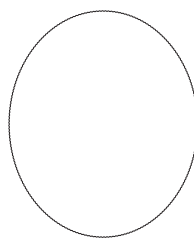
明けましておめでとうございます。

昨年(2016年)4月より二期目迎えております。役員の交代が若干はありましたがほぼ同じメンバーの協力を仰ぎながら諸事業をこなしております。内科医会は約300名の会員を擁す分科会ですが、会員減少が頭痛の種です。内科医会としての魅力、インセンティブが明確でないのも問題でしょうが、内科医としての自負心は持っていたいものです。

今時の関心事といえば、地域医療構想による地域包括ケアシステムの構築に関することです。日本の医療・介護制度のあり方を変えるためのキーワードは「川上の改革」「川下の改革」といわれています。「川上」とは、医療提供体制の再編による医療機関の集約化と連繋ということになります。「川下」とは地域包括ケアシステムの構築です。「川上の改革」において病床再編を進め、押し出されてくる患者・利用者の受け皿となる体制づくりを地域で整理して準備を進めるものといえます。

医療の効率化を目指す医療機関の集約と連繋の必要性は認めるものの、在宅医療制度の取り組みの遅れ、今後ますます増えるであろう高齢者の急変時の入院受け入れ先の確保など問題は多い。高齢者の終末期の受け皿的診療を安上がりにお引受けするのはいささか抵抗を感じます。地域の医療は、献身的な医師によって支えられているのが事実です。混迷を深める医療制度の中で難局を乗り切るには会員一人ひとりの力、内科医会としてのチームワークが今後ますます重要になると思います。

今後とも会員の先生方のご協力・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



小児科医会長  
高 山 修 二

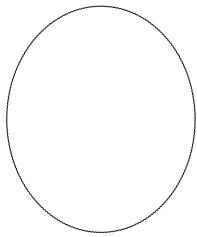
皆様、明けましておめでとうございます。昨年4月に三宅和昭先生の後を引き継ぎ

ました。新役員に佐藤潤一郎先生(予防接種担当)、弓削昭彦先生(小児在宅医療担当:新設)の若手二人が加わり、新風を吹き込んでくれるものと期待しています。

さて、B型肝炎ワクチンの定期接種化が始まりましたが、対象年齢に入らなかった子ども達の救済という課題が残っています。少子化が進み、生まれてきた子ども達を如何にすこやかに育てていくかが問われています。任意接種ワクチン助成制度の存続とまだ助成を行っていない自治体の助成開始を切にお願いするものです。防げるものは防ぐという意味で予防接種の接種率向上は不可欠ですが、学校検尿を利用したピロリ菌の検査は、胃がんの予防という子どもの未来の健康管理と大幅な医療費削減が期待でき、宮崎でも行っていきたい事業のひとつとして位置づけ、その実現に関係機関と協働して努力していきたいと思います。また、今年は県小児科医会のホームページを作成し、保護者や園、学校の先生方向けばかりでなく、会員の先生方への情報発信の場として活用していく予定です。

その他、医師の高齢化によって困難さを増している小児救急医療、要望に応え切れていない小児在宅医療等、課題は山積していますが、会員の結束とチームワークで一つ一つ解決していきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします

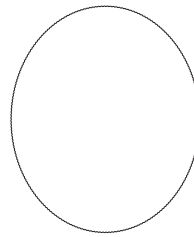


外科医会長  
八 尋 克 三

あけましておめでとうございます。会員の皆様にとってよい年になることを願っております。

最近の歓迎すべきこととして日本臨床外科学会(日臨外)が地方の外科医に目を向けた活動を行っています。具体例を挙げますと、本会は日臨外の宮崎支部でもありますので、国内留学や研修セミナーへの若手医師の推薦依頼、さらに日臨外総会座長推薦要請などがあります。また、診療報酬改定についても臨床の現場にいる外科医の要望を取りまとめることにも積極的になっています。当会としてもこれらを大いに活用しながら、日臨外が地方の外科医のための活動をさらに押し進めて行けるように協力したいと考えています。

今年度は専門医制度について新たな動きがありそうです。その詳細はよく判りませんが、我々外科医は使命感と責任感を持って地域の外科医療を担っている最も貢献度の高い「外科専門医」だと考えています。このことを踏まえた専門医制度の議論であるべきだと申し上げて年頭の挨拶とします。



整形外科医会長  
川 野 啓一郎

明けましておめでとうございます。

まず、私事ではありますが、昨年後半に目の手術を行いまして、視界が広くなりました。今年は心の視野を広げるべく努力していきたいと考えております。

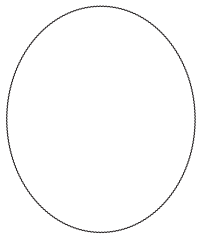
さて、ロコモの話ですが、昨年は、ロコモ認知度日本一に返り咲き、夢が叶いました。更に昨年は、宮崎県の行政と宮崎大学、それに県医師会の三者が中心となって、ロコモ協議会が設立され、県内の行政代表、各医療福祉関係団体の代表、及びマスコミ関係の代表と31団体が県医師会館に集まり、3回に渡ってロコモ対策についての協議を致しました。会長は、県医師会理事でもあります宮崎大学教授の帖佐悦男先生です。それぞれの分野の方々が今まで行ってきた要介護状態への予防対策にプラスして、ロコモ予防体操ロコトレを取り入れ、宮崎県を「健康寿命日本一」の県にしようという目標を掲げています。

H25年のデータでは宮崎県の健康寿命は女性75.37歳で全国第4位、男性は71.75歳で第8位です。男女ともに日本一の山梨県との差は女性0.41歳、男性0.77歳で差は僅かです。子供からお年寄りまでの広い年齢層に対して、又広い宮崎県の地域をカバーすることに対しても県下に展開している病院、診療所は大きな力になり得ると思います。

県医師国保組合は秦理事長の御指示により3年前よりロコモ予防問題に取り組んで参りました。今年は更に会員先生方のご協力を仰ぎ、各専門科の先生方が関わっていらっしゃる患者さんに対して、診療にプラスしてロコトレを指導して頂くことにより、結果として健康寿命日本一が達成できれば良いという実現可能な夢を抱いております。皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

最後に私事ではありますが、今年はひと味違う「夏のしまなみ」を楽しみにしております。

どうぞ、今年もよろしくお願い致します。



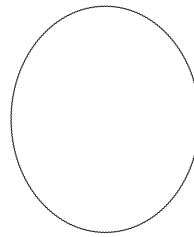
皮膚科医会長  
成 田 博 実

新年あけましておめでとうございます。

高額ながん治療薬オプジーボが話題になっている。免疫チェックポイント阻害剤のひとつで、天野正宏宮大教授が宮崎県医師会医学雑誌で、「進行期悪性黒色腫に対する新規薬物療法」の総説(宮崎医会誌, 2016; 40: 7-14)で詳解された。発売時の適応症は発症数の少ないメラノーマのみであったが、一昨年12月に肺がんへの適応拡大となり、数万人規模の患者さんが使えるようになった。腎細胞がんにも適応拡大し、使用量はさらに増える勢いである。一人年約3,500万円かかるので、医療費の高騰は避けられない。「医療費亡国論」が過去に一世を風靡したが、今「薬剤費亡国論」が識者の間で危機感を募らせている。国会でも塩崎大臣がオプジーボやメラノーマというタームを使って答弁していた。国が薬価を下げすぎると、ルールに則って薬価を申請したメーカーは、新薬開発への投資ができなくなると国を訴えるかもしれない。薬価制度の見直しや適正使用のガイドラインが必要になる。効果はあくまで延命なので、費用対効果の評価も考えなくてはならない。11月16日厚労省は50%引き下げ案を中医協に提示し、了承された。

昨年は皮膚科医会にとってうれしいニュースがあった。出盛允啓先生が、土呂久鉦山ヒ素公害の検診、研究を40年以上続けた功績により、第44回医療功労賞を受賞された。認知度は低いが国内4番目に認定された公害病で、後遺障害や悪性腫瘍の合併もあり、宮崎県の医療人として知っておかねばならないことで、啓発するのにいい契機となった。

医会活動として今年も、皮膚科PRのためのポスターづくり(新年度で28枚目)と皮膚の日講演会(27回目)を予定しており、県医からの補助金を活用したい。医会としてインパクトのある活動を目指す所存である。



泌尿器科医会長  
中 山 健

新しい年を迎え、まずは皆様に新春のお慶びを申し上げます。

昨年は3年連続の日本人ノーベル賞受賞が国内を湧かせました。医学生理学賞を受けられた大隅先生は「オートファジー」の仕組みを解明されましたが、氏以外に「PD-1」の本庶先生、「制御性T細胞」の坂口先生、「EPR効果」の前田・松村先生らも候補者に挙がっていたようで、我が国のこの分野のレベルの高さが世界に示されました。とくにPD-1の発見は免疫チェックポイント阻害剤の開発につながり、いまやがん治療第4の選択肢としての位置を占めつつあります。昨年8月には「根治切除不能または転移性の腎細胞癌」の効能・効果も追加承認され、なお適応疾患が拡大されています。もっともこれら諸氏の研究はいずれも20~30年を要したものであり、今後はどうなるのか文科省による国立大「運営費交付金」減額などの現状に鑑みいささか不安を覚えます。ちなみに英教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)による昨年の世界大学ランキングによると、日本の大学はアジア首位を逃したようです。

さて医政に関しては、来年度の診療・介護報酬の同時改訂に向けて風雲急なる折柄です。人口の大変動が起こる2025年にそなえ、地域医療構想、地域支援事業、在宅医療支援等を見据えた地域包括ケアシステムの構築は、地域医師会が自治体や多職種と協働して進めるのが当然であり、会員一同大きな関心を持ち続けるべきと思います。

酉年にあやかり、良き飛び立ちが計られることを祈念する次第です。



産婦人科医会長  
濱 田 政 雄

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、消費税増税延期決定のあおりを受けて、医療福祉に向ける財源確保がなされず多くの施策が後退・足踏みし、今年も引き続きその流れの中での医療福祉となります。

さて、一億総活躍社会政策の三つの柱の一つに少子化対策《夢を紡ぐ子育て支援》があります。緊縮予算の中から医療設備等施設整備費補助の中で、小児・周産期医療施設整備費事業として10億円が予算化されています。周産期医療施設補助の例として必要な医療器機(母体胎児監視装置・保育器等)が上げられています。これらは人口急減・超高齢化に対する少子化対策の一環です。また地域の分娩取り扱い施設整備事業としても2億円が要求されており、地域のニーズに応じた分娩取り扱い施設確保推進として、新規開設が支援されます。県内産科有床診療所の減少に歯止めをかけて産科難民を防ぐべく補助事業を有効に活用しなければなりません。《夢を紡ぐ子育て支援》の中の取り組みとしては、希望出生率1.87達成が謳われていますが、その場合の宮崎県の出生数は2040年6,000名(現在一万名弱)になると推計されています。2.07を目指す施策の構築が期待されます。平成30年3月の医療整備計画見直しの中で宮崎県周産期医療体制のあり方を前向きに打ち出さなければ、少子高齢化に歯止めは掛かりません。

《夢を紡ぐ子育て支援》の一環として、子育て世代包括支援センター法制化もなされました。現在行われている様々な妊娠期から子育て期にわたる支援についてワンストップ拠点《子育て世代包括支援センター》を立ち上げて切れ目のない支援を実地することが目的です。その中で、産後ケア事業が新規採用され産褥婦の心身のケアや育児サポート等として、産後2週間・一ヶ月健診への補助が開始されます。早めの支援によるうつによる産婦の自殺や児童虐待の予防が視野に含まれます。安心安全な出産子育てに向けての新たな取り組みの一步です。産後うつ等に悩まれる女性支援は行政と精神科との連携事業となりますが今からの協力体制構築が今年の仕事始めです。



眼科医会長  
柴 田 博

新年明けましておめでとうございます。われわれ眼科医療分野における、昨年の主な話題や問題点を述べてみます。

1. 「公的な、成人の目の健診プログラムの創設」

緑内障は中途失明者の第一の原因であります。その防止の為、緑内障の早期発見・早期治療をする事が大切です。そこで、緑内障の健診に関する研究に3,000万円の科研費がつかしました。そして、すでに緑内障の健診をしている仙台、松江、世田谷の3市で費用対効果のモデル事業が始まりました。3年後には、その結果が報告されます。

2. 「コンタクトレンズ処方箋の法制化」

印象的な目元を作る『目ヂカラメイク』が女性に大流行しています。そんな中、眼科医の関与なしに、粗悪なカラーコンタクトをインターネットや雑貨店で購入し、不適切に使用する結果、角膜障害の症例が増加してきました。この防止の為、コンタクトレンズ処方箋発行を法制化し、眼科医がユーザーとの間に介在するのが有効だと考えております。

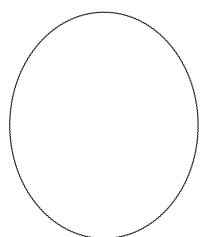
3. 「診療報酬について」

白内障手術についての減点阻止、眼科基本検査のマルメ化阻止が大切であると考えます。

抗VEGF薬の薬材料の増加は他の眼科医療費の削減要因になります。その対策として、安価な抗VEGF薬(アバスタチン)の患者申出医療を用いるのが良いと考えております。

また、周術期の予防的な抗生剤の使用は必要性があり、使用したものは認められるべきと考えております。医学管理料が眼科にないのは遺憾に思うところです。

以上、これらの解決には、政治活動が必要であり、活動なくては医療政策は進まないということで、連盟に加入して今後の医療政策に反映させたいと思います。眼科で、政治力で動いた事例は、①ビジョンバン(眼科検診バス)の実現、②学校での色覚検査の復活、③診療報酬の実績でした。

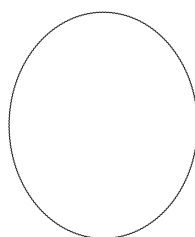


耳鼻咽喉科医会長  
井 手 稔

新年あけましておめでとうございます。謹んで初春のお慶びを申し上げます。

日本専門医機構は「新たな専門医養成の仕組みによる専門医制度の運用」の全体的な開始を2018年度に延期しました。その中で2017年度から、日本耳鼻咽喉科学会、日本小児科学会、日本病理学会は「暫定プログラム」を使い、日本整形外科学会、日本救急医学会、日本形成外科学会は「暫定プログラム」と現行プログラムを併用して、新専門医制度の運用を開始します。日本耳鼻咽喉科学会ではすでに「暫定プログラム」による88の「2017年度耳鼻咽喉科専門研修プログラム」を公開しています。専門研修プログラムの基幹施設のほとんどは大学病院ですが、その連携施設として532の病院が登録されています。2017年度の耳鼻咽喉科専門研修プログラムへの募集は既に各研修プログラムの基幹施設が独自に行っています。また、2016年度から新基準を基にした移行措置により耳鼻咽喉科専門医の認定更新が開始され、更新基準が変更となっています。まず、診療実績の証明として、年間40症例(1症例/週)の耳鼻咽喉科疾患症例を報告します。さらに専門医共通講習や耳鼻咽喉科領域講習などの各種学会講習会の参加が求められています。種々の講習会に単位が決められ領域ごとに最小単位最大単位が決められています。新専門医制度では更新においても、より厳しく複雑になっています。

最後に、宮崎県医師会の先生方には、本年も宜しくご支援、ご指導お願いいたします。

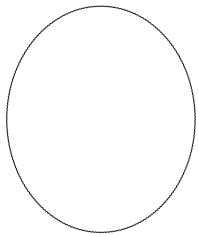


精神科医会長  
吉 田 建 世

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

最近、高齢者の交通事故の報道が特に多いように思います。マスコミもあえて取り上げているようにも思えます。高齢者の事故は、最近の高齢化に伴い増えてはいますが、急激に増加したものではなく、宮崎市高千穂通の事故をはじめとする認知症が疑われる人の事故が問題になっていることが原因です。そこで国は、今年3月に改正道路交通法を施行します。75歳以上の人には、3年ごとの運転免許証更新時に、必ず筆記式の認知機能検査を受けることになります。また、75歳以上で一定の違反行為(一時停止違反、信号無視等)をした人には、3年を待たず臨時の認知機能検査を受けることになります。結果、「認知症のおそれ」がある人は、医師の診断を受けることになります。現在、その医師の診断書の形式や検査内容が検討中ではありますが、予想では項目が多く、画像診断も加えられて、複雑になりそうな感じであり、そうになると、一般診療医では診断書の作成が難しくなり、精神科医や神経内科医などの専門医の負担が増すばかりで、実態にそぐわないものとなることも予想されます。検査内容が簡素化されないと診断書作成が滞ることは明白であり、今後、厚労省を含めた国の対応を望むところです。

最後になりますが、今年の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



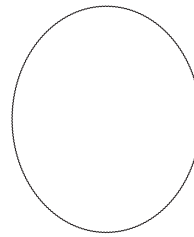
放射線科医会長  
平 井 俊 範

新年明けましておめでとうございます。

年頭の所感にあたり、画像診断の近未来について述べてみたいと思います。画像診断は大きく変わると考えられます。まず、CTはテレビのハイビジョンのように小さなものが鮮明にみえる高分解能化が進みます。脳の穿通枝や肺の微細構造も同定できるようになり、治療に有用な情報を提供するでしょう。次に、元素が判別できる高機能化も起こります。例えば、結石の成分判定、造影剤と石灰化や出血との鑑別、肺塞栓症における肺血流評価などが容易にわかるようになり治療に有効と考えられます。また、低被曝化技術が進み、肺のCTは胸部X線写真2枚程度の被曝量で撮像が可能になるでしょう。次に、MRIは現在、定性的な画像が主流ですが、測定可能な定量画像が主体となっていく、高磁場化・高機能化も進むでしょう。最近登場したsynthetic MRIは一度5分程度画像データを収集するとそのデータからT1強調像、T2強調像、FLAIR像、STIR像など多くの画像を再構成してくれます。かなりの時間短縮になります。

それから、現在社会的に大きなインパクトを与えつつある人工知能(AI)ですが、画像診断の分野にも入ってきます。昨年12月に開催された北米放射線学会では初めてAIによる画像診断のデモンストレーションがありました。IBMのワトソンが病歴と画像を同時に解析することで診断をするというものでした。まだ、初期的な段階ですが、そう遠くない将来には画像診断医の補助をするようになるでしょう。

以上、画像診断に関する近未来を簡潔に述べさせてもらいました。本年も皆様のご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



東洋医学会長  
川 越 宏 文

あけましておめでとうございます。

旧年中は私たち宮崎県東洋医学会に対してご厚情賜りましてありがとうございます。

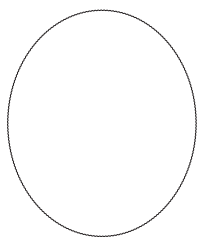
昨年も会員各位の臨床能力の向上と県民の皆様への東洋医学の正しい知識の普及をめざし、活動して参りました。延岡では石内先生を中心に県民漢方講座が開催されました。地元の医師会の皆様、メディアの皆様ののおかげで集まった150名を超える参加者の皆様に、講師を務めて頂いた地元の石内先生、宮本先生、甲斐原先生、大重先生の4名の先生方の熱弁がきっと心に響いたことでしょう。

医師向け講演会として3月に日本東洋医学会の石川友章前会長に来宮いただきました。精神科・神経症領域の漢方治療の講義を賜り、会の終了後には学会中枢部のコアな情報も頂きました。一昨年の「漢方保険外し」の時の問題点も整理。その中で超党派の生薬議連の事務局として活躍頂いた松下新平参議院議員や本会の初代会長・故井上博水先生と深いつながりのあった衆議院の古川禎久議員には大変なご尽力を賜りました。日本東洋医学会としても大変感謝しているそうです。我々もこれらの先生のお力もお借りして理想の医療を求めています。皆様のおかげでどうにか回避した保険外し問題も、昨年11月発表の財務省資料で再度狙上に上がりました。漢方全体が対象ではなく、葛根湯や防風通聖散などの市販品で同等品がある処方ピンポイントで狙われています。

整形外科等で肩こりに用いられている葛根湯やこむら返りで用いられる芍薬甘草湯もターゲットになりそうです。このまま保険削除された場合、「漢方はあまり使わないが、少しは使っている」という先生にとっては根元に水になりかねません。

さて、3月25日には総会と学術講演会を予定します。会場は昨年と同じ、講師は麻生飯塚病院で活躍する若手のホープである土倉先生を招聘予定です。是非ご参加ください。

今年も東洋医学会を宜しくご指導くださいませ。



透析医会長

藤 元 昭 一

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は会員の先生方には色々とお世話になり、厚く御礼申し上げます。

昨年は4月に最大震度7の熊本地震があり、熊本県内の約1/3の施設では透析が不能となったとのことでした。当医会の皆様も、他人事ではないと思ったことでしょう。透析不能の主たる原因は、水要因(断水、水質汚濁)だったとのこと。被災していない県内施設での依頼透析がスムーズに行われ、翌日には厚生労働省から熊本県医療政策課に透析施設に優先的に給水を行うように指導があったとのこと、3日以上透析のできなかった患者は皆無だったとのことでした。

宮崎県透析医会でも約8年前より災害対策(特に南海トラフ地震)が議論され、幾つかのことが盛田理事を中心に行われてきました。①宮

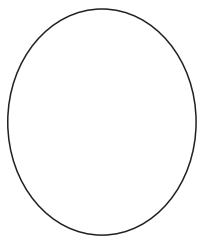
崎県防災メールを利用した透析メール(透析医療関係者、透析患者とその家族が登録)、②宮崎大学医学部医療情報部運営の「はにわネット」を利用した透析条件のデータベース化、③水・電源・患者輸送問題などの対策のための行政との連携作り、などです。熊本県に勝るとも劣らずの準備状況とは思いながらも、津波対策はあるのか、県外との移動が厳しい地形的問題はどうかなど、安心はできません。当医会ではホームページ(<http://miyazaki-hd.com/>)を立ち上げており、災害時情報ネットワークとして役立つものと考えています。

今後も、災害対策として共有できる問題に対しては、本ホームページを通して、他の医会の皆様と一緒に、解決の方向を模索できればと願っています。本年も当医会へのご指導とご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

米澤	岩村	佐々木	佐藤	川野	蜂松	石川	高村	佐々木	金丸	池井	荒木	小牧	吉田	立元	濱田	富田	河野	
勤	威志	究	信博	啓一郎	俊夫	智信	一志	幸二	吉昌	義彦	早苗	斎	建世	祐保	政雄	雄二	雅行	
										事務職員一同			監事					
宮崎県医師会												小牧	中村	赤須	嶋本	帖佐	花田	糸数
												文雄	周治			悦男	武浩	智美

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

## 年 頭 の ご 挨 拶



宮 崎 県 知 事

河 野 俊 嗣

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

宮崎県医師会の皆様には、日頃から県政の推進につきまして温かい御支援、御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、昨年は本県にとって長年にわたる取組みの成果が現れた年となりました。東九州道がついに北九州市まで繋がり、本県初となるスマートインターチェンジが開通するなど、交通インフラの整備が大きく前進しました。また、スギ素材生産量が25年連続日本一、本格焼酎の出荷額も2年連続で日本一となりました。さらに、宮崎キャビア1983が、昨年の伊勢志摩サミットで世界の首脳に提供され、輸出体制も整うなど大きな成果が花開きました。

加えて、「記紀編さん1300年記念事業」の集大成の年であり、東京オリンピック・パラリンピックが開催される平成32年に国民文化祭の開

催が内定しました。

今、本県に吹いているこのチャンスの風を捉え、さらに宮崎から新たな風を巻き起こす気概を持って、県民の皆様とともに、将来に夢や希望を持てる地域づくりを進めてまいります。

一方、医療分野につきましては、昨年10月に地域医療構想を策定することができました。今後は、各構想区域で開催される調整会議において、地域にふさわしいバランスの取れた将来の医療提供体制について協議していくとともに、その実現のため、地域医療介護総合確保基金を効果的に活用しながら、県医師会をはじめとした関係団体等と連携し、取り組んでまいりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

新しい年が、皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。年頭の御挨拶といたします。

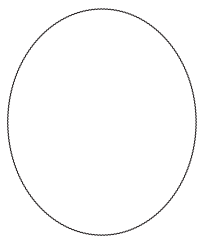
謹んで年頭の

ご挨拶を申し上げます

宮崎県医師協同組合

理事長	富田雄二
副理事長	立元祐保
専務理事	吉田建世
理事	橋口典久
理事	佐々木幸二
監事	石川智信
〃	桑原正知
事務職員一同	

## 年 頭 の ご 挨拶



宮崎大学長

池ノ上 克

明けましておめでとうございます。

宮崎大学では、昨年4月にスタートした地域資源創成学部が、地域の皆さんから多くのご支援をいただきながら、順調に活動を続けています。昨年10月に開催した新学部の設置記念シンポジウムには各界から多数のご参加をいただき、地域における期待の大きさに身の引き締まる思いをしたところです。新年早々には、宮崎市中心部の若草通りの商店街に「まちなかキャンパス」をオープンし、宮崎大学の魅力ある様々な情報を分かりやすく発信していきたいと考えています。

大学キャンパス内には年間300人を超す留学生を受け入れています。グローバル化の進む現在の社会の変化をしっかりと捉えて、各国との交流を深め、ひいては宮崎大学や宮崎県の活性化につながる成果に繋げていきたいと思っています。

昨年8月に始めた「宮崎大学基金」の制度は、学生の教育や研究を強化するために、地域の皆様から支援していただくためのものです。力強い応援をいただきながら、地域の大学としての使命を果たして参ります。

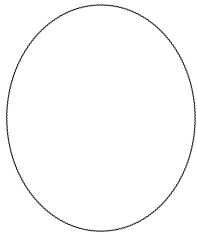
今年もどうぞよろしくお願いいたします。

宮崎県医師国民健康保険組合

事	〃	監	〃	〃	〃	〃	理	〃	常務理事	〃	副理事長	理事長
務		事					事		高		濱	大
職	山	棚	花	糸	佐	川	高	佐々木	高橋	田	坪	秦
員	路	田	田	数	藤	野	村	一	政	政	睦	喜八郎
一		敏	武	智	信	啓一郎	志	究	見	雄	郎	
同	健	文	浩	美	博							

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

## 年 頭 の ご 挨拶



衆議院議員（1区）

武 井 俊 輔

新年明けましておめでとうございます。宮崎県医師会の先生方におかれましては、健

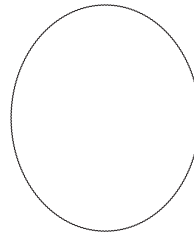
やかに新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。また、常日頃より本県の医療の充実ならびに県民の皆様の健康増進にご尽力いただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

また、本県の重要課題である医師不足を解消すべく、各地で説明会や交流会等を開催するなど、医師確保のため最前線でご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。政府・与党といたしましても、医師の診療科目別・地域別の偏在を是正するため、医療に携わる人材や高度医療機器等の医療資源を確保するとともに、その適正配置を図り、地域で必要な医療を確保すべく取り組んでおり、医師会の先生方、国民に安心していただける医療制度を構築しているところでもあります。

さらに、介護人材の確保を図るため、介護職員の再就業支援や、介護福祉士を目指す若者への助成による支援などを行ってまいります。介護環境の整備によって、医師会の先生方がスムーズに診療を行っていただけるよう社会保障の拡充に尽力してまいります。

今後も、医師会の先生方の指導を仰ぎながら、本県の医療の更なる充実に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、今年一年が皆さまにとりまして素晴らしい年になるよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



衆議院議員（2区）

江 藤 拓

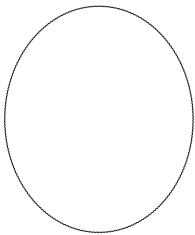
謹んで初春のお慶びを申し上げます。宮崎県医師会の先生方におかれましては、ご壮

健で良き新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より温かいご支援とご指導を賜り心より感謝申し上げますとともに、本県の医療の充実ならびに県民の皆様の健康増進にご尽力いただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

昨年10月、本県において地域医療構想が策定されました。この地域医療構想は、いわゆる「団塊の世代」が全て75歳以上となる平成37年を見据え、病床機能の分化及び連携を推進し、患者に応じた質の高い医療を効率的に提供していくという将来の宮崎県における地域医療の姿を示そうとするものです。地域医療構想の策定に当たりまして、既に県内各医師会の先生方からの並々ならぬご協力を賜っておりますが、引き続きご指導をいただきながら、地域医療介護総合確保基金等を通じ、県民の皆様が身近な地域で安心して医療を受けられる体制が整備されるよう、私といたしましても、全力を尽して参ります。

また、こうした地域ごとの医療提供体制を構築するには、バランスのとれた医療従事者の確保や医業経営の安定化に向けた取組みもとても重要と考えております。医療従事者の皆様の勤務環境の改善や医師の地域偏在、小児科や産科等の不足といった課題のほか、医療機関の控除対象外消費税の問題解決を含めた医療機関の経営上の課題にも、引き続き取り組んで参ります。先生方には今後ともご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、宮崎県医師会の益々のご発展と先生方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



衆議院議員（3区）

古 川 禎 久

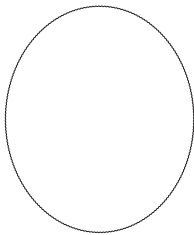
新年明けましておめでとうございます。宮崎県医師会の先生方におかれましては、良き新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。平素より、県民の皆様の健康増進や地域医療に、献身的にご努力されておりますことに深く敬意を表します。そして昨年の4月に発生した熊本地震では、災害医療チームとして、多くの先生方が救援活動にご尽力されたと存じます。心より感謝申し上げます。

高齢化が急速に進展する我が国においては、医療・介護を取り巻く環境は大きく変化しています。医療分野では、長期の療養を必要とする患者が増えております。介護分野でも、要介護者や認知症高齢者が増加しており、これらの対策は政府の大きな政策課題となっております。

このような状況の中で、いつでもどこでも必要な医療サービスが受けられる医療体制の確立を基本理念に、宮崎県で地域医療構想が策定されております。また、医師会の先生方が中心的な役割を担われ、地域包括ケア体制が整備されつつあります。地域の医療現場を熟知しておられる医師会の先生方と関係機関が医療及び介護の連携を着実に進める中で、県民の皆様が地域に根ざし、住み慣れた環境で将来にわたって安心して良質な医療サービスを受けられる社会が構築されていくものと考えます。

また、医師をはじめとする医療従事者の地域偏在や小児科、産科等の医師不足といった問題の解決も極めて重要な課題であります。私も、先生方のご指導を仰ぎながら、世界に誇る国民皆保険制度を堅持し、宮崎県の医療環境充実のため、全力を尽くして参ります。

終わりに、宮崎県医師会の益々のご発展と先生方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。



参議院議員

松 下 新 平

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

宮崎県医師会の先生方におかれましては、日頃から、県民の健康を支え、福祉の向上にご献身いただいておりますことに、深く敬意を表し、厚く御礼を申し上げます。

さて、本年も、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、日本の医療・介護を「地域完結型」の方向に変えていくための重要な年になります。患者の方が急性期や回復期等のそれぞれの状態に相応しい良質かつ適切な医療・介護を効果的かつ効率的に受けることができるようにする取組みが本格的に始まります。

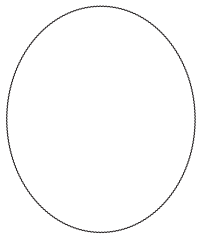
私自身も総務副大臣の経験を踏まえて、引き続き、医師確保対策については、地域医療介護総合確保基金の地方負担に対して地方交付税措置を活用して医療従事者の勤務環境改善に取り組んで参ります。又、都道府県が実施する医学部生等への奨学金貸与事業や、公立病院の他の病院からの医師派遣経費等に特別交付税措置を講じており、引き続き積極的に医師確保対策に取り組んで参ります。

さらに、地域における医師不足が深刻な状況にあることを踏まえ、今後とも、医師確保の取組みについて適切に支援して参ります。

情報通信分野では、モバイル端末をセキュアな環境の下で医療連携や遠隔医療に応用できる可能性や、8K技術が医療の質の向上に寄与する可能性について、実証等を通じて検証していくことへの提言を踏まえて、モバイル端末や8K技術の遠隔医療などへの活用のあり方をしっかりと検証し、地域医療をとりまく課題解決に向けて、ICTの利活用をより一層推進して参ります。

これまで同様、参議院議員武見敬三先生が会長をお務めの医療政策研究会の一員として汗を流して参る所存です。

最後に、宮崎県医師会員の先生方の本年の御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



参議院議員

長 峯 誠

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

宮崎県医師会の先生方には、

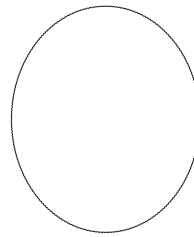
日頃から温かいご指導を賜り、心から感謝申し上げますとともに、県民の皆様の健康の増進と地域医療の確立のため、ご尽力いただいておりますことに深い敬意と感謝を申し上げます。

まず、今年は、地域医療構想の実現に向けた取組みを具体的に進める年です。構想の策定過程で明らかとなった課題に立ち戻り、地域医療構想調整会議において、地域の医療提供体制をどうしていくのか、関係者のみなさんと協議を行うことが期待されます。

また、今年は、平成30年度から始まる医療計画を策定する年です。介護保険事業計画と医療計画が、同じサイクルで策定されることとなります。これらの計画が実質的な地域包括ケアシステムの構築に向けた計画となります。医療計画で定める在宅医療の目標が、各市町村が介護保険事業計画で掲げる在宅医療・介護サービス等の目標と整合性が図られたものとなるよう、都道府県と市町村が協議の場を設け、しっかりと検討をすることが重要と考えております。

県民の皆様が身近な地域で安心して医療を受けられる体制を整えるべく、引き続き全力で取り組んでまいります。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後に、宮崎県医師会の今後ますますのご発展と会員皆様のご健勝を祈念して、私の挨拶といたします。



参議院議員

羽生田 俊

あけましておめでとうございます。

会員、ご家族の皆様におかれましては、つつがなく新年

をお迎えのこととお慶び申し上げます。また日頃より、献身的に地域医療の充実に取り組んで頂いておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は夏の参議院議員選挙において、皆様のお力添えのもと、自見はなこ先生が当選を果たされ、9年ぶりとなる日医組織内推薦候補が裏表2名揃いました。

また、私は参議院厚生労働委員長を賜り現在委員会運営の長として厚生労働委員会を任される立場となり、その重責に改めて身の引き締まる思いと、平素よりお支え頂いている皆様へ感謝の思いを強くかみしめている所であります。自見先生も厚生労働委員会へ所属する事ができ、活躍を期待しています。

本年は医療保険制度改革を控えており、医療人にとって信じられない様な民間議員の勝手な発言が繰り返されることが予測されます。

財政論のみによって医療・介護を語り、財政削減が美德の様に改革の旗印となりかねません。

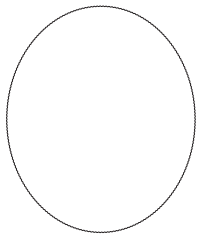
受診時定額負担やOTC化された医療用医薬品に係わる保険外し、介護療養病床の廃止など、患者にとっての医療は棚の上に置き去りであります。

また、来年度には診療報酬・介護報酬の同時改定が控えており、また政府の掲げる「3年間で自然増を1.5兆円に抑制する」という最後の年となります。

その超過分の帳尻合わせを同時改定に持ち込んでくる可能性が大いに懸念されます。

財政論によって医療・介護を小さくさせてはなりません。

患者にとって安心して医療を受けられる体制、そして医療者が安心して医療提供出来る体制の構築を皆様と共にしっかり守って「すべての人にやさしい医療を」充実して参る事をお誓い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



参議院議員

自 見 はなこ

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、希望に満ちた格別な新春をお迎えのことと存じます。

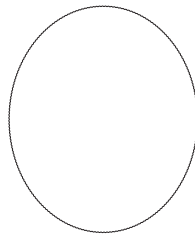
日頃より河野雅行会長はじめ宮崎県医師会の先生方におかれましては、地域医療の要となりお支えくださっておりますことに心より感謝申し上げます。

昨年は、宮崎県各地を回らせていただき地域医療の実情を御教授いただき誠にありがとうございました。そして7月には先生方の力強いご支援のおかげで参議院議員選挙初当選させていただきました。更に9月からの国会では医療系議員第一位の得票数であった実績が後押ししてくれまして競争率の高い厚生労働委員会に所属することができました。これもひとえに日常の診療のご多忙の中、医師会活動、加えての医師連盟活動にご尽力くださっている先生方の御蔭でございます。

厚生労働委員会では、社会保障制度の課題の多岐にわたり日々真剣な議論を重ねております。また、早速、厚生労働大臣等に対してかかりつけ医の重要さや専門医の仕組みの構築にあたり医療提供体制の維持に十分に配慮をすることを訴え医師のキャリアデザイン等に関して質問させていただく機会を頂戴することもできました。加えて自民党では12月に税制や予算大綱の場でも発言をさせていただきました。

厚生労働委員長となられた羽生田たかし先生とともに広く国民の皆様にお役に立つようにお仕事をさせていただくことが、皆様方への何よりの恩返しと思っています。誠心誠意取り組んでまいりますので、なお一層のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

末尾に、本年の宮崎県医師会の皆様とご家族のご健康ご多幸、そして貴会の更なるご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



県議会議員

清 山 知 憲

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

宮崎県医師会の先生方におかれましては、日頃より厚いご支援とご指導を賜り心より感謝申し上げます。

先日、河野会長、小牧常任理事とともに県知事、県議会議長に対しまして医療従事者確保事業(看護学校運営補助など)を継続して行うための財源確保を要望させていただきました。看護師、医師の不足は全県的な課題であり、財源が厳しい中においても県民の皆さんの命や生活の質へ直結する課題だからこそ適切な優先順位がつけられていくよう求めてまいりたいと思います。

また、上記の要望を行った同日、県の雇用労働政策課、学校政策課、医療薬務課、病院局の4者に集まって頂き、臨床研修医の確保に向けた協議を行いました。宮崎県内の研修医の数は一時期の最悪の時期からは脱したものの、依然として県の人口規模に見合う数の研修医確保には至っておりません。平成28年度のマッチ者数は県内60人、隣の鹿児島県は120人でした。この対策のためには、雇用労働政策課、教育委員会、そしてもちろん病院局の強力な取組みが不可欠で、部局横断的に推進して参りたいと考えております。

その他、県議会では数多くの医療関係議案が審議されております。ただ、現場の先生方のご意見が圧倒的に足りないとも感じております。どうかご地元の県議、もしくは私を通して地域のご意見、そして医師としてのご意見をお寄せいただければ幸いです。

結びに、県医師会の益々のご発展と先生方のご健勝を心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

## 新春随想

(その1)

新春の随想を募集いたしましたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございます。1, 2月号にわけて掲載させていただきます。

### いつの間にか『20』から『26』へ

宮崎市 谷ロレディース たに ぐち じ ろう  
クリニック クリニック 谷 口 二 郎

「うるさいわね！何でこんなに大きくしなきゃいけないの。いつも『20』までと言ってあるでしょう。今何と『26』にもなっているわよ」。家内が大声で私に怒鳴る。実は食事をしながらテレビを観ている時、よく聞こえないので、ボリュームを上げるのだ。誰もいない時は、これ幸いにいつもよりボリュームを上げる。

ボリュームを上げると、画面右下の所にボリュームの数字が表示される。今までは『20』で充分だったのだが、今それでは少し聞こえにくい。それでもうちの家内から「テレビを観る時は『20』までにしてね。それ以上だとうるさくて仕事も出来やしない」と愚痴られていたので、何とか『20』で我慢していたのだ。

自分では耳は良い方だと思っていた。音楽が好きなので、音には敏感だと思っていたのだが、ここ数か月のうちに聴力が落ちてきたらしい。20年位前、母が元気だった頃、実家に帰り玄関のドアを開け中に入ると、母はテレビを観ていた。その音があまりにも大きくてびっくりしたのだが、今やそれが自分の番になってきたということだろう。

家族も私がテレビを点けるとス〜ッと居なくなる。やはりテレビの音がうるさくて落ち着か

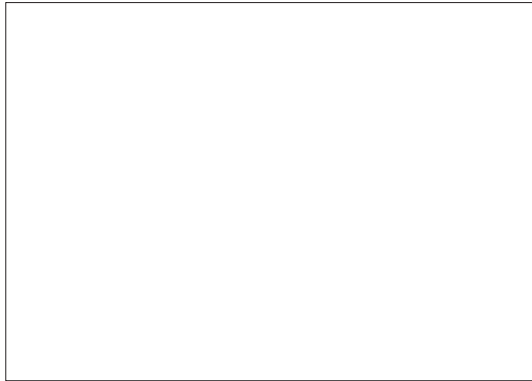
ないということらしい。そんなことが続いたので、少し気落ちしていた。

そんなある日、近くの家電量販店に行ったら、レジの横に小さなラジオが置いてある。その前に液晶テレビがあり、どうやらその音がラジオから出ているようだ。それを手に取ってみるとそれはラジオではなくテレビ音声専用の受信機であることが分かった。掌に乗る位の大きさである。しかし問題はテレビ以外の音も拾えるかどうかということである。というのも、私はテレビそのものを観ることは少ない。いつも録画してテレビ番組を観るのである。そうすればいつでも好きな番組を観られるからである。それも可能かどうか尋ねると、それも可能だという。

値段は1万5千円。まあいい値段である。ちょっと高いなあ…。迷うなあ…。レジの前を2〜3度行ったり来たりして考えた。しかしテレビを点ける度に「うるさいわね！」と言われることを考えると、まあ安いのかもしないと早速購入した。

スキップでもしたいような気持で帰り着き、早速開けてみた。本当にちゃんと使えるのだろうか？半信半疑だったがちゃんと使える。その機械はリビングルームのテーブルの上にドンと置かれ、私は満面の笑顔を浮かべ、テレビを観ながらゆっくり食事が出来る。『これでようやくお年寄り扱いにされないで済む』。そのプ

ライドをこの機械が守ってくれているのだ。  
『ああ有難や、有難や…』。



## 更年期と村上春樹

日向市 なでしこ内科 いし わた まさ こ  
石 渡 正 子

年女ということを書かせていただきます。日向市にお世話になって約8年が経ちます。

2歳の息子とカナダ人の夫と越してきました。“宮崎牛が美味しいね、何があっても宮崎だったら美味しいものが食べれそうだね”の一言で住んでみることにしました。天草育ちの私ですがこれほど言葉が違うとは！と最初はびっくりしましたが、だんだん言葉としてからだに入ってくるようになり，“よだきーね”“そりゃでーじゃわ”と気持ちを込めて話している自分に気づきます。息子も心なしか日向イントネーションの英語を夫と話していたりして、心温まる思いがします。

グローバル化、個性尊重、ボーダレスなど、西欧(特にアメリカ)の風が吹き付けるこの頃ですが、やはり顔を見てのコミュニケーションが一番心に響くかなと思います。内科を経営して

いますが，“お金がない”“仕事がない”“医者には座って話していればお金がもらえていいもんじゃ”などの声が聞こえる今日この頃です。熊本で地震が起き、日向でも50年に1度の大雨が2016年は降りました。東海地震は起こるから東京には出ない方がいいよと受験時は言われましたが、まだ幸い起こっていません。いろんなことは本当想定できないんだなと思います。

年女、50前、人生50年と言って信長は亡くなりましたが、私も無事そのお年ごろを迎えられそうで、感謝、感謝の気持です。患者さんの更年期の訴えに“全くその通りでございます”と納得します。プラセンタのポスターの更年期の症状が全て当てはまり、じゃあ打ってみようを始めました。60年前から保険が効いているなんて、ずっと女性はいろいろ困りつつ、生き延びてきたのだなと少し人類の歴史を感じてしまいます。

きっとまた更年期が明けたら、めまいもなく、イライラもなく、元気なおばさんに戻れると希望を持って生きていければと思う日々です。こんな私でも外来に来てくれる患者さんがいるなら今日もお店を開こうか、最近読むと心が落ち着く村上春樹さんのエッセイに元気をもらいながら。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 見果てぬ夢

宮崎市 山村内科 やま むら よし のり  
山 村 善 教

昨年6月16日の夜から夢を見始めた。その夜の講演会で札幌医科大学神経再生学部門の本

望修教授がDVDを供覧されたのを眼にしてから、果てしない夢と妄想と疑問が広がっている。そのDVDで眼にしたものとは、慢性心房細動で広範な脳梗塞をきたし右片麻痺と高次脳機能障害を生じた患者さんの骨髄液を採取し、その中に含まれる骨髄間葉系幹細胞を分離して、約2週間で約1万倍(約1億個)に培養して40mlのパックに封入した細胞製剤を30分～1時間かけて点滴静注すると翌日から完全麻痺した上下肢が動き始め、徐々に機能回復をするのみならず、高次脳機能も改善を示した実例と、頸髄損傷で完全麻痺した患者さんにも同様の治療を行うと歩行可能となった症例である。脳梗塞例では梗塞部位の改善状況の画像提示もされた。このDVDは10年前にNHKでも放映されたらしいが、何故か今まで話題にならなかった。昨年4月に大阪で開催された脳外科のコンgresで紹介され、脳外科の竹島教授が本望教授を宮崎に招聘されたとのことであった。

ここまで読まれた方には、おそらく私と同様の夢と疑問が広がり始めたことと思う。そして、このように夢みたいな素晴らしい話題なのに、この話を周りの友人たちにしても初耳のようで、昨年10月、熊本大学の同窓ゴルフコンペに参加したときの夜の懇親会でも話をしたが誰も知らなかった。あまりにも俄かには信じ難い治療法だから、迂闊に話題にしたら馬鹿にされると思って話題にならないのか? かくいう私も、信じたい気持ちと、もしかしたら…の気持ちがない交ぜになっていたので、9月2日の夜、『進行期パーキンソン病の治療～iPS細胞移植治療の話題を含めて～』の講演で来宮された京都大学神経内科の高橋良輔教授にお訊ねしたところ、「現時点ではRCT(Randaomized

Controlled Trial)がなされていないものの有効性はあると思います」と答えられたので意を強くして、ここに披露させていただくことにした。

本望教授のお話では今年中にも厚労省の治療承認が降りるかもしれないとのことであるが、患者さんを迎えるためにジェット機も用意しており、札幌医科大学構内には医療機器メーカーのニプロが細胞培養センターを建設したとのことであった。慢性期の症例にも有効なのかは不明だが、この治療法が確立して全国で展開されるようになると、毎年多数発生する脳血管障害や脊損の患者さんたちや、我々医療人にとっても朗報この上ない。ただ、気になるのはコストであるが、賢い日本人なら解決するであろう。我が愛読書であるジェフリー・ディヴァー氏の『リンカーン・ライム シリーズ』の主人公は頸損による四肢麻痺であるが、慢性期にも有効であれば、このシリーズも新しい展開を迎えることであろう。

燦然と 光輝く 未来かな 再生医療 夢は果てなく

## 新資本主義時代

延岡市 みやた内科医院 ^{みや}宮 ^た田 ^{じゅん}純 ^{いち}一

以前は学会に参加すると専門医の更新に必要な点数の登録に参加票を渡されていた。近年は学会が発行する会員証のカードで登録が終了する。紙の記録がないので点数が登録されたか不安は残るが、紙に日付の入った印鑑を押してもらう必要はなく便利になった。

医師を取りまく環境のコンピューター化(電子化)は目覚しく、最近IBMのパソコンのワトソンが血液疾患を診断し治療の成功につながったニュースが流れた。大病院は電子カルテとなり、診療所のカルテは紙でも保険請求は電子化されている。社会に目を向けるとAI(人工知能)による自動運転の自動車が開発されている。IoT(インターネット・オブ・シングズ)により物や人からデータが集められインターネットで共有されるようになった。これによりタクシー会社ではナビを組み合わせたタクシーの位置情報により客の需要に応じた配車が可能となった。Fin Techは金融とテクノロジーを合わせた造語であるが、フィンテックが進化するとオンラインの支払い、電子取引や電子マネーの流通が一般化していくと考えられる。このように電子化により人の作業が簡素化され便利になってきている。

ところで現代は資本主義の時代で工場やビルを所有する会社など大資本を持つ人が活躍する時代であった。しかし、世界中でインフラが整備され、インターネットで世界の情報が共有できるようになると物としての資本は必要なくなっている。代わってソフトウェアやシステムなど新しい技術を持った人が社会で活躍している。

このまま電子化が発展すればいわゆる資本(病院)を持たない開業医が増加していくことが考えられる。往診や遠隔診療による開業、画像診断会社による開業、診断や健康管理業務による開業など開業形態の多様化が考えられる。今後は医師会も医師会員は病院の院長や勤務医という概念を変えなければならない時代が来るかもしれない。

## ＜追悼＞

都農町 ^{なが}ながとも ^{とも}友 ^{じゅん}淳 ^じ司

新年早々、ふさわしい話題でないかもしれませんが、昨年はあまりにも惜しい方々が相次いで亡くなりました。

**David Bowie** 1977年「Heroes」を発表、“ベルリンの壁の下で落ち合う君たちはヒーローなんだ”と政治によって理不尽に引き裂かれた恋人達に心を寄せ、1987年にはベルリンの壁を背に野外コンサートを開き、敢てスピーカーを東ドイツ側に向け流しました。「壁の向こう側にいる私達の全ての友人達に願いを送ります。」と“Heroes”を歌いました。壁が崩壊されたのはその2年後でした。

**Keith Emerson** 「この深い苦境に勇敢に耐えている日本の皆さんに唯一私が出来ることはイギリスから“音楽”という手を差し伸べることだけです。強靱でそして美しい国、日本。桜が毎春必ず花を付けるが如く、皆さんはいつもいつの時でも家族や友人達に見守られていくことでしょう。皆さんはそんな方々の為に心を強く持ちお互いを助け合いながら歩いていくでしょう」5年半前に彼が日本に向けて発したメッセージです。こんなに日本を愛してくれていたキースが右手の神経障害のため満足に演奏が出来ないことを悩み、しかも日本公演の前に自ら命を絶ただなんて居たたまれません。

**Prince** 一昨年、グラミー賞のプレゼンターとして壇上に立ちスピーチしました。「アルバムって覚えてるかい？アルバムは今でも大事だ。本とか黒人の命と同じように大事なんだ」このコメントのようにネット化された音楽

状況、また病んだアメリカを憂っていました。ただ憂いてただけではありません。名前を出さないことを条件に色々な社会活動を支援していたそうです。没後、支援を受けた人達から明らかにされました。

Bono (U2) 談「モーツァルトには会ったことがない。デューク・エリントン、チャーリー・パーカー、エルヴィスにも。でも僕はプリンスに出会えた」。

R. I. P.

## 卒後50年のにわか健康志向

宮崎市 九州保健福祉大学 総合医療専門学校 たか さき ま ゆみ  
高 崎 眞 弓

九重山の最高峰・中岳で休んでいると、帽子にいっぱいバッジを付けた年寄りが登ってきた。岩の上にしっかりと足を置き、一步一步確実に登ってくる。見たところ私より高齢だ。早速、「すごいバッジですね」と声をかける。すると、帽子を取って「これね、利尻山、こっちは旭岳、これ槍ヶ岳」と始まった。「日本の山は大方行っちゃよ」。

話し終わると、ザックから三脚を取り出して写真を撮り始めた。シャッターくらい押してあげるのに、重い三脚を担いできたのか。それを見ながら、気になっていたことを聞いた。「歳、いくつですか」、「俺か、85だよ」。ウエー。

私が山登りを始めたのは、定年を迎える65歳

になってからだ。それまでは机の前に座って論文を書いたり会議に出たり、運動とは無縁の日々で、生活習慣病にまっしぐら。これでは駄目だと散歩を始めたが、ケージの中のマウスのように、同じところをぐるぐる歩いていても、つまらない。山登りのほうが面白そうだと始めたら、まだ続いている。

昨年の夏、医学部の同期生およびその仲間二人と富良野岳へ行った。当日は小雨模様であったが、北海道まで行ったのだから登り始めた。同行の同期生は、かつて地元の山岳会に入って活躍していたので、案内してもらったわけである。ところが、3分の2ほど登ったところで、「俺はここで引き返す、お前は頂上まで行ってこい」と言う。何も見えなかったが、私は頂上を征服した。彼は、私のような“にわか登山愛好者”ではない。若いときから山で鍛えてきたのに、なぜだ。

私は今年で医学部卒業から50年になる。同期会は毎年開催されているが、大学勤務の間はほとんど出席できなかった。だが、最近はときどき参加している。すでに亡くなった者もいるが、参加者は大方元気だ。その中でも特に元気なのがいる。血色もいい。私にはかつての散歩で時速6kmの歩行速度が身についているが、彼と歩くとそれより速い。時速7kmは出ている。私は尋ねた。「普段、何を食ってる」。すると、「野菜中心の食事になっている」と。そうか。か

カット

## 男 四十半ばにして、いざ聖地へ

宮崎市 いしかわ内科 ^{やま} ^だ ^{たく} ^や  
山 田 琢 也

年男で寄稿依頼頂いた。ここ 1, 2 年で(東大)赤門、マンモス(甲子園)という‘聖地’に遂に足を踏み入れた。医の道を志す前は進学先として父は東大を熱烈に望み、担任の恩師は懇切に京大推しでいて下さった。いずれも行かない(いえ行けない)のであるが、多士済々であった地元の小学、高校の同級生の内 2 名がこの東の聖地に進み、憧憬が残存していたのだろう。はからずも某学会の冬季セミナー会場として訪れる機会が巡ってきた。赤門にはある種の荘厳さと色気を感じた。受験生と思しき人達が記念撮影をしていたが、私も普段する事もない写真自撮りでもして父に送ってやろうかと思った位だ。

次は甲子園だ。高校野球好きの母の影響で小学生時から私もその魅力にはまった。NHKの島村俊治アナ、テレ朝の植草貞夫アナの名調子が好きだった。地方大会から新聞、週刊ベースボール増刊号、報知高校野球を読み漁り情報を年次蓄積させる。この夏、前泊の上、朝一で公共交通機関を乗り継ぎ早朝に着いたが既に絶望的な程の長蛇の列だ。待つ事 2 時間、第 1 試合の当日券は全て売り切れ。第 2 試合の追加販売を規制線の前で座り込み更に 2 時間待つ。駄目だった。もう今回はあかん。俺は一体何しに来たのだろう…とその時、神が降りたとはこの事だ。通りがかりの男性が入場券を譲ってくれた。対価は払った。奇跡的に入場できた。空席は無くラジオのイヤホンを片耳に突っ込み、立ち見だ。ブラバンの音響と歓声や拍手。第 3 試

合は球史に残る東邦-八戸学院光星戦だった。幾多の名選手、名勝負を生んだ舞台かと考えたら感極まり「ナイスゲーム」「有難う」と号泣、絶叫、連呼した。夢見心地だった。ちなみに私が生まれたのは、あの三沢-松山商戦の年だ。

真冬と真夏に訪れた東西の‘聖地’の興奮と熱狂は、九州そして宮崎が大好きな一人の中年男に鮮烈な記憶を刻み込んだ。皆様にとっての聖地はどの場所ですか？

## 論より証拠

宮崎市 ^{きよ} ^{やま} ^{とも} ^{のり}  
清 山 知 憲

政治の世界へ足を踏み入れると、KKO(勘、経験、思いつき)に基づく意思決定が大変重要な局面でなされていることに唖然とした。県議会の本会議場、委員会での議論を是非一度ご覧頂きたい。

もちろん臨床現場でもなお、自身の成功体験や様々なバイアス、相関と因果を混同することによる判断の歪みは絶えることがない。しかし少なくともそこには、正しい意思決定の方向性を指し示すテキストブックや、Pubmedを検索すれば弱いものから強いものまで過去20年以上のエビデンスの蓄積にアクセスすることができる。

医療費を適正化するための施策、子どもの学

力を向上させるための施策，地域の経済成長を促すための施策，子どもの貧困状態を改善させるための施策など，文字通り森羅万象の課題に対して政治・行政は分析・対策を練り，実行している。しかしその99%のものがKKOによる仮説に基づいたものであり，当然そこにはレトロスペクティブに検証可能なもの，もしくは他の施策と比較可能なものとするためのデザイン，そしてアウトカムの設定を行うという発想は存在しない。

ところが近年，こうした医療政策，教育政策，社会政策の分野でエビデンスの重要性を説く日本の識者が相次いで登場している。医療政策学者の津川友介氏，教育経済学者の中室牧子氏，統計家の西内啓氏。中室氏と西内氏は宮崎へ招待し講演もしていただいたことがあるが，それぞれ，「原因と結果の経済学」，「学力の経済学」，「統計学が日本を救う」といった近著でも素晴らしい知見を披露されているので，ぜひ一読をお薦めしたい。

エビデンスに基づく政策形成は，疫学の源流であるイギリス，そしてアメリカで生まれ，大きくなりつつある流れだが，疫学の祖である高木兼寛を輩出した宮崎県こそ身につけたい考え方である。私も微力ながら実践する立場の者として邁進していきたい。

カット

## 孫の便りにくるめく

都城市 安藤胃腸科外科医院 ^{あん どう けん いち} 安 藤 健 一

その日，孫からののがきが届いた。女房が手渡ししながら，顔には意味ありげな笑みを湛えている。久しぶりの便り。電話からメールへと変遷する時代にあって珍しくなった直筆の便りだ。「あなたが嬉しがる様なこと，書いてみたい…」，との声が続くかに思えたが，のがきを渡して自分の日常の仕事へ戻ってしまった。差出人は，確かに東京近郊に在住する小学六年の孫の名前である。あろうことか，裏返して目に飛び込んだ光景に，「これはどうしたことだ，これは何だ」と，頭が混乱した。驚きの視覚情報，その不意うちに一瞬たじろぎ，くるめく。色鉛筆と鉛筆に線で描かれた絵模様を認識したのだが，文章が見当たらない，文字が見えない。そう錯覚させる画像だったからである。そんな…，くらくらとした思考の定まらない状態から，ゆっくりと我に返った。一面の線描と軽いタッチで色づけされた抽象画っぽい絵模様は，何を伝えようとしているのか。めがねに手をかけ，長方形のがきを縦にもち直した。謎解きに挑戦すべく，今一度入念に覗きこんだ。上方の1/3に山の輪郭と「男体山」と記された小さな文字を読み取った。鉛筆書きが薄すぎる。中程1/3には水色に塗られた湖と船が描かれ，「遊覧船のにりました」との文が紛れ込んでいた。また，その左方には朱に立ち上がる火が，「キャンプファイア」と。下方の1/3には山あいの台地らしき鉛筆書きでの描写が，そこに，これも鉛筆で重ね書きされた「ここで歌いました」という文を判読する。フーと安堵して

一息ついた。

女房の意味ありげな笑みの正体はこれだったのか。孫からの便りと聞かされた途端、私は色めきたった。読む前から、ほどよいボリュームの文章を想像し、その内容に成長ぶりを目の当たりにしたいとの一心で、気持ちが高ぶり、逸った。「お元気ですか」、「もうすぐ修学旅行があります」、「弟も元気にしています」、「春休みにはみんなで都城へ帰ります」、「…」。

はがきを受け取る瞬間に、あまたの文面が駆けめぐるっていた。自分の子供と趣を異にして、孫は静かに見守っておれる存在だと思っていたのではない。今回のあわてふためいた顛末に少し気恥ずかしさを覚えている。何も、(認める)、(綴る)とか、しゃれた詩的な文章を期待した訳ではない。それ相応の漢字と内容が散りばめられた文面を夢想していたのだ。一時の興奮と困惑から解放され、「線描された絵」と「簡潔な説明」のはがきが、それなりに味わい深いことに気づかされた。「日光東」と押された消印が目に入ったのは、あとからだった。

そして、孫の素直な、いや、いたずらな表現？に成長を感じながら返事を書き送った。

くこんばんは。男体山のある日光へ行っただ。はがきの絵から想像して、中禅寺湖を遊覧船で回遊し、湖畔でキャンプファイヤを楽しみ、男体山へ向かって声をはりあげて歌ったということなんだろうと思う。男体山の威容と中禅寺湖の美しさ、その競演に感動した気持ちが伝わってきました。記憶に残る修学旅行になったこと、よかったネ。…。>

## 高校生の頃に、やりたかったこと

高鍋町 坂田病院 ^{さか}坂 ^た田 ^{もろ}師 ^{みち}通

梶井基次郎の「檸檬」を初めて読んだのは、中学三年生の終わりの頃だったと思う。その日から私は、本屋の本棚にレモンを置いて立ち去りたいという欲望を持ってしまった。私は高校の三年間は宮崎市内に住んでいたが、週に何回も山形屋デパートの近くにあった「せいしえん書店」に通っており、何度もレモンを買って学生服のポケットに入れて、いつかレモンを置いて店を出ようと考えていた。けれども、結局一度も実行することなく、高校を卒業してしまった。大学生になってからは、「レモンを置いて店を立ち去りたい」という欲望はいつしか消えてしまった。

高校卒業後17年後に宮崎に戻って来た時、せいしえん書店は既に閉店していた。高校時代に通い詰めた書店がなくなっていたことは、私にとって外套を新調するに値する重大なことであったが、不思議なことにその時から「レモンを置きたい」欲望が復活した。最近の私は本屋に行くと、そのことが頭を離れなくなり、鼓動が早くなって息苦しさをを感じる。もちろんポケットにレモンは入っていないが。

先日、大学時代の友人と久しぶりに学会で会い一緒に酒を飲んだ時にその話をしたところ、友人は「お前は、世間では変人・奇人の類に入られている。今は何処にでも防犯カメラが設置されているので、間違ってもレモンを置いてはならない。大学にも医師会にも迷惑をかけるぞ」と釘を刺された。話をする相手を間違えたと思った。

しかし、何かの雑誌を読んでいたら「檸檬」の舞台となった京都の丸善では平成17年に閉店する時に、文学ファン達が閉店を惜しんで店内にレモンを置いたそうで、昨年再オープンした時に、店内にレモン専用の籠が置かれ、私と同類の人々の要望に応えたという記事を見つけた。私は、友人が言うような変人・奇人ではないと確信した。

私は未だにレモンを置いていない。しかし、最近記憶力が低下し、そのうち認知症になると思う。もしかしたら徘徊して、本棚にレモンを置いてしまうかもしれない。その時のために、医師会の諸先生方に、予めお詫びを申し上げます。

## ブラジル

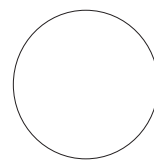
日向市 松岡内科医院 まつ おか けい こ  
松 岡 敬 子

幼い頃金曜ロードショーで「愛情物語」をみて以来、吹替のカーメン・キャバレロが大好きになった。親日家であった彼はなんと来宮。もちろん私は親にねだり、ピアノ友達とディナーショーに出かけた。「愛情物語」の劇中で演奏した「トゥ・ラブ・アゲイン」(ショパンのノクターンOp 9-2)「ブラジル」も含まれ大満足のものであった。ショーの後、積極的であった年長の友人に引っ張られサインをもらいにいったが、彼は実に紳士で優しい笑顔で対応して下

さった。(そのサインはなくなりましたが)あれからうん十年が経ち、カーメン・キャバレロも亡くなり記憶は薄れていった。

昨年夏、リオオリンピック開会式で「ブラジル」が流れた。「ブラジル」という曲はもともと「ブラジルの水彩画」という曲名で、奴隷時代が終わり自由となったブラジルの情景を表す曲であるらしい。作曲者のアリー・バホーズは「イパネマの娘」など名曲を生んだアントニオ・カルロス・ジョビンより、母国では人気があるそう。

「ブラジル」のメロディーを聴きなつかしさに目頭に涙がにじんだ。浮かんでくるのはビールのコマーシャルではなくやはりあの「愛情物語」だ。やたらとピアノのパートが難しいキャバレロの演奏、キム・ノヴァクの美しい顔、タイロン・パワーの堂々としたエアープianoの弾きぶり、そして戦地での少年との連弾。そうだ以前も、クリスマスソングを聴いたことをきっかけにジュディー・ガーランドの歌声が聞きたくなって、「若草の頃」がとてもみたくなったっけ。本当にこんな時、you tube が便利だ。今回もPCでしっかりと頭の中の映像を蘇らせていただいた。便利な世の中になって、よかったよかった。今年は何をきっかけに何を思い出さだろう。



## 雑感

宮崎市 盛田内科クリニック もり た しゅういちろう  
盛 田 修一郎

医師はできうる限りの知識と技術で救命を行うべきだが、医療資源(人、物、金)は有限で医療保険の現実的な運用は現場に一任される。値段をつけられない命を救うのは限りある金と人だという矛盾を常に医療現場に押しつけられる。社会はこの矛盾を「医療は仁術」という言葉で現場に放置せず、観念的ではなく現実的に議論すべきである。

高齢者が増加することは疾病人口が増加し医療費が増加することである。一方で、安全やレベルアップした医療の一般化への要求も医療費の増加の大きな原因である。一昔前には再利用していた注射器や注射針は現在使用毎後に廃棄しているし、早期発見の目的で検査の種類(血液検査の項目の増加など)や機械(CT、MRIなど)の利用も増加している。また、年々質・量ともに増加する薬剤、手術場での安全と少ない侵襲を求めている機械(腹腔鏡手術やロボット手術など)の登場、それに関わる人員の増加なども要因である。

今日、移植医療の発達やiPS細胞などを始めとした再生医療や遺伝子治療の登場で、我々は神の領域へ足を踏み入れようとしている(そもそも神が存在する宗教域に現代人の多くは元々生活していない)。また血管の老化である動脈硬化を原因とした脳梗塞、心筋梗塞、腎不全など、そして細胞の老化としての癌の治療なども医療費の多くを占めるようになってきている。一方で胃瘻造設患者の増加、植物状態患者への人工呼吸器など生命維持装置の装着など、いわゆる

不可逆的な病態への治療の是非も議論の机上にあげられている。かつて神のみが決定した老化という人間の死をも、これからは人類自身が定義し決定しなければならない時代になってきたのである。文明とは科学技術の発達のみでの進展ではなく人間の理性の充実(文化、人生観などの哲学、公共性などの社会観)も随伴するはずのものである。

日本の医療が今後も限られた社会保険で行われるならば、めざす医療の帰着点や内容を文明化した国民自身がそろそろ冷静に判断決定すべき時期が迫ってきている。

## 患者になって

高鍋町 坂田病院 さか た もろ さと  
坂 田 師 隣

昨年(平成28年)生涯2回目の外科手術を経験しました。最初は、小学3年生の時、急性虫垂炎、この時は父の執刀であり、在宅療養の为患者の認識はありませんでした。2回目は昨年、白内障の手術をしました。白内障は、数年前に発症し、近医のクリニックでフォローしていただいていた。しかし、昨年主治医の先生より手術をすべきと判断され、宮崎市内の眼科で手術するよう指示されました。

手術予定眼科の初診日、私は緊張と恐怖に包まれ受診、血圧も上昇、しかし、待ち時間に事務職、看護職、検査技師の方々の働きぶりを観察する事ができました。当然眼科なので目の不

自由な方、特に高齢者の方々の受診が多く見受けられました。スタッフのその方たちへの誘導、指示、検査等の配慮が患者の辛さ、不安・恐怖をよく理解して行動されているようでした。私は感動しました。

私を担当していただいた主治医先生をはじめ、検査、看護職、その他のスタッフの方々の心配りによって、私の恐怖も次第に薄れていくのを感じました。

私は、医療スタッフの些細な言葉、行動のひとつでこんなに患者さんの気持ちが穏やかになるのかと身をもって実感しました。

現在の多くの医療スタッフ、特に医師は、豊富な医学的知識と技術を持ち、高度な医療を進めています。これは、高く評価すべきで素晴らしい事と考えます。しかし、一部変なプライドによる医療を行い、患者に恐怖、不安、医療不信を抱かせているのではないかと考えています。

私は、今後人間味溢れる医師としての仕事を考慮すべきと痛切に感じました。

閑話休題 私の病院スタッフは、私の白内障の手術が決定すると、面白可笑しく私に対し恐怖、不安を煽り立てました。同様に病に苦しんでる方にも無意識に行っているかと思うと心が痛みます。

私の病院スタッフの事を考えると、せっかく透明になった私の眼レンズも再び白濁しそうです。

## 近況報告

宮崎市 楠元内科胃腸科 くすもとただてる 楠 元 正 輝

高校生の頃は鹿児島県の大口市に住んでいたので友人達としばしば霧島山を縦走した。大学は鹿児島市だったので櫻島や開門岳等にクラスメートとハイキングを楽しんだ。その頃櫻島は全く活動していなかったのも南岳火口から深い火口底を見る事が出来た。阿蘇や九重にもしばしば出かけたが九山医体では鳥取の大山に登った。仕事が暇になった65歳過ぎになってからは膝の弱い家内と九重や上高地立山などをうろろした。山頂までは無理で三合目附近で引き返すことが多かった。最近はずますます弱くなり山は遠くから眺めるだけになった。もっぱら町の中を徘徊している。昨年5月奈良の友人に誘われて奈良に出かけた。大きな寺をまわり沢山の佛像を拝んだ。

これで極楽に行けるような気持ちになった。最も心に残った佛像は興福寺の十大弟子像の中の幾つかの若者像であり、その清廉でひたむきな表情はいつまでも心に残った。8月は四国にいる同窓生のO君から「阿波踊りの栈敷席をとってあるから出て来い」と同窓会の誘いがあり家内と出かけた。新幹線で福山まで行きそこからバスで「瀬戸内しまなみ海道」を渡り今治に向った。天気が良く瀬戸内海の景色を楽しむ事が出来た。今治のホテルに集った同窓生は6人だけで奥様方を入れて10人であった。翌日はマイクロバスで徳島市に向った。徳島市の人口は30万人あまりであるが、約10万人が踊ると云われている。観客は期間中130万人が押しよせるそうである。約100人の連の踊りは見事なもの

で次から次へと押し寄せるのは壮観であった。楽しい体験であった。雄大な風景を見る事は少なくなりましたが、今は年齢と共に視野を狭くして見える範囲内での風景を楽しんでいます。

## この世は美しい

延岡市 ほうしやま子ども ほうしやま ひろし  
クリニック 宝珠山 弘

表題の言葉は、云う迄もなくお釈迦さま(ブッタ様)の最期の言葉である。齢を重ね「赤いランプの終列車」に乗ると“車内にお忘れ物のないようにお仕度下さい”の声が時々聞こえる。

終着駅が何時なのかわからない。わからないから人生が楽しくもあり。苦しくもある。

悟りを開いたブッタ様のこの言葉こそ真の意味を味わいたいものである。

「人間この無知なるもの」著者、アレキシス・カレル氏の中にある如く、“人間は不思議な存在である”それ故に命の貴さを学び、平和を学び「ありがとう」「おかげさま」「私がやります」の道徳そして教育の原点に立ちたいものである。“そしてこの世に生まれてよかった”と皆んなで喜びわかちあいたいと思う。又「日本人たる気品」「伝統的」な美しさ又「日本の哲学」も忘れないようにしたいものである。

桜にもいろいろ思い出がある。“涙にぬれた桜”“勇気を与えてくれた桜”“美しさにみとれ

た桜”とさまざまである。春爛漫と咲き匂う桜こそ日本人の心であろう。桜と共に武士道、大和魂、日本的道徳、そして日本の美しさをもってゆかねばならぬ。

修身教育をおきざりにした文部省殿“才能なし”といわれぬ内に教育と平和こそ人生の幸福の原点であることを考えるべきとおもう。

※味わいたい言葉

一浜までは海女も蓑きる時雨かなー(瓢水)

## お茶しませんか

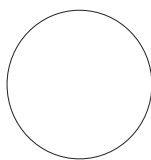
宮崎市 県立宮崎病院 いし かわ え み  
石 川 恵 美

お茶をしませんか。

お茶を始めて25年になる。と言っても月に2, 3回のお稽古でなかなか上達しない。もともと料理が好きで懐石料理が作れるようになりたいとの邪心から始まったことだが、茶道入門するとお茶を点てることだけではなく、茶碗を初めとした焼き物、花、書、香などなど学ぶことが沢山で自分の無知を知らされた。焼き物の勉強に瀬戸、丹波、備前、信楽、萩、唐津、高取にも旅をしたし、京都は学会で時間があれば小美術館に足を運んだ。窯元では名品には手が出ないので、もっぱら若手の作品を求め育成だの先行投資だのと自分に言い聞かせている。花に関しては散歩や山歩きを楽しくさせてくれる。今まで雑草と思っていたものにも目が留ま

るようになった。保護のため掌中になくとも、頭の中で花入れと組み合わせている。しかし、SFTSのために無防備に草を分け入る事が出来なくなったのは残念である。書に関しては年を経て納得するものが多くなった。最初は墨蹟にある文字が読めない。幸いに茶席では読みも意味も尋ねることができる。私の父は開業医をしていたが、何故か大徳寺の坊さんと仲良しで熊本の実家に老師が遊びに来たこともある。父が70歳を過ぎた頃、自分の片身だと誕生月に合わせた軸をくれた。私は2月生まれなので梅の絵を背景に日々是好日という書である。話を懐石に戻そう。茶事の中で懐石はあくまでもお茶を美味しく頂くためのものなので量が多すぎてもいけない。お茶全般が季節感を大事にするように懐石でも時季のものを提供する。温かいものを温かいうちにとタイミングも大事である。当日は開始4時間前に台所に立ち作業を進めるが必ず、一つ二つ失敗がある。

平成27年夏に茶室を造り母が遺した道具を使ってお稽古を重ねている。月に数回だが背筋を伸ばすのは気持ちが良い。相変わらず慣れない正座だが畳の上で普段使わない筋肉も鍛錬される。茶道は近代まで男社会のものだった。ゴルフも良いけど、交流、文化の継承、おもてなしに、お茶をしませんか。



## ラジコン

宮崎市 宮崎大学  
フロンティア科学 加 藤 丈 司  
実験総合センター

新年、明けましておめでとうございます。さて、「ラジコン」という単語に、何をイメージされますか。通常、無線操縦の模型飛行機や自動車などを意味します。私の趣味の一つがラジコン飛行機で、都城ラジコンクラブの会員です。同クラブには、独自の飛行場があり熱心な会員が多いですが、私の場合、休日に必ずしも時間が取れる訳ではありませんので、あまり熱心な会員とは言えません。模型飛行機の操縦は、たとえば自動車の運転に比べると、かなり難しく、曲芸飛行は、さらに難しく奥が深いです。三次元の空間で、飛行機の姿勢、機速、浮力、高度、風向き等、多くの因子を常に考慮しつつ操縦しなければなりません。操縦技術のみでなく、飛行機の微調整等の整備作業も必要です。

都城ラジコンクラブ会員は、全て男性です。男女共同参画社会ですから、クラブ会則に、会員は男性に限るといった文言はありません。十数年前に、幼い娘達をラジコン飛行場に連れて行ったことがありました。飛行機が離陸した時は、「わー、飛んだ、飛んだー」と叫んでいましたが、次の瞬間、娘達の興味は、持参した人形遊びに移っていました。第二次性徴や閉経の前後で、女性の模型飛行機に関する興味が変わるということはないようですし、男性も成長や加齢に伴って興味の程度が変わることもないと思います。研究データがある訳ではありませんが、性ホルモンの影響ではなく、本質的な性差があるのでしょう。男女共同参画社会の意味は、男女がそれぞれに特徴的な能力を十分に発

揮して、多様な社会を構築することであると、改めて認識させられる現象です。今年の私のラジコンに関する目標は、昨年より1日でも多く飛行場に出向いて、飛行技術を向上させることです。とりとめのない文章になりましたが、ラジコンに興味をお持ちの方、お声をかけて下されば幸いです。今年も皆さまにとりまして良き年でありますようお祈りします。

## ふうふう こ じ 風々居士

綾町 結い診療所 なか むら まさ と  
中 村 政 人

年来、山田風太郎の『人間臨終図巻』を愛読している。僕は彼の小説の良い読者ではないが、『人間臨終図巻』、『戦中派不戦日記』、『戦中派虫けら日記』については文句なしに好きだ。特に、戦時下の飢えと貧困にあえぎながら空襲の中を逃げまどう医学生・風太郎の孤独な魂の記録である『不戦日記』と『虫けら日記』には、虚無と絶望と夢と情熱がゴツタ煮になったような不思議な魅力が漂っている。一方、『人間臨終図巻』は、「十代で死んだ人々(アンネ、森蘭

丸、天草四郎、ジャンヌ・ダルクetc.)」に始まり、「百代で死んだ人々(野上弥生子、泉重千代etc.)」に終わる一大評伝集である。その数、900人余り。読者は、時にわが身に引き寄せ、あるいは時々に関心に応じて、自由に本書をひもとくことが出来る。例えば、「六十歳で死んだ人々」の章には森鷗外(1862～1922)と木下杢太郎(1885～1945)の名が見える。その「木下杢太郎」の項を締めくくる以下の文章は興味深い。「彼の尊敬する最大の人物は森鷗外で、鷗外もまた若き日の杢太郎を愛した。文名をうたわれつつ、ついに医学から離れることの出来なかった生涯も似た点があるが、その寿命もまた同じ六十年であった」

木下杢太郎は敗戦直後の昭和20年10月に「焦土と化した東京の帝大病院で息をひきとった」が、そう記す風太郎自身、焦土で敗戦を迎えた日本人の一人である。当時、彼は東京医専の2年生。昭和17年に始まる彼の日記からは、明日をも知れぬ境遇の中で文芸への愛と情熱を抱きつづける一人の若者の鼓動が伝わってくる。そして、敗戦後の混乱がつづく中、貧しく孤独なこの青年は医学の道を離れ、作家として飛び立っていくのである。

謹んで年頭の

ご挨拶を申し上げます

理事長 獅子目 賢一郎

運用執行理事 飯田 正幸

監事 中村 啓子

常務理事 杉田 恵美子

事務職員 一同

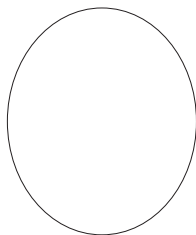
宮崎県病院企業年金基金

## エコー・リレー

(497回)

(南から北へ北から南へ)

## 数字

宮崎市 宮崎大学第一内科 みな皆 かわ川 あき明 ひろ大

学生の頃より数字が苦手であ  
苦勞してきました。腎臓内科  
医となった今でもクレアチニ  
ンクリアランスの計算など研  
修医の先生に教えるときに  
は、こっそり「カンニング」し  
た後に、素知らぬ顔で説明し  
ている有様です。しかし2016

年6月26日の日付だけは決して忘れない数字と  
なりました。

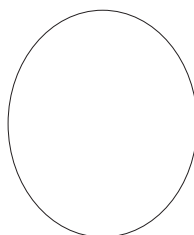
その日は朝から大学院講義を受ける予定であ  
り、大学で時間まで何をしようかと考えている  
最中でした。その直後に妻から連絡が入り、急  
に破水したためこれから病院に向かうとの事で  
した。心底驚きましたが、主治医の先生より  
「状態も安定しており通常の分娩を進めます」と  
説明を受け、看護師・助産師の方にも気にか  
けて頂き、妻ともども安心して出産に臨む事が  
出来ました。信頼できる医療従事者の言葉とい  
うものは患者にとって何よりの妙薬なのだ、と  
実感した次第です。

初産でありましたが幸い大きな問題もなく  
2016年6月26日午後5時2分、待望の長女の顔  
を見る事が出来ました。元々の予定日は7月。  
宮崎の早い地区では稲が実りだす時期です。思  
惑違いとはなりましたが、名前はかねてから決  
めていた「穂実^{ほのみ}」としました。2,408gで生まれ  
た穂実^{ほのみ}は両親の不安をよそに、すくすくと大き  
くなっています。毎晩、天使のような寝顔と悪  
魔のような癪癪を楽しませてくれるようになり  
ました。

予定日を間違えて産まれた娘はもしかしたら  
父に似て数字が苦手なのかもしれませんが、ど  
うか健やかに育ってほしいと願う今日この頃  
です。

[次回は、延岡市の松尾 崇先生をお願いします]

## トライアスロン

延岡市 いまだ内科・消化器科 いま今 だ田 しん真 いち一

先日、福岡での糖尿病の研  
究会に参加しました。帰りの  
飛行機の中で、アメリカ人の  
背の高い男性と隣り合わせの  
座席になりました。彼が、機  
内で客室乗務員から配られた

飴玉を、不思議そうに見つめていたので、勉強  
中の英会話で、“気圧の変化に伴う耳痛を緩和  
するために、配られているんだよ。”と説明しま  
した。彼は“僕はケビン・マクドウェル。シカ  
ゴから、週末の宮崎シーガイアトライアスロン  
大会に参加するためにやってきたんだ。”“凄  
いじゃないか、もう少し話を聞かせてよ。”と  
促すと、“世界ランキングは30位くらいかな？  
アメリカでは5位なんだ。今度の東京オリン  
ピックにアメリカ代表で参加するのが目標な  
んだ。”“アメリカからは何人のアスリートが  
オリンピックのトライアスロン代表になれる  
の？”“3人だよ、宮崎シーガイアトライアス  
ロンは今シーズン最終戦で、宮崎でいい成績を  
上げて、ランキングアップを目指しているん  
だ。”“ケビン、宮崎シーガイアトライアスロン  
でいい成績を上げてぜひ来年も宮崎来てくれ  
よ。”と励ますと、“ありがとう、そのつもりだ  
よ。”と熱い握手を交わしました。ライブ中継を  
チェックしていましたが、残念ながら、今回は  
いい成績は上げられなかったようでしたが、機  
内で、新しい出会いを楽しめたことに感謝する  
と同時に、今度の東京オリンピックに一つの楽  
しみができました。

[次回は、宮崎市の西川 清先生をお願いします]

## 平成 28 年 1 月～ 12 月までの 叙位・叙勲及び表彰・祝賀受賞会員

### 叙勲・祝賀

#### 【宮崎市郡医師会】

保健衛生功勞により瑞宝中綬章(平成28年11月 3 日)

豊 田 清 一

学校保健功勞により瑞宝双光章(平成28年11月 3 日)

竹 尾 康 男

保健衛生功勞により旭日双光章(平成28年11月 3 日)

早稲田 芳 男

#### 【都城市北諸県郡医師会】

保健衛生功勞により瑞宝小綬章(平成28年 4 月29日)

藤 元 登四郎

保健衛生功勞により旭日双光章(平成28年 4 月29日)

柳 田 喜美子

### 表彰・祝賀

#### 【宮崎市郡医師会】

公衆衛生事業功勞により厚生労働大臣表彰(平成28年 3 月 8 日)

阿 南 育 男

第44回医療功勞賞(読売新聞社主催)(平成28年 3 月14日)

出 盛 允 啓

医療功勞により県知事表彰(平成28年 6 月18日)

田 崎 高 伸

救急医療功勞により県知事表彰(平成28年 9 月 5 日)

濱 砂 重 仁

精神保健福祉事業功勞により県知事表彰(平成28年10月14日)

井 上 雅 文

公衆衛生事業功勞により県知事表彰(平成28年11月11日)

木佐貫 健 一

#### 【都城市北諸県郡医師会】

第44回医療功勞賞(読売新聞社主催)(平成28年 1 月13日)

柳 田 琢 也

医療功勞により県知事表彰(平成28年 6 月18日)

丸 田 茂 徳

警察部外功勞者表彰(警察協力章)(平成28年 7 月 1 日)

石 井 芳 満

学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰(平成28年10月27日)

田 中 昭 彦

公衆衛生事業功勞により県知事表彰(平成28年11月11日)

坂 口 健次郎

#### 【延岡市郡医師会】

公衆衛生事業功勞により日本公衆衛生協会長表彰(平成28年 3 月 8 日)

日 高 隆 徳

医療功勞により県知事表彰(平成28年 6 月18日)

井 上 博

救急医療功勞により県知事表彰(平成28年 9 月 5 日)

高 見 博 昭

産科医療功勞により厚生労働大臣表彰(平成28年 9 月 9 日)

井 上 博

公衆衛生事業功勞により県知事表彰(平成28年11月11日)

牧 野 剛 緒

#### 【日向市東臼杵郡医師会】

医療功勞により県知事表彰(平成28年 6 月18日)

横 田 晃

救急医療功勞により県知事表彰(平成28年 9 月 5 日)

今給黎 承

精神保健福祉事業功勞により県知事表彰(平成28年10月14日)

水 野 智 秀

**【児湯医師会】**

医療功労により県知事表彰(平成28年 6 月18日)

崎 濱 國 治

**【西都市西児湯医師会】**

医療功労により県知事表彰(平成28年 6 月18日)

鶴 田 曜 三

救急医療功労により厚生労働大臣表彰(平成28年 9 月 9 日)

相 澤 潔

**【南那珂医師会】**

公衆衛生事業功労により厚生労働大臣表彰(平成28年 3 月 8 日)

戸 倉 修

国民健康保険関係功績により厚生労働大臣表彰(平成28年10月17日)

黒 木 和 男

公衆衛生事業功労により県知事表彰(平成28年11月11日)

山 元 敏 嗣

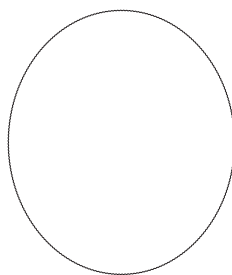
## 叙勲・祝賀

## 保健衛生功労により瑞宝中綬章

とよ だ きよ かず  
豊 田 清 一 先生(宮 崎)

平成28年11月 3 日, 保健衛生功労により瑞宝中綬章をお受けになりました。

衷心より祝意を表しますと共に, 今後ますますのご活躍を祈念いたします。



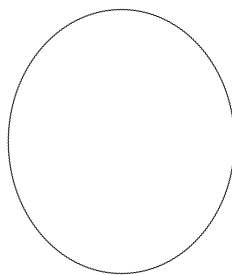
豊田 先生

## 学校保健功労により瑞宝双光章

たけ お やす お  
竹 尾 康 男 先生(宮 崎)

平成28年11月 3 日, 学校保健功労により瑞宝双光章をお受けになりました。

衷心より祝意を表しますと共に, 今後ますますのご活躍を祈念いたします。



竹尾 先生

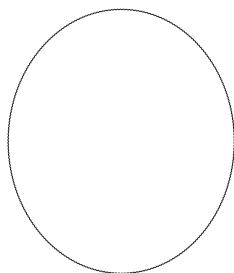
## 叙勲・祝賀

## 保健衛生功勞により旭日双光章

わ せ だ よ し お  
早稲田 芳 男 先生(宮 崎)

平成28年11月3日、保健衛生功勞により旭日双光章をお受けになりました。

衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



早稲田 先生



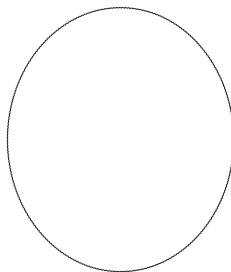
## 表彰・祝賀

## 学校保健及び学校安全に関する文部科学大臣表彰

た なか あき ひこ  
田 中 昭 彦 先生(都 城)

平成28年10月27日、学校保健功労により文部科学大臣表彰をお受けになりました。

衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



田中 先生

## 公衆衛生事業功労により県知事表彰

き さぬき けん いち  
木佐貫 健 一 先生(宮 崎)

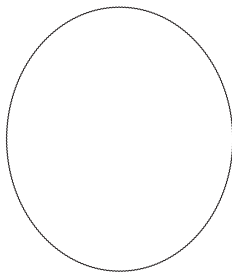
さか ぐち けん じろう  
坂 口 健次郎 先生(都 城)

まき の たか お  
牧 野 剛 緒 先生(延 岡)

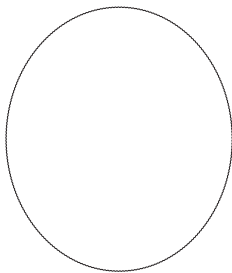
やま もと とし あき  
山 元 敏 嗣 先生(南那珂)

平成28年11月11日、公衆衛生事業功労により県知事表彰をお受けになりました。

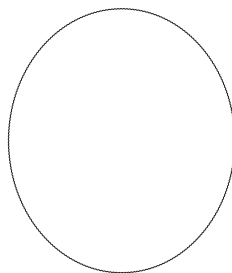
衷心より祝意を表しますと共に、今後ますますのご活躍を祈念いたします。



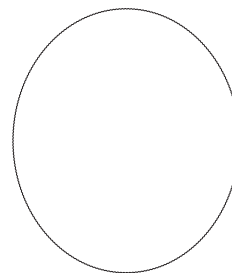
木佐貫 先生



坂口 先生



牧野 先生



山元 先生



## あなたできますか？

－平成27年度 医師国家試験問題より－

(解答は99ページ)

- 1 抗癌化学療法により再活性化をきたす肝炎ウイルスはどれか。
  - a A型
  - b B型
  - c C型
  - d D型
  - e E型
- 2 血液中の脂質変動について正しいのはどれか。
  - a 食後はカイロミクロンが増加する。
  - b 飢餓時はLDLコレステロールが上昇する。
  - c 閉経後はHDLコレステロールが上昇する。
  - d LDLコレステロールの著増は乳び血清をきたす。
  - e 動物性蛋白をとらないとLDLコレステロールが異常低値を示す。
- 3 正常な胎児付属物について正しいのはどれか。2つ選べ。
  - a 羊水は淡黄色透明である。
  - b 臍帯内の静脈は2本である。
  - c 妊娠末期の胎盤重量は約200 gである。
  - d 分娩時臍帯動脈血pHは7.00未満である。
  - e 卵膜の3層構造で最も内側の層は羊膜である。
- 4 直腸指診について正しいのはどれか。
  - a 腹臥位で行う。
  - b 下血があれば行わない。
  - c 中指を肛門から挿入する。
  - d 肛門診察の前に直腸の触診から始める。
  - e 肛門を正面から見て腹側を12時と表記する。
- 5 23歳の初妊婦。発熱を主訴に来院した。現在、妊娠15週。3日前から下腹部の違和感と排尿時痛とを認め、昨日から38.4℃の発熱が出現した。既往歴に特記すべきことはない。意識は清明。体温38.8℃。脈拍100/分、整。血圧118/68 mmHg。呼吸数20/分。右肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿Gram染色でGram陰性桿菌を認めた。投与すべき抗菌薬はどれか。
  - a セフェム系
  - b マクロライド系
  - c ニューキノロン系
  - d テトラサイクリン系
  - e アミノグリコシド系
- 6 産業医の職務として法令に規定されていないのはどれか。
  - a 衛生教育
  - b 作業の管理
  - c 労働者の健康管理
  - d 作業環境の維持管理
  - e 採用を判断するための健康診断
- 7 2歳の男児。発熱、咳嗽および喘鳴を主訴に母親に連れられて来院した。今朝から38℃台の発熱と咳嗽が出現した。数時間後には咳嗽は犬吠様となり、吸気性喘鳴と嗄声も出現したため来院した。陥没呼吸を認め胸部にstridorを聴取する。最も考えられる疾患はどれか。
  - a 肺炎
  - b 気管支喘息
  - c 急性気管支炎
  - d 急性細気管支炎
  - e クループ症候群
- 8 25歳の男性。バイクを運転中に自動車と接触して転倒し、後続の自動車にひかれ救急車で搬入された。来院時、脈拍120/分、整。血圧110/80 mmHg。呼吸数32/分。SpO₂ 89% (リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下)。胸部は奇異性運動を起し努力呼吸である。胸部エックス線写真で右肋骨の多発骨折と肺挫傷とを認めるが、血胸や気胸はみられなかった。直ちに行うべきなのはどれか。
  - a 胸腔穿刺
  - b 抗菌薬投与
  - c 挿管陽圧換気
  - d バストバンド固定
  - e 副腎皮質ステロイド全身投与
- 9 介入を伴う臨床研究について正しいのはどれか。
  - a 倫理審査委員会の審査は必要ない。
  - b 被験者は研究計画書を閲覧できる。
  - c 開始した研究は中止することはできない。
  - d 研究に伴う有害な事象は開示しなくてもよい。
  - e 研究で得られたデータの部分的改ざんは許容されている。
- 10 アスペルギルス症が最も合併しやすいのはどれか。
  - a 無ガンマグロブリン血症
  - b Wiskott-Aldrich症候群
  - c 毛細血管拡張性失調症
  - d DiGeorge症候群
  - e 慢性肉芽腫症

## 宮崎県感染症発生動向 ～11月～

平成28年10月31日～平成28年11月27日(第44週～第47週)

## ■全数報告の感染症

- 1 類：報告なし。
- 2 類：○結核12例：保健所別報告数を【図1】に示した。患者が7例、無症状病原体保有者が4例、疑似症が1例であった【表1】。患者は肺結核が4例、その他の結核(結核性胸膜炎、結核性脊椎炎)が3例であった。性別は男性7例・女性5例で、年齢別報告数を【表2】に示した。
- 3 類：○腸管出血性大腸菌感染症1例：都城保健所管内で報告があった。無症状病原体保有者で20歳代であった。原因菌のO血清型は091(VT1, 2産生)であった。
- 4 類：○つつが虫病20例：保健所別報告数を【図2】に示した。年齢別では50歳代が最も多く、全体の3割を占めた【表3】。主な症状として、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、頭痛、全身倦怠感、咳、痰、体幹・四肢筋肉痛がみられた。
- 5 類：○ウイルス性肝炎2例：宮崎市及び日向保健所管内から各1例ずつ報告があった。
- ・30歳代で女性、病型はB型であった。主な症状として嘔吐がみられた。
  - ・30歳代で男性、病型はその他のウイルス性肝炎(サイトメガロウイルス)であった。主な症状として全身倦怠感、発熱、肝機能異常、肝脾腫、頸部リンパ節腫大がみられた。
- カルバペネム耐性腸内細菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状として肺炎がみられた。原因菌は*Enterobacter cloacae*であった。
- 後天性免疫不全症候群1例：宮崎市保健所管内から報告があった。20歳代男性でAIDSであった。指標疾患はニューモシスティス肺炎、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)で、主な症状として指標疾患の症状がみられた。
- 侵襲性肺炎球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。70歳代で、主な症状は頭痛、発熱、全身倦怠感、菌血症、腰痛、浮腫がみられた。ワクチン接種歴はなかった。
- 梅毒1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代男性で、病型が早期顕彰梅毒(I期)であった。主な症状は初期硬結、硬性下疳、鼠径部リンパ節腫脹(無痛性)であった。
- 風しん1例：宮崎市保健所管内で報告された。30歳代で、検査診断例であった。主な症状は、発疹、発熱がみられた。ワクチン接種歴は平成25年に1回目を接種し、2回目は不明であった。

## ■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は3,062人(定点あたり95.8)で、前月及び例年の104%とほぼ横ばいであった。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナであった。また、例年同時期と比べて報

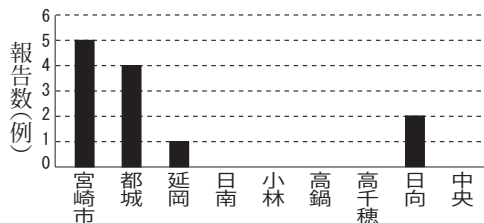


図1 結核 保健所別報告

表1 結核 病型別報告

肺結核	4
その他の結核(結核性胸膜炎、結核性脊椎炎)	3
無症状病原体保有者	4
疑似症	1

表2 結核 年齢別報告

40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	1	4	4	1

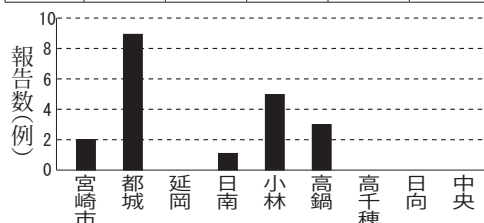


図2 つつが虫病 保健所別報告

表3 つつが虫病 年齢別報告

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
2	1	6	3	3	5

前月との比較

	2016年11月 報告数 (人)	2016年10月 報告数 (人)	例年との 比較
インフルエンザ	39	3	★
RSウイルス感染症	99	325	
咽頭結膜熱	92	69	
※溶レン菌咽頭炎	203	164	
感染性胃腸炎	1,651	974	
水痘	51	51	
手足口病	494	589	★
伝染性紅斑	89	131	
突発性発しん	120	113	
百日咳	1	1	
ヘルパンギーナ	42	123	
流行性耳下腺炎	105	144	
急性出血性結膜炎	0	0	
流行性角結膜炎	42	60	
細菌性髄膜炎	0	0	
無菌性髄膜炎	0	1	
マイコプラズマ肺炎	34	36	★
クラミジア肺炎	0	0	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	0	1	

★ 例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

告数の多かった主な疾患はインフルエンザ、手足口病、マイコプラズマ肺炎であった。

インフルエンザの報告数は39人(0.66)で前月の約13倍、例年の約9.9倍であった。中央(5.5)、小林(1.0)、宮崎市(0.63)保健所からの報告が多く、年齢別では10歳代が全体の約4割を占めた。

手足口病の報告数は494人(13.7)で前月の約0.8倍、例年の約2.3倍であった。日南(43.7)、中央(30.0)、宮崎市(18.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約6割を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は34人(4.9)で前月の約0.9倍、例年の約5.1倍であった。宮崎市(21.0)、高鍋(6.0)、日向(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1～4歳が全体の約6割を占めた。

## ■月報告対象疾患の発生動向

＜2016年11月＞

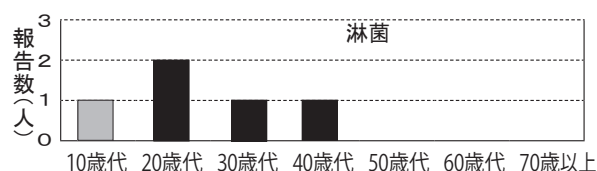
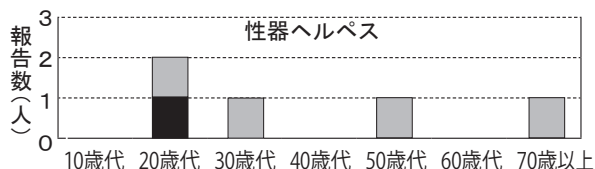
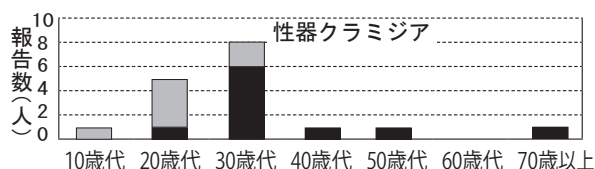
### □性感染症

#### 【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は29人(2.2)で、前月比69%と減少した。また、昨年11月(2.8)の約0.8倍であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数17人(1.3)で、前月(1.9)の約0.7倍、昨年11月(2.1)の約0.6倍であった。30歳代が全体の約半数を占めた(男性10人・女性7人)。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数5人(0.38)で、前月(0.15)の2.5倍、昨年11月(0.23)の約1.7倍であった(男性1人、女性4人)。
- 尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月(0.08)の2.0倍、昨年11月(0.15)と同数であった(男性2人)。
- 淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月(1.2)の約0.3倍、昨年11月(0.31)の約1.2倍であった(男性4人、女性1人)。



■男 ■女

### □薬剤耐性菌

#### 【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で前月比140%と増加した。また、昨年11月(3.6)の約0.8倍であった。

#### 《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月の約1.3倍、昨年11月(3.4)の約0.8倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、昨年11月(0.14)と同数であった(前月報告なし)。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

(宮崎県衛生環境研究所)

## ■病原体検出情報(微生物部)

	検出病原体	件
ウ	ムンプスウイルス	2
	エコーウイルス6型	1
	エコーウイルス9型	1
	エコーウイルス18型	1
イ	コクサッキーウイルスA6型	2
	コクサッキーウイルスA16型	1
ル	ライノウイルス	6
	パラインフルエンザウイルス3型	1
ス	ヒトヘルペスウイルス6	1
	パレコウイルス1型	1
	パルボウイルスB19	1
	インフルエンザウイルスAH3	1
細	<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	3
	<i>Bordetella parapertussis</i> (パラ百日咳菌)	1
	<i>Salmonella</i> Singapore (07:k:e,n,x)	2
	<i>Salmonella</i> Oranienburg (07:m,t:-)	1
	<i>Salmonella</i> Stanley (04:d:1,2)	2
	<i>Salmonella</i> Corvallis (08:z4,z23:-)	1
	<i>Salmonella</i> Newport (08:06):e,h:1,2)	2
	<i>Salmonella</i> Thompson (07:k:1,5)	1
菌	腸管病原性大腸菌 (EPEC) (OUT:H21)	1
	腸管病原性大腸菌 (EPEC) (OUT:HUT)	1

## － 各種委員会 －

### 介護保険委員会

と き 平成28年11月21日(月)

ところ 県医師会館

(テレビ会議 延岡, 児湯, 南那珂)

金丸常任理事の司会により開会, 本会全理事協議会において委員長は牛谷義秀先生, 副委員長は三股俊夫先生が選任されたことが報告された。続いて河野会長の挨拶の後, 委員の自己紹介が行われた。

次に, 河野会長から牛谷委員長へ「地域包括ケア・認知症への対応」について諮問され, 牛谷委員長の進行で議事に入った。

#### 1 主治医研修会について

金丸常任理事より, 毎年県から委託を受けて行う介護保険主治医研修会について説明があり, 実施要領を確認のうえ企画を行った。今年度の研修会は, 最初に県庁担当課の長寿介護課より情報提供を行い, 医師, 訪問看護師, 介護支援専門員より主治医意見書記載内容等のポイントについて実践的な講義を依頼して, テレビ会議システムにより2月に開催することとなった。

また, 「介護保険主治医意見書予診票」について, 石川常任理事より前回委員会での議論を反映した一部改訂案の報告があり, 最後の自由記入欄などについて, 文言の修正が承認された。

#### 2 認知症地域医療支援事業について

金丸常任理事より, 県からの委託事業「認知症地域医療支援事業」について説明があった。事業内容は以下の4つである。

- (1)医療従事者向け認知症対応力向上研修事業
- (2)かかりつけ医認知症対応力向上研修事業
- (3)認知症サポート医スキルアップ事業
- (4)みやざきオレンジドクター普及事業

#### 3 認知症サポート医について

金丸常任理事より, 県庁ホームページに掲載されている認知症サポート医のリストについて紹介があった。あわせて, みやざきオレ

ンジドクターのリストも紹介された。

リストは以下の県庁ホームページに掲載されている。

認知症について

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/iryokaigo/kenko/koresha/choju00112.html>

みやざきオレンジドクターについて

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/iryokaigo/kenko/koresha/orangedr.html>

#### 4 介護保険に対する要望等について

各市町村の認知症初期集中支援チームの活動状況, 地域ケア会議の状況について, 各地域より報告があり, 介護保険に対する要望を含めて意見交換を行った。市町村と医師会が連携して取組みを進めることが重要であるとの意見であった。

#### 5 その他

金丸常任理事より, 道路交通法の一部改正に伴う免許更新時の高齢者講習制度について, 話題提供があった。本会より日医等へ情報収集中であり, 関係機関と協議予定であることが報告された。

出席者・牛谷委員長, 瀬ノ口・榎本・山口・

井藤・園田・鳥取部・石坂・中島委員

(県医) 河野会長, 富田副会長, 金丸・立元・

石川常任理事, 米澤理事, 久永課長,

鳥井元課長補佐

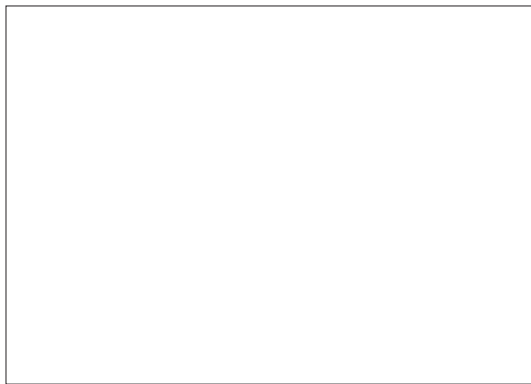
**地 域 医 療 構 想 委 員 会**

と き 平成28年11月10日(木)

ところ 県医師会館(テレビ会議 西臼杵)

池井常任理事の司会により開会、本会全理事協議会において、委員長は濱砂重仁先生、副委員長は小牧文雄先生が選任されたことが報告された。

河野会長の挨拶に続き、河野会長から濱砂委員長へ「地域医療構想への対応」について諮問され、濱砂委員長の進行で議事に入った。

**1 報 告****(1)宮崎県地域医療構想の進捗状況について****(2)第7次医療計画について**

池井常任理事より、10月に策定された地域医療構想についての概要と平成29年度末に策定される第7次医療計画との関わりについて説明があった。

また、本会が県からの委託を受けて実施する「宮崎県医療計画策定に係る入院患者実態調査」について、平成28年12月1日を調査日として県内の全病院、全有床診療所に入院している患者のすべてを対象に調査するので、前回(平成23年)に引き続き、各郡市医師会に該当医療機関への配布と回収について協力していただくよう依頼した。

**(3)救急搬送について**

富田副会長より、県危機管理課より提

供されたデータをもとに各消防本部(県内10)の救急搬送患者数を疾患ごとに分類、集計したリストについて説明があった。

**(4)療養病床転換の現状について**

池井常任理事より、「社会保障審議会療養病床の在り方等に関する特別部会」の資料をもとに説明があった。

**(5)医療資源調査・分析支援事業について**

鈴木委員(宮崎大学)より、二次医療圏間の患者流出入数と代表病院のシェア率等について、構想区域ごとに実際のデータを用いて説明が行われた。

また、各郡市医師会を対象として、鈴木委員が講師となり、地域医療構想調整会議のためのデータに関する講演会を開催するので、各医師会で日程等を調整していただくよう案内があった。

**2 協 議**

地域医療構想について、意見交換が行われた。

今後、構想区域ごとに開催される「地域医療構想調整会議」については、各郡市医師会等より参加していただき、詳細な検討を進めていただくよう依頼した。また、各調整会議での問題点などが出てきた場合は、本委員会を開催し、協議することとなった。

出席者一濱砂委員長、小牧副委員長、

済陽・久保田・鮫島(貴)・黒木・

鶴田・中村・丸山・鮫島(浩)・高村・

白尾・川野・楢原・肥後・熊原・

吉田・久永・外山・鈴木・櫛橋・

遠藤・上田委員

(県医療薬務課) 田中課長、上田主幹、

野中主査、原田主事

(県医) 河野会長、富田副会長、池井・立元・

吉田(委員と重複)・金丸・佐々木・

石川常任理事、米澤・花田理事、

久永課長、鳥井元課長補佐

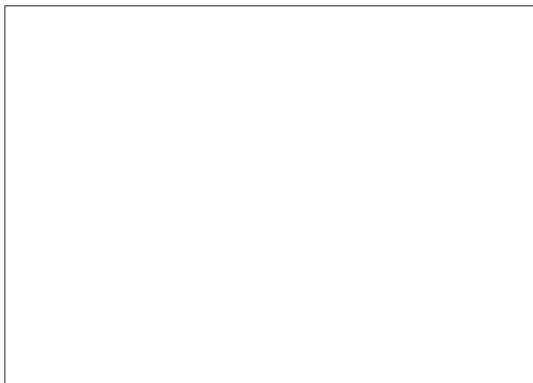
## 九州医師会連合会第1回各種協議会

と き 平成28年10月 1 日(土)

ところ ホテル日航熊本

### 地域医療対策協議会 (地域医療構想, 新専門医制度を含む)

伊津野熊本県医理事の進行により開会し、坂本熊本県医副会長、松原日医副会長の挨拶の後、座長に担当県の坂本副会長が選出され協議に入った。



#### (1) 地域医療構想策定までのプロセスについて (福岡県)

##### <提案要旨>

福岡県は、県内13の構想区域すべての策定素案を県医師会が作成し、各区域の調整会議議長(郡市医師会長)、医師会選出の委員及び医師会の担当理事により検討していただき、各区域の病院、有床診療所及び在宅医療を行っている診療所から意見聴取している。各県の策定プロセスをお伺いしたい。

**各県回答** 宮崎県では、策定前から構想区域ごとの地域医療構想調整会議を開催し、地域の意見を聴取した上で策定作業を進めた。各

調整会議に本会役員等が出席し助言を行ったり、地域医療に関するデータを詳細に解説する説明会を地域ごとに開催したり、調整会議での議論が円滑に進むように支援を行った。他県も、策定前から構想区域ごとに会議を開催しているところが多かった。

**松原日医副会長** 地域医療構想はあくまで目安である。強制力が働くのは公的病院に対してのみである。調整会議で住民にとって何が必要かの視点に立って協議していただきたい。

#### (2) 必要病床数の構想区域を越えた調整について(福岡県)

##### <提案要旨>

福岡県には地域医療構想において2025年の必要病床数が現在の許可病床数を上回る地域が存在する。福岡・糸島構想区域がそれにあたり、周辺の3つの構想区域との間で必要病床数を調整するよう協議を行っているが、各県においてもこのような事例があるのか、またあるとしたら、どのような方法で調整を行っているのかお伺いしたい。

**各県回答** 福岡県以外に、熊本県、鹿児島県、沖縄県に必要病床数が現在の許可病床数を上回る地域が存在した。福岡・糸島構想区域の例では、周辺構想区域間でうまく調整ができたと報告があった。沖縄県からは、病床が足りない地域があり病院の増加が求められているが、病院が増えると医療従事者が足りなくなるとの懸念が示された。

### (3) 地域医療構想策定と地域包括ケア病棟について(長崎県)

#### ＜提案要旨＞

長崎県では病床過剰地域において公的病院の合併による増床(100床)があり、民間病院の脅威となっている。さらに、病床稼働率の低下も原因し地域包括ケア病棟(50床)への転換が考慮されている。

本来公的病院の役割は採算性などの面から、民間医療機関による提供が困難な医療を補完・提供するとされている(公立病院改革ガイドライン)。

各県において、大規模急性期病院や公的病院でこのような地域包括ケア病棟への転換が行われている事例がないか伺いたい。

### (4) 公立病院の地域包括ケア病棟への参入について(佐賀県)

#### ＜提案要旨＞

公立病院で7:1病床による重症度、医療・看護必要度25%に達する事が困難であるとの理由から地域包括ケア病床への参入の動きがある。地域に民間の回復期病床も複数あり、また将来に向けて急性期から回復期病床取得を計画する病院もあり、今後の民間病院の経営を圧迫すると危惧する。

3, 4は一括協議

**各県回答** 公立病院は、周産期、小児、救急、へき地、災害等不採算分野や政策医療を担うべきで赤字は当然で安易に地域包括ケア病棟に転換したりして民間医療機関の経営を圧迫すべきではないという意見が多かった。回復期が全く足りていない地域や公立病院が中心となり地域包括ケアシステムに取り組んでいる地域等もあるので、それぞれの事情も踏まえ対応すべきとの意見もあった。また、長崎県の公的医療機関の地域包括ケア病棟への転換の例は、病院に対し説明を重ね中止に

なったことが報告された。

**松原日医副会長** 公的病院は赤字であることは当然である。また、郡市医師会が普段から公的病院の運営に関わっていくことが重要である。

### (5) 基準病床数と必要病床数(病床の必要量)との関係について(宮崎県)

#### ＜提案要旨＞

「基準病床数」と「地域医療構想における必要病床数」はまったく別の概念であるとの認識であるが、国は両者をリンクさせて基準病床数を削減し、診療報酬等による病床削減圧力を強めてくることを危惧している。また、一部の地域においては地域医療構想の必要病床数が現行の基準病床数を上回ることもあり、そのような地域からは両者をリンクさせるべきとの動きが出てくることも否定できない。

基準病床数と必要病床数は切り離すべきだと考えるが、日医の見解、及び現在の議論の状況について伺いたい。

**松原日医副会長** 日医では、必要病床数ではなく病床の必要量である、数ではなく量であると常々主張している。病床数ではなくあくまで量を検討するものであると考えないと数が独り歩きしてしまう。

### (6) 地域医療介護総合確保基金の地域の実情に応じた配分について(宮崎県)

#### ＜提案要旨＞

地域医療介護総合確保基金は、昨年度から区分Ⅰの病床の機能分化・連携に関する事業に対し重点的に予算が配分され、区分Ⅱの在宅医療の推進や、区分Ⅲの医療従事者確保に関する事業は予算要望をしても増額の見込みはないようである。

しかしながら、2025年に向けてあるべき医療提供体制を整備するためには、在宅医療の

推進や、医療従事者確保も大変重要である。日医は、医療従事者が不足している地方の現状や各地域の特殊事情に十分配慮した上で、きめ細やかな配分をするように国に働きかけていただきたい。

**松原日医副会長** 日医としても区分Ⅲの配分を増やすようかなり強く交渉している。人材育成が大事であることを、政治の世界に分かってもらえるようさらに努力したい。

#### (7)新専門医制度がもたらす地域医療への影響 に対する各県の対応について(福岡県)

##### ＜提案要旨＞

今回延期となったが、問題の本質は解決しておらず、専門医の更新が基幹病院の医師に限られるのは自明である。医師全員が専門医資格を維持できるわけではなく、専門医制度は専門性として各学会へ任せ、日本医師会は傘下の郡市医師会、一般診療を行う日医会員への指導性を高め、その立場を守る制度確立へ努力していただきたいと考える。福岡県医師会では、地域医療に根差した医師を各医師会が保証し、広く国民の支持を得る制度を確立すべきと考え、福岡県医師会認定総合医制度を創設した。これこそが、総合診療を担う総合診療専門医であると考えている。

また、新専門医制度がもたらす地域医療への影響を低減させるために、行政と医師会が現時点で行うべき最重要課題は医師の配置を地域医療支援センターで決めることであると考えている。

#### (8)新専門医制度に対しての各県医師会の取組みについて(熊本県)

##### ＜提案要旨＞

今回の新専門医制度は、様々に問題をはらみ、日医や病院団体などからの反対にて1年延期されたが、一番の問題点は導入することによる医師の地域偏在がさらに拡大する懸念

があることである。各県医師会の対応や行政との協議など実情をお伺いしたい。

(7)、(8)は一括協議された。

**各県回答** 各県から、新専門医制度により医師の地域偏在がさらに進むことへの危惧が示された。佐賀県や大分県ではすでに一部の医療機関から医師の引き上げが起こっていると報告があった。地域に混乱をきたさぬよう、県、大学、医師会の緊密な連携のもと取り組むことが重要であり、宮崎県では宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会(会長：県医師会長)や宮崎大学医学部附属病院専門研修プログラム連絡協議会において、地域医療に配慮したプログラム策定をお願いしている。

また、海外留学や出産、地域枠の勤務義務などの事情があってもキャリア形成ができるような仕組みづくり、離島やへき地で働く医師へのインセンティブを求める意見があった。

**松原日医副会長** この制度の最終目的は、国が医療に介入して支配下に置き、専門医の定数や配置を決め国の財政的基盤を守ることだと感じた。8千人の医師が2万人の定数に振り分けられると、研修医の奪い合いが起こる。医師が都会の大病院に集中し地域にいなくなり、地域医療が崩壊するということで政治を動かし一旦停止をした。ダブルボードを認めることにし、すべての医師が専門医を取得しなければならない件は無しにした。サブスペシャリティーについても一緒に議論するように求めている。規制が強すぎてお産や進路変更など少しでも外れてしまうと続けられないプログラムも緩やかにする方向で検討してもらっている。

総合診療専門医については、理念は非常に素晴らしいが、今のプログラムで内科専門医や外科専門医に対峙できる専門医が育成できるのか基本に立ち返って検討する必要がある。

### (9)地域医療連携推進法人へ向けた取組み状況について(鹿児島県)

#### <提案要旨>

改正医療法に基づき、平成29年4月2日に施行される地域医療連携推進法人(以下「連携推進法人」)制度に関しては、平成28年3月24日付けメディファックスによると、認定取得に向け全国で約30事例の検討が進んでいるとのことである。鹿児島県内でも新聞報道で公表されている範囲で2事例が検討されている。

日医のご尽力により、「法人理事のうち、少なくとも1人は診療に関する学識経験者の団体(郡市医師会)の代表者が就任をすること。地域の関係者で構成する地域医療連携推進協議会を設置して、法人の業務状況に対して評価を行い、意見具申ができること。この意見具申を法人は尊重する義務を負うこと。知事の認可・認定に関しては、予め都道府県医療審議会の意見を聞くこと」など医師会として一定のチェック機能が働く仕組みを取り入れていただいたところであるが、制度施行半年を控え、日医の考え及び検討状況についてお伺いしたい。

**各県回答** 鹿児島県以外に事例はなかった。

**松原日医副会長** 地域医療連携推進法人については、理事の内一人は地域医療の関係者とする、地域の関係者で構成する地域医療連携推進協議会を設置し意見具申できることなどいくつかの制限をつけている。将来の医療提供体制に大きく関係する制度であり、地域に与える影響について慎重に見守っていかなければならない。メリットは病床過剰地域でも法人内で病床を融通出来るということであるが大変危険なことである。地域医療連携推進協議会で意見を出して、問題があれば日医に連絡をいただきたい。

出席者一富田副会長、池井・佐々木・高村常任理事、久永課長

#### 医療保険対策協議会

水足熊本県医師会理事の進行により開会し、八木熊本県医師会副会長、松本日本医師会常任理事の挨拶の後、座長に担当県の八木副会長が選出され協議に入った。

各県から提出された11議題について、討議が行われ、各議題について各県からのご意見、日医からのコメントという流れで協議が行われた。(1～4, および7・8については、一括討議)

### (1)新規個別指導について(福岡県)

#### <提案要旨>

新規個別指導は、新規指定から概ね6か月で実施。本県では毎年100件前後の新規個別指導の対象医療機関が発生している。新規個別指導の結果、再指導となった医療機関がある。また、返還金を求められているのが現状。

新規個別指導は教育的指導であるべきで懲罰的であってはいけないと聞いている。新規指定医療機関では金額は限定されているが多数の例で返還金を支払っており、更に再指導例では通常の個別指導での再指導と全く区別がない等配慮・改善いただきたい点がある。

各県の新規個別指導の状況及び新規個別指導に対する日医のご意見をお伺いしたい。

**各県回答** 各県ともに、新規個別指導でも返還を指示される場合ある。返還は、指導の際に持参したカルテに限って指示されることが多い。しかし、「新規指導はあくまで教育的であるべきで返還を求めるべきでない」という意見が中心であった。

**松本日医常任理事** 新規の集団指導を行ってから、新規個別指導を実施するようにと厚生労働省に申し出をしている。新規個別指導における再指導件数の割合は、各地方厚生局の年間処理件数との関連もあり、新規の再指導の方向性は現在、厚生労働省と協議・検討中である。

## (2) 最近の個別指導における指摘事項について (沖縄県)

### <提案要旨>

最近の個別指導において、特に重点的に指摘されている事項があれば情報共有したい。当県では直接診療報酬の返還に結びつくことはしないが、電子カルテの運用に関して今年度からかなり細かな指摘がなされている。

指摘事項の中には電子カルテのシステムの根本的な問題が関わっているなど、電子カルテを提供する業者が対応しないと如何ともしがたい事もある。提供する業者に対して指導内容に見合ったシステム開発を担保するよう義務づける等の対応は出来ないものだろうか。九州各県のご意見並びに日医の見解をお聞かせ願いたい。

**各県回答** 電子カルテについては、各県ともに医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに沿って適切に運用するように指摘がなされている。指摘事項としては、パスワードの定期的な変更や担当者別のパスワード設定などが多いとのこと。

**松本日医常任理事** 医療機関での対応は難しいと思われる。システムの関係で行政が推奨するシステムを認定するなど考慮する。できれば、ORCAを使用していただきたい。ただ、ORCAも指摘されている問題があるようなので、調査していきたい。

## (3) 個別指導における往診料の査定について (長崎県)

### <提案要旨>

長崎県では最近、在宅医療における往診料の査定が頻繁にみられる。査定は往診における要件の厳格な運用によるものである。

緊急的に往診した時、翌日も診察したほうが良いと判断し、翌日も往診した場合往診料を算定する医療機関が多く、これは自然の流れと考えていたが、個別指導の場において、これは計画的であるから再診料のみの算定となると判断され、往診料を査定されている。

各県では個別指導でどのような指導が行われているか伺いたい。

**各県回答** 各県ともに妥当性や必要性について判断できるように、注記の記載を遺漏なく行うこと、病名についても注意することが必要であるとの意見が多かった。

**松本日医常任理事** 医療機関の都合で往診することは当然できない。往診の必要性をカルテに記載し、妥当性を判断し算定できるように、指導していただければと思う。

## (4) 九州厚生局個別指導時の写真撮影、ビデオ撮影等に関しての是非について(宮崎県)

### <提案要旨>

最近本県では、九州厚生局個別指導に際し、指導を受ける医院のスタッフによる写真撮影、ビデオ撮影を試みたため、その日の指導は行われず中止となったケースがあった。指導拒否から監査に進展してしまう恐れもあり、当医師会としては取扱いに苦慮してい

る。各県で同様な事例が無かったか、また、医師会としてどういう立場で臨んだらいいのか、各県並びに日医の見解をお伺いしたい。

**各県回答** 各県、録音の要望または弁護士会の立会の例はあったが、本県のようなビデオ撮影の事例は無かった。ただ、「指導拒否」の判断は大きな問題ではないかとの意見もあった。

**松本日医常任理事** カルテ等の個人情報もその場にあるため、やはり写真やビデオ等での撮影については好ましくないと思う。また、ビデオ撮影を行うことで指導の場が、厳格化してしまうとも考えられ、それは好ましい姿ではない。

#### (5) 厚生局との連携した保険診療(適時調査等)に関する研修会などの実施について

(鹿児島県)

##### ＜提案要旨＞

平成28年度からの適時調査の運用見直しを図られているところである。

適時調査は、医師会からの立会いが無いことから、具体的な指摘事項等に関して、本県でも把握しづらい状況である。適時調査の指摘事項や保険診療に関する事項について、九州各県医師会で九州厚生局各県事務所と連携した研修会などの取組みがあればご教示いただきたい。

**各県回答** 福岡県のみ研修会を開催している。各県ともに適時調査について立会もなく適時調査による指摘事項については不明とのこと。

**松本日医常任理事** 適時調査は、医師会の立会が無いため、調査を受けた医療機関等から指摘事項を聞いて、結果を把握していただきたい。

#### (6) 各県発行の保険診療に関する手引き書について(大分県)

##### ＜提案要旨＞

大分県では昭和53年より「保険診療の手引き」を発刊している。

しかし過去に、本書の内容を理由に保険者側が査定(或いは再審査請求)を行う事があった。

本書はあくまで現場で診療する医師会員の目安として参考にされる事を想定して発刊したが、審査会、保険者のガイドライン化される可能性を払拭できず、版を重ねるに従い以前より消極的な記載内容になるのではないかという懸念がある。各県の対応についてうかがいたい。

**各県回答** 保険診療の手引きは、大分以外に福岡・佐賀・宮崎が発行している。福岡・佐賀でも保険者からの再審査請求等に利用されることがあったため、取扱いに注意しているとの意見があった。

**松本日医常任理事** 手引書を基に保険者が査定等に使用されることはあるべきではない。手引書はあくまでも目安であることを周知していただきたい。

#### (7) 時間外対応加算、在宅療養支援診療所(病院)、地域包括診療加算、地域包括診療料の届出状況と実態調査等の実施の有無について(佐賀県)

##### ＜提案要旨＞

佐賀県の届出状況は、時間外対応加算は全診療所の44.3%、在宅療養支援診療所も全診療所の24.6%が届出を行っているが、地域包括診療加算は、55施設(全体の9.2%)の届出にとどまっている。

この中で、時間外対応加算2,3を除いては、24時間、365日の対応が義務付けられているが、各県医師会ではこの実態の調査などが行われているか、また、社会保険医療担当者の指導の場で、24時間、365日対応の問題が査定の対象となった事例があるかをお尋ね

したい。

また、このような加算や施設基準の届出を行っていないくても、24時間、365日に近い対応をしている医療機関はかなり存在し、その多くは、時間的に縛られることを理由に届出を行っていないのではないと思われる。

届出の有無だけで診療報酬に格差をつけることは公平性に欠けると思えるし、もし、届出を行った施設で不備が生じた場合、特に訪問系では、そのリスクは計り知れない。このような加算や施設基準は廃止をし、再診料、時間外加算、訪問診療料などでは、全ての医療機関に公平となる診療報酬設定を求めたい。

**各県回答** 実態調査を行っている県は無かった。各県の届出状況はほぼ同様であり、届出基準の見直しは必要であると感じている。特に加算のための要件緩和を求める意見が多かった。

**松本日医常任理事** 地域包括診療加算は、対象疾患の限定や届出を行う診療が限られているため、届出が少ないことは仕方ないと認識している。また、24時間、365日対応については、全てが公平には困難ではある。納得していただけない部分はあるかもしれないが、長い目で見てほしい。今後、医師の基礎的技術を評価できる体系を目指したい。

#### (8) 認知症地域包括診療料、認知症地域包括診療加算の算定状況について(大分県)

##### <提案要旨>

2016年診療報酬改定では、認知症施策の目玉的項目として認知症地域包括診療料(1,515点/月1回)、認知症地域包括診療加算(30点/再診時)が新設されたが、いずれも施設基準や内服薬剤数の制限などから請求しづらいとの声がある。各県における両項目の算定・請求状況について情報をお聞かせ願いたい。

**各県回答** 九州各県ともに算定件数はかなり

少ない。

**松本日医常任理事** 要件緩和の見直しの方針で努力したい。

#### (9) 薬価改定財源等の行方について(福岡県)

##### <提案要旨>

消費税10%引き上げが平成31年10月に延期されたため、次回平成30年度の医療・介護同時改定は財源的に極めて厳しい状況が予想される。潜在的技術料として本体に充当されてきた薬価・材料費引き下げ分が平成26年度・平成28年度とも改定財源から切り離されたことは誠に遺憾であるが、切り離しが常態化するのであれば、先進諸国に比べ低く評価されている技術料のあり方の議論が必要になってくる。各県並びに日医のご意見をお伺いしたい。

**各県回答** 各県ともに賛同するとの意見であった。

**松本日医常任理事** 薬価改定分の本体への充当については、なかなか難しい問題である。薬価改定の問題は、財務省との折衝であり、厚労省とスクラムを組んで対応していきたい。

#### (10) 向精神薬の大量入手事案への対応について(沖縄県)

##### <提案要旨>

重複受診や自費で処方依頼したり、処方箋の紛失を理由に再受診する等、不適切な受診による向精神薬の大量入手事案が発生している。

本県では、県、県薬剤師会と協議を行い、対応方針を定めた文書を作成し、各医療機関へ周知を図っているが、各県の対応等についてご意見をお聞かせ願いたい。また、日本医師会の見解をお伺いしたい。

**各県回答** 各県において、営利目的での大量入手の事例が発生している。鹿児島では会員から情報提供があった場合には、医療機関へ

周知を行っているとのことであった。

**松本日医常任理事** 行政や薬剤師会等関係団体と連携を取って対応していきたい。

#### (11)高額医療薬品の今後の対応について

(熊本県)

##### <提案要旨>

高額薬剤の問題は中医協でも大きく取りあげられており、高額薬剤の拡大による地域医療費への影響が顕著である。一方で、難治性疾患患者に福音をもたらし、開発メーカーのイノベーションを保つためにはやむを得ない点もあると思う。

今後、様々な高額薬剤への薬価対応は公的保険制度維持において非常に重要な問題となってくると思われるが、日医の今後の対応と見通しについて伺いたい。

**各県回答** 各県ともに賛同するとの意見であった。

**松本日医常任理事** 画期的な新薬が出ることは、歓迎するものであるが、あまりにも高価になる等算定ルールの見直しを中医協で主張している。現在は、国の留意事項通知等で使用が制限されるという形を取っている。

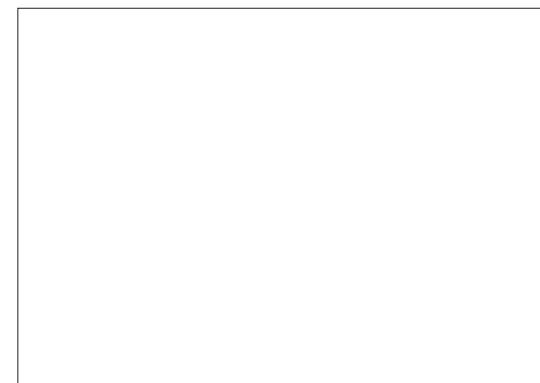
今後ガイドラインが徹底すれば、使用量も価格も安定してくるだろう。

出席者ー濱田副会長・小牧常任理事・

佐々木(究)理事・田崎主事

### 介護保険対策協議会 (在宅医療・地域包括ケアを含む)

林熊本県医理事の進行により開会し、高橋熊本県医副会長、鈴木日医常任理事の挨拶の後、座長に担当県の林熊本県医理事が選出され協議に入った。



#### (1)認知症サポート医の養成について(福岡県)

##### <提案要旨>

今年度の診療報酬改定で新設された「認知症ケア加算Ⅰ」算定のための施設基準における適切な研修に、認知症サポート医養成研修が該当することから、算定要件を満たすための受講希望が増えている。福岡県では、福岡県医の推薦者以外の受講は認めていない。各県の状況と対策、日医の見解を伺いたい。

#### (2)認知症サポート医養成研修の実態について (大分県)

##### <提案要旨>

大分県では、今年度の診療報酬改定の影響で、認知症サポート医養成研修の受講希望者が大幅に増え、特に病院勤務医師の増加が目立っている。認知症サポート医の本来の役割は、各地域での多職種連携を推進するなど、地域資源をサポートすることである。今回の診療報酬で求められる要件は病院内での活動が主体であるため、認知症サポート医の研修内容を算定要件とすることには疑問がある。各県の現状と見解を伺いたい。

(1)、(2)は一括協議された。

**各県回答** 福岡、鹿児島、大分県医では、医師会推薦の医師のみについて養成研修の受講を認める制限が設けられていた。しかし、県等から旅費の補助がなく、自費での参加を希

望する場合は多くの県で制限が設けられていない。診療報酬算定のみを目的とする受講者の増加は望ましくないため、対策が必要との意見があった。

**鈴木日医常任理事** 診療報酬の要件を満たすためだけに養成研修を受ける医師が増えることは、好ましくない。サポート医本来の主旨を理解し、機能を果たせる医師の受講が望ましい。今後、実態把握に努め、厚労省と対策を協議したい。

### (3) 要介護者の重度化と介護サービス運営主体の経営形態に関して(福岡県)

#### <提案要旨>

今後、要介護認定が厳しさを増し、要介護者は重症者で占められることが予測され、医師の関与の必要性はさらに高まる。そのような中、特別養護老人ホームは社会福祉法人、その他の多くの介護保険サービスは株式会社で運営が可能で、医師以外が最高責任者となっている。今後、医療系サービスと同様に、介護サービスも医師を最高責任者とする必要性が出てきたと思うが、日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 各県とも賛同する意見であった。

**鈴木日医常任理事** まずは、医師が介護サービスへの理解を深め、医師が医療と介護を一体的にみていく必要があるという意識を持つことが重要である。そのための研修等を医師会主導で行っていただきたい。

### (4) 地域医療介護総合確保基金(介護分)を活用した介護従事者の確保に関する取組み状況について(鹿児島県)

#### <提案要旨>

地域医療介護総合確保基金(以下「基金」)を活用した介護従事者の確保に関する事業について、鹿児島県では、「鹿児島県介護人材確保対策検討会」(県医を含む22団体で構成)を

設置し、県行政や関係団体の実施事業等について情報共有を図り、対策を協議している。基金を活用した事業の好事例などについて各県と日医へ伺いたい。

### (5) 地域医療介護総合確保基金(介護分)における介護施設等の整備に関する事業の実施状況について(長崎県)

#### <提案要旨>

基金(介護分)の施設整備事業は、主に市町が事業主体となっており、本会ではその決定のプロセスや行われた事業の把握が医療分に比べ出来ていない。各県の状況について伺いたい。

(4)、(5)は一括協議された。

**各県回答** 各県の状況について報告があった。なかでも介護従事者確保のための基金事業として、福岡県医より、小・中・高生、大学等一般、介護事業者のそれぞれを対象に、介護の仕事を解説するための冊子を作成して配布した事業が紹介された。介護職に対するイメージの誤解を解消し、人材確保の促進を目的に作成されたもので、各教育現場で反応が良かったと報告された。

**鈴木日医常任理事** 全国的にみて、九州は基金事業が順調に進んでいる印象がある。九州各県で好事例を共有しながら事業を実施していただきたい。介護分野でも医師会がリーダーシップをとれるよう、協議の場を設けてほしい。

### (6) 介護職の報酬の基本問題を考える(大分県)

#### <提案要旨>

以前より、介護職の収入は全産業平均の約70%または月収で約10万円低いといわれている。介護職員処遇改善加算で改善しようとしているが、いまだ満足できる報酬にはなっていない。介護職員確保のためにも、介護報酬総額を上げるか、何かツールを活用して介護

職一人当たりの仕事効率を上げる必要がある。日医及び各県の見解を伺いたい。

**各県回答** 介護職員の処遇改善には、加算対応ではなく、介護報酬そのものの引き上げが必要であるとして、各県とも賛同する意見であった。また、鹿児島県医から、介護従事者の確保に向けては財源がない中でどのようにシステムを整備するかが課題であるとして、復職支援や職場環境改善の取組みを、県行政と協議しながら進めていることが報告された。

**鈴木日医常任理事** 介護職員処遇改善加算については、来年度に介護報酬の一部改定が行われ、さらに見直される見込みである。介護職員の確保は全国的に大きな問題であり、高齢者や女性が働きやすい職場体制づくりの推進と次の世代の育成を同時に検討していかなければならない。

#### (7)在宅における看取りについて(鹿児島県)

##### ＜提案要旨＞

在宅患者が増える中で、在宅で看取りを行う医師などの医療関係者の負担軽減をどのように行うか検討する必要がある。鹿児島県では、医師が常駐せず巡回診療で対応している有人離島が存在する。このような地域では、看護師による看取りのサポートが欠かせない。看護師へ法医学等に関する十分な教育を行うことは必須であるが、無医地区では研修会等へ出席することも難しいのが現状である。開催場所やカリキュラム、eラーニングの活用など開催方法に関しては受講者に負担のかからない対応が望まれる。在宅看取りに関する各県の取組み状況と日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 基本的には、医師が死亡診断を行う原則を守りながら、限定的に看護師の看取りサポートが行われるような体制づくりを検

討する必要があるとの意見であった。

**鈴木日医常任理事** 政府の規制緩和の提言を受け、厚労省に設置された検討会では、専門的な教育を受けた看護師の補助のもとに医師が遠隔から死亡診断書を交付できる場合の限定的な条件等について協議されている。

#### (8)各県における地域ケア会議への医師の参画状況について(佐賀県)

##### ＜提案要旨＞

地域包括ケアシステムの構築には地域ケア会議が重要であるが、佐賀県では地域ケア会議に医師が参画していない市町がある。各県の医師の参画状況、また医師の参画に向けての好事例があれば伺いたい。

#### (9)医師が参加する地域ケア会議について

(大分県)

##### ＜提案要旨＞

大分県では、医療と介護の連携強化、地域ケア会議の質の向上を目的として、今年度より医師が参加する地域ケア会議を県内3市でモデル的に開催することになった。各県の地域ケア会議において、すでに医師が参加している事例があれば伺いたい。

(8)、(9)は一括協議された。

**各県回答** 長崎県医から、長崎市の取組みとして、在宅医療に関心のある「サポート医」を地域包括支援センターに配置して、地域包括ケア全体に関わる課題を検討する会議は「サポート医」、個別事例を検討する会議は「主治医」を優先して会議の日程を調整し、全ての地域ケア会議に医師が参画する体制を作ったことが報告された。

**鈴木日医常任理事** 郡市医と市町村で連携し、どの段階のケア会議に医師が参加すべきかの整理や、医師が参加しやすい時間帯に開催するなどの体制づくりを行っていただきたい。そのために県医と県が、郡市医と市町村

を十分にサポートする必要がある。

**(10)在宅療養支援診療所の届け出状況について  
(宮崎県)**

**<提案要旨>**

日医が進める、かかりつけ医機能向上の研修会などにより、これまで在宅医療を行っていなかった診療所も関心を持たざるを得ない状況になってきたことから、今後は在宅療養支援診療所が増えていくと思われる。各県の在宅療養支援診療所の届け出状況を伺いたい。また、在宅療養支援診療所の組織化が必要と考えられるが、各県の現状と日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 各県とも、在宅療養支援診療所の届け出数は近年横ばい、もしくは減少と報告された。また、在宅療養支援診療所のみで協議会等を立ち上げている県はなく、今後の検討課題との意見であった。

**鈴木日医常任理事** 全国的にみると、在宅療養支援診療所の数は少しずつ増えている。医師会主導で組織化はしていないが、全国在宅療養支援診療所連絡会と連携を図っている。地域の在宅医療連携体制の構築には、在宅療養支援診療所以外の医師の役割も大きいことから、地域全体で24時間365日で在宅患者を支える体制の整備を行っていただきたい。

**(11)「在宅医療・介護連携推進事業」に係る取り組みについて(沖縄県)**

**<提案要旨>**

沖縄県医では、市町村の「在宅医療・介護連携推進事業(以下、推進事業)」を適切かつ効果的に実施いただくための支援を目的に、県からの委託を受け「在宅医療・介護連携に関する市町村支援事業」を実施している。各県の推進事業の進捗状況や、医師会としての支援体制等の有無等について伺いたい。

**各県回答** 各県とも、郡市医、県行政と連携

し情報を共有しながら市町村で順次開始しているとの報告であった。

**鈴木日医常任理事** 医師会から積極的に市町村に働きかけ、良好な関係を構築し、連携して事業を進めていただきたい。

**(12)在宅医療を担う医師の確保等について  
(沖縄県)**

**<提案要旨>**

在宅医療を担う医師の確保が喫緊の課題となっているが、平成26年度の診療報酬改定により、在宅療養支援診療所の届け出を取り下げる医療機関も出てきている。各県での対策や取り組み状況を伺いたい。

**各県回答** 各県から、基金等を活用して会員に在宅医療を普及啓発し推進するための研修を実施していることなどが報告された。

**鈴木日医常任理事** 地域のかかりつけ医等で連携し、お互い在宅患者の診療をカバーし合えるような体制の構築が望ましい。

**(13)在宅訪問リハビリの往診料について  
(長崎県)**

**<提案要旨>**

在宅訪問リハビリの継続には、3ヶ月毎の医師の診察と指示が義務付けられている。しかし、訪問診療を行うかかりつけ医とリハビリの主治医が異なる場合、リハビリの主治医がリハビリの指示の目的で往診しても点数が取れない状況である。日医の見解を伺いたい。

**鈴木日医常任理事** 現場での問題点を検証しながら、次期改定に向けて議論を深めたい。

**(14)介護予防・日常生活支援総合事業について  
(熊本県)**

**<提案要旨>**

新たな総合支援事業として、既に早い市町村では平成27年度より要支援1、2及び第二次事業適合高齢者に対して事業が運用されて

いる。各市町村の提供サービスの種類はそれぞれ異なるが、サービスの種類が多くなり、その介護報酬も引き下げられ利用時間もほとんど短縮されている。その結果として、利用者もサービス提供側もサービスの内容を理解していない、事業者参入が少ない等の課題が出てきた。このような問題点を郡市医から市町村に訴えていくべきと考えるが、各県及び日医の見解を伺いたい。

**各県回答** 各県とも賛同する意見であった。国会から、限られた財源のなかで事業を行うためには、事業所やボランティアの協力はもちろんのこと、住民主体型のサービス展開を行うことが不可欠なので、地域に密着した活

動のできる郡市医レベルでの協力支援が重要であると意見を出した。

**鈴木日医常任理事** 介護予防については、大分県臼杵市でモデル事業を行い、全国に広げていくこととされている。予防の段階から介護に医師が関わるという意識付けが重要であり、医師会主導で地域リハビリテーションの枠組みを作っていただきたい。リハビリテーション支援センターを継続して運営されている医師会は、今後も充実と継続に努めていただきたい。

出席者一立元・荒木・金丸常任理事、  
鳥井元課長補佐

## 宮崎県医師会医療情報コーナー

県医師会館1階の「医療情報コーナー」では、分かりやすい医療や介護の本、闘病記のほか、難病・認知症・健康増進や子育てに役立つ本・雑誌・DVDなどを幅広く取り揃えています。県民の皆様への貸出もしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。パソコン情報検索、ビデオ・DVDの視聴もできます。

開室時間：月～金曜日 10：00～19：00、土曜日 10：00～18：00

休館日：日曜・祝日、12月29日～1月3日、8月14日～15日、特別整理期間（3日間）

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地

TEL 0985-22-5118 E-mail : tosho @ miyazaki.med.or.jp

## 九州医師会連合会第360回常任委員会

と き 平成28年11月18日

場 所 ホテル日航熊本

### 1 開 会

### 2 九州医師会連合会長挨拶

(福田稗熊本県医師会長)

### 3 報 告

#### 1) 九州医師会連合会事業現況について

(熊本)

#### 2) 九州医師会連合会歳入歳出現計について

(熊本)

1)及び2)については、平成28年7月1日から平成28年10月31日までの常任委員会等各種会議開催状況及び歳入歳出現計について報告があり了承された。

#### 3) 第116回九州医師会連合会総会及び医学 会関連行事について(熊本)

本日の諸会議及び明日11月19日の合同協議会、総会、医学会、20日の分科会、記念行事について日程等報告があった。

#### 4) 第69回日本医師会設立記念医学大会にお ける各種表彰者に対する慶祝について

(熊本)

11月1日に開催された日医医学会で在任6年の日医役員をはじめ各種表彰者に対する慶祝に関する報告があった。

#### 5) 秋の叙勲等受賞者に対する慶祝について

(熊本)

#### 6) その他

### 4 協 議

#### 1) 第116回九州医師会連合会総会の宣言・ 決議(案)について(熊本)

熊本県で原案を作成し、九州各県医師会からの修正意見を取り入れ第359回九医連常任委員会で承認された宣言・決議(案)をこの常任委員会終了後に開催される第112回臨時委員総会に提案することが了承された。

#### 2) その他

出席者一河野会長、山内事務局長

医療勤務環境改善支援センターを

## 日医インターネットニュースから

### ■医師会活動通じ地域での関係づくりを — 勤務医部会連絡協会で横倉会長 —

横倉義武会長は11月26日、大阪市内で開かれた全国医師会勤務医部会連絡協議会で講演し、地域包括ケアシステムを構築していく上で、日頃から地域の医師、診療所や他の病院との連携がより不可欠になると強調した。その上で、勤務医も医師会活動を通じて、地域の他の医療機関で働く人や介護・福祉関係者との連携を図り、顔の見える関係づくりを進めていくことが重要だと述べた。

またかかりつけ医と、これをサポートする地域密着型病院の勤務医らが、全体の中で連携していく重要性も指摘。既存の医療資源を有効活用しながら超高齢社会に対応していく必要性にも触れ、日本には中小病院や有床診療所が多く、身近なところでいつでも入院できる高齢者の在宅支援システムの構築が可能だという考えを示した。  
(平成28年12月2日)

### ■「同意」と「IC」の違いを提示 — 厚生労働省など合同会議 —

厚生労働省は12月1日、文部科学省や経済産業省との「医学研究等における個人情報の取扱い等に関する合同会議」で、改正版の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」などのQ&Aに記載する事項の素案を示し、指針の「インフォームド・コンセント」(IC)と要配慮個人情報の取得する場合の「同意」の意味の違いを整理した。

「IC」は“同意”と和訳される場合があり、これまでの会議で紛らわしさを懸念する意見が出ていた。Q&Aの素案では、「IC」を「指針において研究対象者らに対し説明すべき事項として定めた項目について説明し、同意を受けること」とした一方、「同意」は「研究対象者の個人情報、研究機関によって示された取り扱い方法で取り扱われることを承諾する旨の当該研究対象者の意思表示」と定義した。

これまで個人情報でないとして取り扱ってきた場合でも、指針改正後は個人情報と見なされ

る情報には「ゲノムデータ等」を例示。「新指針の対象となる」と明記した。

ただし、今回の素案は議論の途中経過に基づくもので、事務局の医政局研究開発振興課は「今後変更があり得る」と強調している。

### ●改正法などの「研究」、定義の明確化を

また、同日の議論では改正個人情報保護法や改正医学研究指針の対象となる「研究」や「研究グループ」の明確な定義が焦点になった。研発課は「全ての研究活動が改正個人情報保護法の適用除外に該当するわけではない」とし、「目的が学術研究である場合」など、同法が適用されないケースを示した。ただ、具体例が示されているわけではないため、日医の石川広己常任理事は「学問研究が滞ることがあってはならない」と強調した上で、「(具体例などを)文面で見せてほしい」と要望。「研究」の解釈についての議論は、次回に持ち越した。

(平成28年12月6日)

### ■同時改定に向け議論スタート、連携重視 — 中医協 —

中医協総会(会長＝田辺国昭・東京大大学院教授)は12月14日、2018年度の診療報酬改定に向けた実質的な議論をスタートさせた。同日は厚生労働省が、介護報酬との同時改定を見据えた検討の考え方案などを提示。療養病床・施設系サービスや居宅等における医療や、維持期のリハビリテーションに関する議論を進めることを確認した。各側の委員からさまざまな意見や要望が出たことを受け、次回以降の総会に18年度改定に関する検討スケジュールが提示される見通しだ。

議論のキックオフとなった同日の総会に厚生労働省は、診療報酬と介護報酬の同時改定に向けた現状と課題を示した。具体的には▽現状と課題▽これまでの検討の概要▽医療・介護提供体制に係る基本施策▽診療報酬改定での対応—に分けて整理。特に診療報酬については「医療と介護の提供体制の確保に多大な影響を及ぼす仕組みである」との基本認識の下、18年度同時改定

が極めて重要な意味を持つことや、医療と介護の提供体制の確保には、2025年から先の将来を見据えた対応が求められるとした。

その上で医療と介護の連携に関する検討項目として▽療養病床・施設系サービスにおける医療▽居宅等における医療(訪問診療・訪問看護、歯科訪問診療、薬剤師の業務)▽維持期のリハビリテーションの3項目を「特に重要と考えられる」項目に位置付けた。

### ●医療と介護の財源論で応酬

厚労省の説明に対し、支払い側の吉森俊和委員(全国健康保険協会理事)は「総論としては異論ない」とした上で「次期改定では薬価制度の抜本的見直しも大きな論点になると考えているが、今回の検討項目に書き込まれていないのはどういうことか」と質問。厚労省保険局の迫井正深医療課長は、薬価制度の抜本改革や入院、外来、調剤など診療報酬における総点検は次期改定でも行うと説明。幸野庄司委員(健保連理事)は「同時改定では、早い段階で医療と介護の連携をどうするのかの基本方針を固め、その方針に沿って中医協、介護給付費分科会でそれぞれ議論できるようにすべき。財源も、医療と介護のすみ分けの方向をきちんと示すことが重要で、早めに進めるべきだ」と指摘した。

これに対し、日医の中川俊男副会長は「診療報酬と介護報酬のすみ分けは財源をどうするか議論であり、必ずしも早くしないといけないものではない。むしろ財源が厳しい時にさまざまなことをしようとすると医療と介護の均衡が壊れることがあることも認識していただきたい」と慎重な議論を求めた。さらに、社会保障に係る財政状況の書きぶりについて誤解を招きかねない指摘した。(平成28年12月16日)

### ■調整幅「5%くらいまで上げてほしい」

#### － 横倉会長 －

横倉義武会長は12月14日の会見後、記者団に

対し、薬価改定時の調整幅について「医療機関で発生する医薬品のロスを考えると、現状の2%ではあまりにも少ない。5%くらいまでは上げてほしい」と訴えた。「医薬品の包装単位が大包装になると、残薬が相当出る。(2%のままでは)処理しきれない」とも述べた。

今月9日の中医協・薬価専門部会では、支払い側の幸野庄司委員(健保連理事)が「もし薬価改定の頻度を変更するという議論になった場合には、調整幅の値が妥当かどうか議論に入ってくる」と問題提起。日医の松原謙二副会長も「2%では対応できない」と応じ、調整幅の引き上げを求めている。(平成28年12月20日)

### ■薬剤の安全管理でダブルチェックを

#### － 厚労省が通知 －

点滴袋に穴が開けられるなど、患者の安全を脅かす事例が続いていることを受け、厚生労働省医政局総務課は、医療機関の安全管理に関する通知(医政総発1125第2号)を都道府県に出した。薬剤を使用する前に、容器の破損や異物混入がないかをダブルチェックするよう求めている。通知は11月25日付で、日本医師会や日本医学会に対しても周知するよう依頼。日医、医学会とも依頼を受け、都道府県医師会長や医学会分科会の理事長・会長に通知を出すなどの動きを見せている。

通知では▽医薬品の使用前には、容器やふた(汚染防止用のシールを含む)の損壊や異物混入などがないか、ダブルチェックなどにより確認すること▽注射薬の混合調製を行う場合は、定められた環境、手順を順守するとともに、処方箋・ラベル・注射薬の照合をダブルチェックなどにより確実にを行い、調製後は原則として速やかに使用すること▽医薬品の保管に当たっては、適切な在庫・品質の管理を行うとともに、必要に応じ施錠管理など、盗難・紛失防止の対策をとること―の3点を、医療機関に周知徹底するよう求めている。(平成28年12月20日)

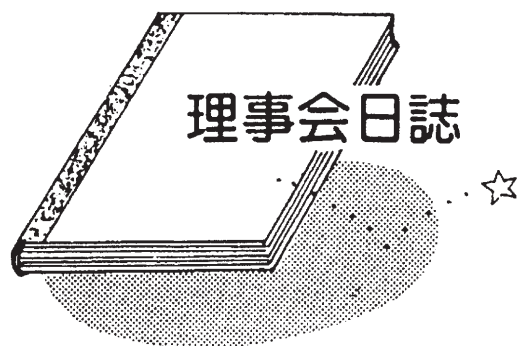
日医インターネットニュースは日本医師会ホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会(<http://www.med.or.jp/>)>メンバーズ>日医インターネットニュース

#### メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザー ID：会員ID番号(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角)

◆パスワード：生年月日の「西暦2桁、月2桁、日2桁」の6桁の数字(半角)



平成28年11月 1 日(火)第22回常任理事協議会

## 医師会関係 (議決事項)

### 1. 医療事故調査制度に係る「支援団体統括者セミナー」の開催について

医療事故調査等支援団体連絡協議会に関係し、医療事故調査の支援及び研修講師として活動される予定の医師および看護師を対象に行われるセミナーで、3名1グループとなっていることから、小牧常任理事と本会支援委員会及び看護協会から人選を行った上で参加することが承認された。

### 2. 後援・共催名義等使用許可について

①平成29年1/15(日)(県歯科医師会館)「第6回食を支援する口腔ケア元気塾in宮崎市」へのご後援のお願いについて  
→「多職種から学ぶ口腔ケアの実際」をメインテーマに開催される研修会で、名義後援を行うことが承認された。

### 3. 白菊会への運営資金援助についてのお願い

医学・医療の発展を願い解剖体を提供する篤志検体登録者の会で、会員に対する運営資金の援助依頼があり、例年同様、県医師会として案内等に協力することが承認された。

また、医学部が主催する解剖体追悼式にもなかなか協力できないことから、県医師

会として白菊会を支援することが承認された。

### 4. 日本医師会の委員会委員の委嘱について

日本医師会から、学術推進会議の委員に河野会長を委嘱したいとの依頼があり、本会として了承することが承認された。また、平成28年度、本会を経由して日本医師会が委嘱した委員(10委員会9名)の確認が行われた。

### 5. 11/8(火)(県医)県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会について

当日のスケジュール及び要望書の最終確認が行われ、軽微な変更は河野会長に一任すると共に円滑な進行に努めることが承認された。

### 6. 業務委託について

①宮崎県主治医研修の業務委託契約について

→主治医意見書に関する記載方法等の研修を行うことによって、適切な要介護認定等の実施に資することを目的とする事業で、契約を締結することが承認された。

## (報告事項)

### 1. 10月末日現在の会員数について

### 2. 10/27(木)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について

### 3. 10/28(金)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

### 4. 10/28(金)(県医)治験セミナーについて

### 5. 10/29(土)・10/30(日)(県医)ICLS指導者養成ワークショップ及びACLS研修会について

### 6. 10/28(金)(宮大医学部)地域医療現場における働きやすい環境を考える会検討会について

### 7. 11/1(火)(県医)治験審査委員会について

### 8. 10/31(月)(県医)県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会について

9. 10/27(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の個別指導について
10. 10/29(土)(県医)産業医研修会(実地)について
11. 10/31(月)(県医)県産業保健連絡協議会等について
12. 10/29(土)(北海道)全国学校保健・学校医大会について

#### 医師連盟関係

##### (議決事項)

1. 11/28(月)(宮観ホテル)河野宮崎県知事と宮崎県経済団体協議会との懇談会の開催について

県政及び各経済団体間の連携を図るために開催される懇談会で、河野会長が出席することが承認された。

2. 11/30(水)(東京)衆議院議員江藤拓「希望ある未来を拓く」政経セミナーについて

「希望ある未来を拓く」政経セミナーと称して開催される会で、協力することが承認された。

3. 12/ 1(木)(東京)第19回武見セミナーのご案内について

本年の総決算と更なる飛躍を願い開催されるセミナーで、協力することが承認された。

平成28年11月 8 日(火)第 8 回全理事協議会

#### 医師会関係

##### (議決事項)

1. 本会外の役員等の推薦について

①宮崎県新人看護職員研修推進協議会委員の推薦について

→新人看護職員研修事業の推進を図るために設置される協議会で、役員改選に伴う後任の推薦依頼があり、佐藤理事を委

員として推薦することが承認された。

2. 各専門分科医会長会の開催について

主に県医師会医学会副会長の人選及び幹事の推薦を行う会長会で、新たに医療事故調査制度の報告を加え、11月24日(木)に開催することが承認された。

3. 郡市医師会からの忘年会のご案内について

3つの郡市医師会から忘年会の出席依頼があり、日頃の御礼も兼ね、可能な限り河野会長及び複数名参加できるよう調整を行うことが承認された。

4. 平成29年 1 / 4(水)(宮観ホテル)2017年寿新年賀詞交歓会のお知らせ

毎年開催されている新年の賀詞交歓会で、河野会長の出席及び参加を希望する役員は事務局に申し出ることが承認された。

5. 「平成28年度在宅医療関連講師人材養成事業研修会」都道府県医師会へのご案内について

地域における在宅医療推進活動の中心的役割を担う講師の育成を目的に開催される研修会で、本会から石川常任理事を推薦すると共に各郡市医師会に案内することが承認された。

##### (報告事項)

1. 11/ 8(火)(県庁)県地方独立行政法人評価委員会について

2. 11/ 3(木)(ハイビスカスG.C.)県医親善ゴルフ大会について

3. 11/ 4(金)(宮観ホテル)宮崎銀行との懇親会について

4. 11/ 2(水)(県医)日医社保指導者講習会復講について

5. 11/ 7(月)(県庁)県防災会議国土強靱化部会について

6. 11/ 7(月)(県医)健康教育委員会について

7. 11/ 2 (水)(県医)九州プライマリ・ケア功労賞検討会議について
8. 11/ 4 (金)(日医)日医勤務医委員会について
9. 11/ 4 (金)(日医)日医救急災害医療対策委員会について
10. 11/ 3 (木)(滋賀)滋賀県在宅医療セミナーについて
11. 11/ 4 (金)(県医)認知症サポート医フォローアップ研修会について
12. 11/ 5 (土)(県医)人体シミュレータを用いた在宅医療研修会について
13. 10/26(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について
14. 10/26(水)(県医)県口コモティブシンドローム対策協議会について

平成28年11月15日(火)第23回常任理事協議会

## 医師会関係

### (議決事項)

1. 11/23(水・祝)(宮崎市民プラザ)「産業カウンセラーの日無料公開講座」のご案内について

「自分らしく働く“私”のために～カウンセリング体験をしよう!～」をメインテーマに開催される無料公開講座で、会員への周知依頼があり、県医師会のメーリングリスト(MMA通信)を通じて案内することが承認された。

### 2. 本会外の役員等の推薦について

- ①宮崎県個人情報保護審議会委員の委嘱について

→行政等が実施する個人情報保護制度の運用に関して意見する審議会で、引き続き濱田副会長が委員に就任することを承認した。

3. 11/29(火)(県医)各郡市医師会長協議会について

各郡市医師会長の出席及び提出議題の最終確認が行われ、制度開始1年を経過した医療事故調査制度の状況を追加報告することが承認された。

4. 平成28年度県内医療機関合同就職説明会について

県立看護大学が県内就職支援の一環として開催する説明会で、申し込みを行った医療機関の情報が全て提供されるよう要望すると共に、周知活動に協力することが承認された。

5. 12/8(木)(JA-AZM)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の新規個別指導等の実施に係る立会について

4 医療機関を対象に行われる新規医療機関を対象とした個別指導で、嶋本理事を立会人として派遣することが承認された。

6. 平成29年 1 / 7 (土)・ 8 (日)(熊本)「九州医師会連合会平成28年度救急・災害医療担当理事連絡協議会」並びに「九州医師会連合会平成28年度第 1 回災害医療研修会」の開催について

担当理事連絡協議会に加え、災害時における医療コーディネート及び医療体制の強化を目的に研修会を開催するもので、出席者については、各県の受講定員が6名のため担当理事を中心に人選することが承認された。

7. 平成29年 1 /21(土)(福岡)次期診療報酬改定の要望事項に係る平成28年度九医連医療保険対策協議会の開催について

日医社会保険診療報酬検討委員会に提出する要望を検討すべく開催される協議会で、出席者については、担当理事を中心に人選すると共に、各郡市医師会及び専門分

科医会等に次期診療報酬改定の要望事項を照会することが承認された。

#### (報告事項)

1. 週間報告について
2. 11/10(木)(国保連合会)県保険者協議会について
3. 11/14(月)(県医)医療安全対策セミナーについて
4. 11/14(月)(県医)広報委員会について
5. 11/10(木)(県医)地域医療構想委員会について
6. 11/12(土)(シーガイア)病院部会・医療法人部会合同研修会について
7. 11/13(日)(宮崎市民プラザ)世界糖尿病デー市民公開講座について
8. 11/14(月)(県医)県総合診療円卓会議について
9. 11/12(土)(県医)産業医研修会について
10. 11/ 9 (水)(福岡)九医連感染症対策協議会について
11. 11/ 9 (水)～11(金)(福岡)世界医師会one health国際会議について
12. 新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づく特定接種(医療分野)の登録について

平成28年11月29日(火)第9回全理事協議会

#### 医師会関係

##### (議決事項)

1. 国保審査委員の推薦について  
選任基準に従い郡市医師会及び専門分科医会等から出された委員，保険医代表15名，保険者代表15名を推薦することが承認された。
2. 本会外の役員等の推薦について  
①宮崎県指定難病審査会委員の推薦に

ついて

→任期満了に伴い神経内科及び皮膚科領域の推薦依頼があり，引き続き赤嶺俊彦(赤嶺クリニック)先生及び帖佐宣昭(古賀総合病院)先生を推薦することが承認された。

#### 3. 平成29年 1 /17(火)(日医)平成28年度第3回都道府県医師会長協議会の開催について

同日，日医連執行委員会との合同新年会が開催される会長協議会で，河野会長が出席すること及び提出議題は河野会長に一任することが承認された。

#### 4. 平成29年 2 / 4 (土)(熊本)「九州医師会連合会第361回常任委員会」並びに「平成28年度九州医師会連合会第2回各種協議会」の開催について

各種協議会の開催種目等が決定したことから，医療事故調査制度を濱田副会長，地域医療対策を池井常任理事，医療保険対策を小牧常任理事，介護保険対策を金丸常任理事に提案事項等の取りまとめをお願いすることが承認された。

#### 5. 会費減免申請について

在籍20年以上で満80歳(県医)の高齢による会費減免2名が承認された。

#### 6. 県医役員等報酬支給について

県医師会役員等の報酬等規程に基づき，12月6日に27名の役員等に支給することが承認された。

#### 7. 県医職員の冬季手当支給について

県医師会職員給与規程に基づき，県人事委員会の勧告等を参考に期末・勤勉手当を12月9日に支給することが承認された。

#### 8. 12/15(木)(宮崎市民プラザ)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会いについて

1 医療機関を対象に行われる個別指導

で、小牧常任理事を立会人として派遣することが承認された。

9. 12/22(木)(宮崎市)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会いについて

1 医療機関を対象に行われる個別指導で、川野理事を立会人として派遣することが承認された。

10. 12/ 8 (木)(東京)日医・米国研究製薬工業協会(PhRMA) 共催シンポジウムについて

「日本そして世界における今後の認知症対策について(仮)」をテーマに開催されるシンポジウムで、金丸常任理事が出席することが承認された。

11. 医師確保対策委員会委員の追加委嘱について

吉村学先生(宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授)及び日高良雄先生(県福祉保健部次長)を新たに委員として委嘱することが承認された。

12. 平成29年 1 /23(月)(県医)平成28年度宮崎県感染症危機管理・予防接種実務担当者研修会について

県内の医療関係者及び学校、市町村、保健所等の予防接種・感染症実務担当者を対象に行われる研修会で、会場及びテレビ会議システムの利用等を含め共催することが承認された。

13. 12・1月の行事予定について

12月の追加行事について確認が行われた。

#### (報告事項)

1. 週間報告について

2. 11/ 9 (水)(福岡)九医連常任委員会について

3. 11/15(火)(日医)都道府県医師会長協議会について

4. 11/16(水)(県庁)県障害者施策推進協議会について

5. 11/16(水)(県庁)県障がい者差別解消支援協議会について

6. 11/18(金)(熊本)九医連常任委員会について

7. 11/24(木)(宮大)宮大経営協議会・学長選考会議について

8. 医療に係る消費税問題の解決をはじめとする税制改正要望地元選出国議員への働きかけについて

9. 11/26(土)(宮観ホテル)宮崎県歯科医師会創立100周年記念式典・祝賀会について

10. 11/15(火)(県医)医療事故調査支援委員会常任委員会について

11. 11/17(木)(福岡)九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップについて

12. 11/29(火)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

13. 11/17(木)(宮崎市)社会保険医療担当者の個別指導について

14. 11/18(金)～20(日)(熊本)九州医師会総会・医学会関連行事について

15. 11/22(火)(シーガイア)福岡・佐賀両県医師会長との協議懇談会について

16. 11/24(木)(県医)各専門分科医会長会について

17. 11/20(日)(宮大医学部)県災害医療コーディネーター研修について

18. 11/25(金)(県医)熊本地震におけるDMAT及びJRAT活動の報告・打合せ会について

19. 11/21(月)(県医)広報委員会について

20. 11/24(木)(日医)日医医療IT委員会について

21. 11/26(土)(宮観ホテル)県訪問看護ステーション連絡協議会総会・研修会について

22. 11/21(月)(県医)介護保険委員会について

23. 11/28(月)(県医)医療従事者向け認知症対応力向上研修会について

24. 11/16(水)(県医)首都直下地震を想定した衛星利用実証実験(防災訓練)について

25. 11/26(土)(福岡)九州学校検診協議会専門委員会について

26. 11/26(土)(福岡)九州各県医師会学校保健担当理事者会について

27. 11/17(木)(日医)日医予防接種・感染症危機管理対策委員会について

28. 11/24(木)(県庁)県蚊媒介感染症対策会議について

29. 11/28(月)(宮大医学部)宮大医学部医の倫理委員会について

医師協同組合理事・運営委員合同協議会  
(報告事項)

1. 11/29(火)(県医)医協理事会について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 平成29年 1 /12(木)(宮観ホテル)新春の集い  
ご案内について

午前中に開催されることもあり、出欠等を含めた対応の判断は、河野委員長に一任することが承認された。

2. 平成29年 1 /17(火)(日医)日医連常任執行委員会の開催について

日医連の常任執行委員を務める河野委員長が出席することが承認された。

3. 平成29年 1 /17(火)(日医)日医連執行委員会の開催について

都道府県医師会長協議会の後に開催される執行委員会で、河野委員長及び富田常任執行委員が出席することが承認された。

(報告事項)

1. 11/28(月)(宮観ホテル)県経済団体協議会代表者会議について

2. 11/28(月)(宮観ホテル)河野知事と県経済団体協議会との懇談会について

## 12月のベストセラー(宮崎県)

集計：2016年12月 1 日～12月25日

1	ハリー・ポッターと呪いの子	J. K. ローリング	静 山 社
2	どんなに体がかたい人でもベターッと開脚できるようになるすごい方法	E i k o	サンマーク出版
3	雪煙チェイス	東 野 圭 吾	実業之日本社
4	九十歳。何がめでたい	佐 藤 愛 子	小 学 館
5	雑談力	百 田 尚 樹	P H P 研究所
6	こころの匙加減	高 橋 幸 枝	飛 鳥 新 社
7	あなたの中の小さな神さまを目覚めさせる本	ま さ よ	永 岡 書 店
8	はじめての人のための 3000円投資生活	横 山 光 昭	ア ス コ ム
9	ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七 月 隆 文	宝 島 社
10	よるのばけもの	住 野 よ る	双 葉 社

## お知らせ

## 麻薬譲受証に記載すべき譲受人氏名及び押印する麻薬専用印について

このことについて、「麻薬管理マニュアルの改訂について」(平成23年 4 月15日付け薬食監麻発0415 第 2 号厚生労働省医薬食品局監視指導薬対策課長通知)で示されているところです。

しかしながら、一部の麻薬業務所でこれらの内容を満たさない麻薬譲受証が見られたとの指摘が県福祉保健部からありました。具体的には、「理事長の個人名のみ印鑑が押印されていた」事例であります。

麻薬譲受証の押印については以下をご注意下さい。

記

## 1 麻薬譲受証に記載すべき譲受人氏名

法人にあっては、名称、代表者の職名及び氏名を記載すること。

## 2 麻薬専用印

法人にあっては代表者印を原則とするが、麻薬専用印を使用する場合は、次の様式を満たすこと。

病院・診療所の場合

麻薬と覚せい剤原料を兼用する印の様式

麻薬専用印の様式

医療法人△△  
病院理事長麻  
薬専用之印

医療法人○○  
病院理事長麻  
薬・覚せい剤  
原料専用之印

## お知らせ

平成28年度日本医師会認定医療秘書養成制度  
卒業生求職のお願い

宮崎県医師会では、日本医師会認定医療秘書養成を県内 3 教育機関に委託しております。日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指し、医療事務に必要な知識、最新の情報処理技能などの資格を備えるとともに、医療機関の今日的な使命を自覚し、誠実さと思いやりの心を大事にする人間形成にも力を入れています。

今年度、医療事務職員採用のご予定がございましたら、何卒、県内 3 教育機関からご採用いただきますようご検討をお願いいたします。

なお、求職に関するお問い合わせ等につきましては、直接各教育機関の担当者までご連絡ください。

宮崎学園短期大学 (宮崎市)	宮崎医療管理専門学校 (宮崎市)	都城コアカレッジ (都城市)
就職希望者 9 名 (女 9 名)	就職希望者 6 名 (男 1 名, 女 5 名)	就職希望者 1 名 (女 1 名)
連絡先: TEL0985-85-0146 宮崎市清武町加納丙1415 担当: 田村 広美 武村 順子	連絡先: TEL0985-86-2271 宮崎市田野町甲1556-1 担当: 福元 進 馬原裕加里	連絡先: TEL0986-38-4811 都城市吉尾町77-8 担当: 吉原真由美 中山ゆかり

(※12月15日時点 就職内定者除く)

# 県 医 の 動 き

(12月)

1	(日医)都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会(立元常任理事) 生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)(TV会議)(会長他)	13	(新富)「自信をもって取り組める医薬品の教育」研修会開会式(会長) 図上訓練に係る研究会 県総合防災訓練研究会 医協打合せ会(立元副理事長) 第25回常任理事協議会(会長他)
2	(日医)大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会(荒木常任理事他) 県医中間監事監査(会長他)	14	DV被害者保護支援ネットワーク会議 (荒木常任理事) 支払基金幹事会(会長) 県がん対策審議会(会長)
3	(日医)家族計画・母体保護法指導者講習会 (濱田副会長他)	15	感染症危機管理研修会(TV会議) (高村常任理事) 広報委員会(荒木常任理事他)
5	生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)(TV会議) (金丸常任理事) 広報委員会(会長他)	16	宮大医学部医の倫理委員会(糸数理事)
6	地方公務員災害補償基金県支部審査会 (吉田常任理事) 治験審査委員会(富田副会長他) 第24回常任理事協議会(会長他)	17	指導医のための教育ワークショップ (会長他) (沖縄)女性医師支援センター事業九州ブロック会議(荒木常任理事他)
7	(日医)医療事故調査制度に係る支援団体統括者セミナー(小牧常任理事) (東京)社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会(会長) (日医)日医医療秘書認定試験委員会 (富田副会長) (ホテル中山荘)都城市北諸県郡医師会忘年会(会長他)	18	指導医のための教育ワークショップ (金丸常任理事)
8	社会保険医療担当者の新規個別指導 (嶋本理事) (東京)日医・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催シンポジウム(金丸常任理事) 女性医師委員会(会長他)	19	次年度の運動器検診についての打合せ (高村常任理事他) 医療保険委員会(会長他)
9	医療従事者確保予算に関する県への要望 (会長) 県総合診療フォーラム(金丸常任理事)	20	医協理事会(富田理事長他) 第10回全理事協議会(会長他) 医協理事・運営委員合同協議会(会長他) 役職員懇談会(会長他)
10	ごちゃまぜGO！(金丸常任理事) 生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)(TV会議) (立元常任理事) 県産婦人科医会全理事会(濱田副会長他)	21	労災診療指導委員会(川野理事他) (日医)日医医療秘書認定試験委員会 (富田副会長) (ホテルメリージュ延岡)延岡市医師会忘年会(会長他)
12	自民党県連党紀委員会(河野委員長) 県ドクターヘリ運航調整委員会(米澤理事) 医学賞選考委員会(濱田副会長他)	22	社会保険医療担当者の個別指導(川野理事) (江戸長)西都市西児湯医師会忘年会 (会長他)
		26	医師確保対策委員会(会長他)
		27	県医療審議会医療法人部会(富田副会長) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (濱田副会長) 第26回常任理事協議会(会長他)
		29	(年末休業)
		30	(年末休業)
		31	(年末休業)

## ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成28年12月12日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報がよせられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

## 1. 求職者登録数 5人

## 1) 男性医師求職登録数 5人 (人)

希望診療科目	求 職 数	常 勤	非 常 勤
内 科	3	2	1
老 健	2	1	1

## 2) 女性医師求職登録数 0人 (人)

希望診療科目	求 職 数	常 勤	非 常 勤
	0	0	0

## 2. 斡旋成立件数 55人 (人)

	男性医師	女性医師	合 計
平 成 2 8 年 度	3	1	4
平成 16年度から累計	40	15	55

## 3. 求人登録 96件 332人 (人)

募集診療科目	求人数	常 勤	非常勤
内 科	118	88	30
外 科	28	24	4
整 形 外 科	25	22	3
精 神 科	18	16	2
循 環 器 科	7	6	1
脳 神 経 外 科	12	9	3
消 化 器 内 科	12	9	3
麻 酔 科	10	8	2
眼 科	6	5	1
放 射 線 科	10	9	1
小 児 科	1	0	1
呼 吸 器 内 科	11	10	1
リハビリテーション科	5	4	1
総合診療科・内科	7	6	1
神 経 内 科	7	6	1
救 命 救 急 科	7	7	0
健 診	3	1	2
産 婦 人 科	1	1	0
泌 尿 器 科	1	0	1
検 診	4	2	2
皮 膚 科	3	2	1
人 工 透 析	4	4	0
在 宅 担 当 医	1	1	0
そ の 他	31	26	5
合 計	332	266	66

## 求 人 登 録 者(公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施 設 名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	赤十字センター	宮 崎 市	検診	3	常勤・非常勤
160013	(医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮 崎 市	脳外, 整, 放, 麻, 内	10	常勤・非常勤
160017	(医)プレストピア プレストピア宮崎病院	宮 崎 市	乳外, 放, 内, 麻	3	常勤
160020	(財)弘潤会 野崎病院	宮 崎 市	精, 内	2	常勤
160031	(社医)同心会 古賀総合病院	宮 崎 市	呼内, 神内, 眼, 総診, 呼外 臨病, 乳外, 整外, 麻酔	11	常勤
160033	(医)如月会 若草病院	宮 崎 市	精	2	常勤
170046	(医)社団善仁会 市民の森病院	宮 崎 市	消内, 内分泌内, 呼内, リウマチ, 神経内, 健診	6	常勤・非常勤
170048	(医)慶明会 けいめい記念病院	国 富 町	内, 放, 在宅医療	3	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮 崎 市	内, 神内, 整, 消内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮 崎 市	内(緩和ケア), 消内, 呼内, 総診	8	常勤
190094	(医)耕和会 迫田病院	宮 崎 市	総内, 内視鏡	6	常勤・非常勤
190095	(医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮 崎 市	眼	1	常勤
200104	(医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮 崎 市	内, 外, 救急, 呼外, 婦人, 整, 麻	7	常勤
200105	(医)誠友会 南部病院	宮 崎 市	内, 外, 放	3	常勤
210110	(医)幸秀会 大江整形外科病院	宮 崎 市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮 崎 市	内, 整, リハビリ	7	常勤・非常勤
230128	(医)真愛会 高宮病院	宮 崎 市	内, 精	2	常勤
230132	(医)康友会 青島クリニック	宮 崎 市	内	1	常勤
230134	(医)慈光会 宮崎若久病院	宮 崎 市	精	1	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国 富 町	内, 外	2	常勤
230143	(医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮 崎 市	脳外, 内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮 崎 市	総内, 呼内, 消内, 健診	8	常勤・非常勤
230146	(財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮 崎 市	内, 神内, 外, 整外, 脳外, リハ, 麻酔, 救急, 緩和ケア	10	常勤
230148	(医)コムロ美容外科	宮 崎 市	美外, 形成外, 外, 麻酔	8	常勤・非常勤
230161	(医)健心会 滝口内科病院	宮 崎 市	内	2	常勤・非常勤
230164	宮崎県保健所	宮 崎 市	公衆衛生	3	常勤
230165	野崎病院健診センター	宮 崎 市	健診	1	非常勤
230171	(医)いなほ会 日高病院	宮 崎 市	内	1	非常勤
230174	(医)常聖会 巴外科内科	宮 崎 市	内	1	非常勤
230175	社会福祉法人 キャンパスの会	宮 崎 市	内, 小, 整	1	常勤
230177	(医)社団尚成会 近間病院	宮 崎 市	内, 消内, 消外, 放(いずれか)	1	常勤・非常勤
230178	介護老人保健施設 むつみ苑	宮 崎 市	内	1	常勤
230180	(一社)藤元メディカルシステム 藤元中央病院	宮 崎 市	内, 糖内, 呼内, 血内	4	常勤
160008	(医)正立会 黒松病院	都 城 市	泌	1	非常勤
160010	(徳医)敬和会 戸嶋病院	都 城 市	内, 消内, 整, 神内	7	常勤・非常勤
160018	(医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都 城 市	内, 救急, 放射, 脳外, 外, 眼, 透内, 皮膚	8	常勤
170057	(医)清陵会 隅病院	都 城 市	内, 外, 整	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都 城 市	内, 呼内, 総診	4	常勤
180081	(医)恵心会 永田病院	都 城 市	精	1	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都 城 市	内, 呼内	6	常勤
210114	藤元病院	都 城 市	精, 内	3	常勤
230127	(医)倫生会 三州病院	都 城 市	外, 内, 整	7	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都 城 市	不問	1	常勤

登録番号	施 設 名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230137	医) 宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤
230142	医) 魁成会 宮永病院	都 城 市	内, リハビリ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都 城 市	内	1	非常勤
230157	医) 一誠会 都城新生病院	都 城 市	精, 内	4	常勤・非常勤
230162	藤元総合病院	都 城 市	内, 透, 循内, 救急, 放射, 病理, 呼内, 精	16	常勤
230172	医) 静雄会 藤元上町病院	都 城 市	内	4	常勤・非常勤
230176	一社) 藤元メディカルシステムグリーンホーム	三 股 町	内	1	常勤
230179	医) 与州会 柳田クリニック	都 城 市	外	1	非常勤
230181	介護老人保健施設 はまゆう	三 股 町	内	1	常勤
230183	医) 恵心会 坂元医院	都 城 市	消内, 老人内	2	非常勤
160012	医) 伸和会 共立病院	延 岡 市	外, 整, 放, 内	6	常勤
160021	医) 建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医) 健寿会 黒木病院	延 岡 市	外, 内, 緩和ケア	6	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	内	1	常勤
200100	医) 育生会 井上病院	延 岡 市	産婦, 内	2	常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内, 消外, 内	5	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内, 小	2	非常勤
230151	介護老人保健施設エクセルライフ	延 岡 市	内	1	常勤
230156	医) 中心会 野村病院	延 岡 市	内, 外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延 岡 市	内	1	非常勤
160039	医) 誠和会 和田病院	日 向 市	外, 内, 整, 神内	6	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美 郷 町	内, 整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美 郷 町	内	1	常勤
230160	日向市立東郷病院	日 向 市	内, 整	2	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内, 放, 外	3	常勤
160023	医) 宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	整, 内, 総診, 麻, 眼, 健診, 循内, 脳	10	常勤・非常勤
230170	介護老人保健施設なでしこ園	高 鍋 町	内	1	常勤
160024	医) 隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内, 外	2	常勤
150002	医) 慶明会 おび中央病院	日 南 市	内, 外, 整	4	常勤・非常勤
150003	医) 同仁会 谷口病院	日 南 市	内	1	非常勤
160022	医) 愛鍼会 山元病院	日 南 市	内	2	常勤
160037	医) 十善会 県南病院	串 間 市	精, 内(いずれか)	1	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内, 外, 整, リハビリ, 在宅医療	5	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	内, 外	2	常勤
230138	小玉共立外科	日 南 市	不問	2	常勤・非常勤
230149	介護老人保健施設おびの里	日 南 市	内	2	常勤・非常勤
230166	医) 秀英会 英病院	串 間 市	内	1	常勤
230168	医) 月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	7	常勤・非常勤
230182	串間市市木診療所	串 間 市	総診, 内(いずれか)	1	常勤
160019	医) 相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内, 皮膚	4	常勤・非常勤
170043	医) 和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	救急, 総診, 放	5	常勤
180076	医) 友愛会 園田病院	小 林 市	外, 循内, 整, 脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医) 浩然会 内村病院	小 林 市	精, 内	3	常勤
190091	医) 友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整, 内	4	常勤・非常勤
230155	医) 三和会 池田病院	小 林 市	脳外, 内, 放射, 外, リハビリ	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設さわかセンター	小 林 市	内	1	非常勤
230169	医) 連理会 和田クリニック	小 林 市	内	2	常勤
230173	医) 高千穂会 大森内科	小 林 市	内	2	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内, 外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内, 透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内, 整	1	常勤

## 病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成28年12月12日現在

1. 譲渡物件	①宮崎市阿波岐ヶ原町前田 2633番，2634番 土地のみ：2022.17m ² (593.57坪)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	②西都市中央町2丁目6番地 土地：2,280.83m ² (691.16坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74m ² } 2階 547.79m ² } 1,400.48m ² (424.38坪) 3階 177.95m ² } ※別途駐車場あり(20台)	所有者：西都市西児湯医師会員 図師医院跡
2. 譲渡又は 賃貸物件	①小林市南西方49番地1 土地：1,991.34m ² (603.43坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 1階 471.41m ² } 2階 638.35m ² } 1,109.76m ² (336.29坪) ※駐車場あり(30台)	所有者：西諸医師会員 (医) 社団 産婦人科 生駒クリニック跡
	②日向市鶴町2丁目9番15号 土地：792m ² (240坪) 建物：RC造 鉄骨造 1階 237.49m ² } 2階 338.25m ² } 913.99m ² (276.96坪) 3階 338.25m ² } ※別途駐車場あり(10台)	所有者：日向市東臼杵郡医師会員 三ヶ尻整形外科跡

### ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先 ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師協同組合)  
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179  
E-mail: isikyoku@miyazaki.med.or.jp

## 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

### 宮崎県医師会広報委員会

E - Mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、

裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX: 0985-27-6550

き  
り  
と  
り  
せ  
ん

お 名 前 :

ご 所 属 :

T E L :

F A X :

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成28年12月27日

1		月		
1 日	(年始休業)	17 火	14:00	(日医)日医連常任執行委員会
2 月	(年始休業)		14:20	(日医)都道府県医師会長協議会
3 火	(年始休業)		16:30	(日医)日医連執行委員会
4 水	13:00 新年賀詞交歓会		17:30	(日医)都道府県医師会長協議会・ 日医連執行委員会合同新年会
5 木	16:30 宮大医学部カリキュラム委員会 19:00 県臨床研修・専門研修運営協議会WG	18 水	19:00	第28回常任理事協議会
6 金			13:00	社会保障審議会医療保険部会療養 費検討専門委員会
7 土	15:00 九医連九州ブロック災害医療研 修会 17:00 九州各県医師会救急災害医療担 当理事連絡協議会 19:00 三師会合同新春懇談会		15:00	新人看護職員研修推進協議会
8 日	9:00 九医連九州ブロック災害医療研 修会	19 木	19:00	医師国保組合定例事務監査
9 月	(成人の日) 9:00 緩和ケアチーム研修会		19:00	県内科医会学術委員会
10 火	18:00 治験審査委員会 19:00 第27回常任理事協議会	20 金	19:00	県後期高齢者医療広域連合運 営懇話会
11 水	13:30 県総合計画審議会・県地方創生推 進懇話会 14:00 日医救急災害医療対策委員会(日 医TV会議) 16:00 支払基金幹事会 18:30 病院部会・医療法人部会理事会・ 新年会	21 土	19:00	特定健康診査等従事者研修会 (TV会議)
12 木	13:00 社会保険医療担当者の個別指導 19:00 ロコモティブシンドローム予防講 演会 19:30 県産婦人科医会常任理事会	22 日	20:30	新規保険医療機関への説明会
13 金	19:00 労災部会自賠委員会 19:00 宮崎市郡医師会新年例会並びにし のめ医学会特別講演会 19:45 損害保険医療協議会	23 月	19:00	医師国保組合理事会
14 土	14:00 人体シミュレータを用いた在宅医 療研修会 14:30 産業医研修会(TV会議)	24 火	14:00	人体シミュレータを用いた在 宅医療研修会
15 日		25 水	16:00	次期診療報酬改定の要望事項 に係る九医連医療保険対策協 議会
16 月	14:00 宮大医学部医の倫理委員会 19:00 広報委員会	26 木	10:30	県アイバンクライオンズ協力 会御芳名奉納式
※都合により、変更になることがあります。 行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。		27 金	19:00	広報委員会
		28 土	19:00	県感染症危機管理・予防接種 実務担当者研修会(TV会議)
		29 日	18:20	医協打合せ会
		30 月	19:00	第29回常任理事協議会
		31 火		医療事故調査支援委員会常任委 員会
			15:00	労災診療指導委員会
			13:30	宮大経営協議会・学長選考会議
			18:30	医協理事会
			19:00	県内科医会誌編集委員会
			19:00	県外科医会全理事会
			18:00	九州地方社会保険医療協議会
			19:00	宮崎部会
				人体シミュレータを用いた在 宅医療研修会
			14:30	自賠責保険研修会
			15:00	県産婦人科医会冬期総会
			9:00	(日医)在宅医療関連講師人材 養成事業研修会
			19:00	高次脳機能障害講演会(TV会議)
			18:30	第11回全理事協議会
			終了後	医協理事・運営委員会合同協議会
			19:20	各郡市医師会長協議会

国 保 審 査

社 保 審 査

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成28年12月27日

2			月		
1	水	13：30 県歯科保健推進協議会	14	火	19：00 第31回常任理事協議会
2	木	15：00 (日医)日医予防接種・感染症危機 管理対策委員会	15	水	
		19：00 県内科医会理事会	16	木	19：00 医師国保組合理事会
3	金	19：00 認知症サポート医フォローアップ 研修会(TV会議)	17	金	13：00 医療関連サービス振興会シンポ ジウム
4	土	14：00 九医連医療事故調査制度担当理事 連絡協議会			13：00 国保連合会通常総会
		15：40 県スポーツドクター連盟総会			15：00 (日医)日医医療秘書認定試験委 員会
		16：00 九医連各種協議会			19：00 県外科医会冬期講演会
		16：00 九医連常任委員会			19：00 人体シミュレータを用いた在宅 医療研修会
		16：00 健康スポーツ医学セミナー			19：00 広報委員会
		18：10 九医連各種協議会報告会			
5	日	日医医療秘書認定試験	18	土	14：00 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会
6	月	19：00 医療安全対策セミナー（TV会議）			14：30 かかりつけ医認知症対応力向上 上研修会(TV会議)
7	火	18：00 治験審査委員会	19	日	16：00 県小児科医会役員会
		19：00 第30回常任理事協議会			20
8	水	16：00 支払基金幹事会	21	火	14：00 県ナースセンター事業運営委 員会
9	木	18：00 県認知症高齢者グループホーム連 絡協議会理事会			19：00 第32回常任理事協議会
		19：30 県産婦人科医会常任理事会	22	水	15：00 労災診療指導委員会
10	金		23	木	13：00 (日医)医療事故調査制度に係る支 援団体統括者セミナー
11	土	(建国記念の日) 13：00 (日医)日医医療情報システム協 議会	24	金	18：00 九州地方社会保険医療協議会 宮崎部会
		13：30 日本プライマリ・ケア学会九州 支部総会			19：00 広報委員会
12	日	8：00 日本プライマリ・ケア学会九州 支部総会	25	土	九州地区医師国保組合連合会 全体協議会
		9：30 (日医)日医医療情報システム協 議会			創立128周年記念医学会
13	月		26	日	
			27	月	14：00 県がん診療連携協議会
					19：00 県内科医会評議員会
			28	火	19：00 第12回全理事協議会

※都合により、変更になることがあります。  
行事予定は県医師会のホームページからご覧になれます。

# 医 学 会 ・ 講 演 会

## 日 本 医 師 会 生 涯 教 育 講 座 認 定 学 会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第28回宮崎県糖尿病教育セミナー</b> 1月8日(日) 9:55～16:45 小林市文化会館 参加費：3,000円	<b>妊娠糖尿病</b> 県立宮崎病院内科医長	76 (1.0)	◇主催 宮崎県糖尿病懇話会 ◇共催 ※ノボルディスクファーマ㈱ ☎0985-20-1891 ◇後援 宮崎県医師会 宮崎県糖尿病対策推進会議
	<b>糖尿病診療のピットフォールあれこれ</b> 宮永病院内科医長	76 (1.0)	
	<b>低GIーゆっくり上げよう血糖値</b> 池井病院栄養管理室長	76 (0.5)	
	<b>チームで関わる予防的フットケア</b> 平和台病院教育師長	76 (0.5)	
	<b>チームで関わる透析予防 ー集団指導と個人指導を駆使してー</b> 平和台病院内科	76 (0.5)	
	<b>糖尿病網膜症：最近の検査法と治療法</b> 小林中央眼科院長	76 (0.5)	
	<b>慢性疾患増悪を防止するための歯科からの取り組み</b> 永井歯科医院理事長	76 (0.5)	
	東 真弓		
	西 勇一		
	境田 美鈴		
	原田 和子		
	天野 一志		
	益山 芳正		
	永井 省二		

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
<b>平成28年度宮崎県 医師会緩和ケア チーム研修会</b> 1 月 9 日(月) 9 : 00 ~ 17 : 00 県医師会館  参加費 : 2,000円	<b>人生の最終段階における医療の決定プロセスに関する ガイドラインの解説</b> 宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部 板井 孝壺郎	6 (0.5) 7 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	<b>アドバンス・ケア・プランニングとは</b> 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院緩和医療内科 永山 淳	2 (0.5)	
	<b>ロールプレイ : もしも、のときについて話し合いを始 める</b> 国家公務員共済組合連合会 浜の町病院緩和医療内科 永山 淳	4 (0.5) 5 (0.5) 80 (0.5) 81 (0.5)	
	<b>宮崎市「わたしの想いをつなぐノート」紹介</b> 宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部 板井 孝壺郎	81 (0.5)	
	<b>臨床倫理の基礎</b> 宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部 板井 孝壺郎	15 (0.5)	
	<b>グループワーク : 事例検討</b> 宮崎大学医学部附属病院臨床倫理部 板井 孝壺郎	10 (0.5) 12 (0.5) 13 (0.5) 68 (0.5) 70 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
<b>宮崎県医師会産業 医研修会</b> 1月12日(木) 19:00～21:00 都城市北諸県郡 医師会館	<b>この一年間にみられた産業保健の動向 ー厚労省・報道発表資料と通達からー</b> 産業保健相談員 西部労働衛生コンサルタント事務所代表 矢崎 武 生涯研修の更新研修会 : 2単位	3 (0.5) 7 (0.5) 8 (0.5) 9 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
<b>第1回宮崎ロコモ 研修会</b> 1月12日(木) 19:00～20:00 県医師会館	<b>長寿社会、いつまでも歩き続けるためのロコモ対策</b> 東京大学名誉教授 中村 耕三	62 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎大学医学部整形外科 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科学教室 ☎0985-85-0986
<b>宮崎市郡医師会新 年例会並びにしの め医学会特別講 演会</b> 1月13日(金) 19:00～19:30 宮崎観光ホテル	<b>胎児の不思議</b> 宮崎大学理事 宮崎大学医学部附属病院長 宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座教授 鮫島 浩	0 (0.5)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
<b>宮崎県医師会産業 医研修会</b> 1月14日(土) 14:30～18:30 県医師会館	<b>化学物質の毒性について</b> 宮崎大学医学部社会医学講座 公衆衛生学分野教授 黒田 嘉紀 基礎研修の後期研修会 : 2単位 生涯研修の専門研修会 : 2単位	7 (0.5) 9 (0.5) 11 (0.5) 12 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
<b>宮崎県医師会産業 医研修会</b> 1 月14日(土) 14:30～18:30 県医師会館	<b>産業医活動の実際</b> 化成株式会社統括産業医 小山 一郎 基礎研修の後期研修会 : 2 単位 生涯研修の専門研修会 : 2 単位	1 (0.5) 4 (0.5) 6 (0.5) 10 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
<b>第11回九州EBM workshop in 宮崎</b> (2 日間) 1 月14日(土) 13:30～19:00 1 月15日(日) 9:00～12:00 コテージヒムカ	<b>ワークショップ</b> (1 日目) 東京北医療センター総合診療科 南郷 栄秀 他	9 (2.5) 15 (3.0)	◇主催 ※宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 ☎0985-85-9809 ◇後援 宮崎県医師会 宮崎県薬剤師会
	<b>ワークショップ</b> (2 日目) 東京北医療センター総合診療科 南郷 栄秀 他	9 (1.5) 15 (1.5)	
<b>第111回宮崎市郡 医師会病院心臓病 研究会</b> 1 月16日(月) 18:50～20:30 宮崎観光ホテル	<b>冠動脈疾患の二次予防としての脂質異常症管理の実際 について</b> 宮崎市郡医師会病院循環器内科医長 松浦 広英	75 (0.5)	◇主催 宮崎市郡医師会病院心臓病研究会 ◇共催 アステラス製薬(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119
	<b>重症冠攣縮性狭心症とvasospastic Heart Failure</b> 杏林大学医学部第二内科学教授 吉野 秀朗	9 (0.5) 15 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
<b>西都市西児湯医師 会学術講演会</b> 1月16日(月) 19:00～21:00 ウエディングパレ ス敷島  参加費:500円	<b>在宅緩和ケアにおける痛みへの対応</b> いしかわ内科院長 石川 智信	13 (1.0)	◇主催 ※西都市西児湯医師会 ☎0983-43-1687 ◇共催 西都市西児湯内科医会 西都市北地区地域包括支援センター 西都市南地区地域包括支援センター
<b>宮崎県内科医会学 術講演会</b> 1月19日(木) 18:45～20:30 宮崎観光ホテル	<b>糖尿病性腎症の診断と治療ー現在と未来ー</b> 岡山大学病院新医療研究開発センター教授 四方 賢一	76 (1.0)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※小野薬品工業(株) ☎0985-61-8123
<b>第58回宮崎県耳鼻 咽喉科懇話会臨床 セミナー</b> 1月19日(木) 18:45～21:00 宮崎観光ホテル  参加費:1,000円	<b>鼓膜再生療法の保険医療と国際展開への戦略</b> 北野病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科主任部長 金丸 眞一	2 (0.5)  38 (0.5)	◇主催 日本耳鼻咽喉科学会宮崎県支部会 ◇共催 ※杏林製薬(株) ☎0985-27-3301 ◇後援 宮崎県耳鼻咽喉科医会
	<b>アレルギー性鼻炎のフェノタイプ</b> 福井大学学術研究院医学系部門感覚運動医学講座 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学准教授 山田 武千代	1 (0.5)  39 (0.5)	
<b>西臼杵郡医師会学 術講演会</b> 1月19日(木) 19:00～20:10 ホテル高千穂	<b>心房細動の最新治療 ーエドキサバンの有用性とアブレーションの進歩ー</b> 福岡山王病院ハートリズムセンター長 国際医療福祉大学教授 熊谷 浩一郎	42 (0.5)  43 (0.5)	◇主催 ※西臼杵郡医師会 ☎0982-73-2010 ◇共催 延岡市西臼杵郡薬剤師会 第一三共(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
<b>平成28年度特定健康診査等従事者研修会(TV会議)</b> 1月19日(木) 19:00～20:30 県医師会館(TV会議場：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸・西臼杵(高千穂国保病院))	<b>特定健診からの効果的な糖尿病診療</b> 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野助教 上野 浩晶	12 (0.5)  76 (0.5)  82 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
<b>日本泌尿器科学会第88回宮崎地方会</b> 1月21日(土) 13:30～18:00 ホテルJALシティ宮崎  参加費：3,000円	<b>会員発表：宮崎大学医学部泌尿器科教室における2016年の臨床統計</b> 宮崎大学医学部泌尿器科医員 三宅 那央 他	64 (1.0)  65 (1.5)  66 (1.0)  67 (1.0)	◇主催 宮崎県泌尿器科医会 ◇共催 日本新薬(株) (連絡先) 宮崎大学医学部泌尿器科 0985-85-2968
<b>第79回宮崎大学眼科研究会</b> 1月21日(土) 15:00～19:00 宮崎観光ホテル  参加費：2,000円	<b>眼球突出のみかた</b> 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 眼科学分野准教授 中馬 秀樹     <b>最近の網膜の話題から</b> 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 眼科学分野教授 直井 信久	36 (1.0)    36 (1.0)	◇主催 ※宮崎大学医学部眼科学教室 ☎0985-85-2806

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>平成28年度宮崎県 感染症危機管理・ 予防接種実務担当 者研修会(TV会議)</b> 1月23日(月) 19:00～21:00 県医師会館(TV会 議場：都城・延 岡・日向・児湯・ 南那珂・西諸・西 臼杵(高千穂国保 病院))	<b>予防接種に関する最近の動向とトピックス(仮)</b> 国立感染症研究所 感染症疫学センター第二室長 砂川 富正	8 (1.0) 11 (0.5) 12 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 (連絡先) 宮崎県庁健康増進課感染症対策室 ☎0985-44-2620
<b>都城市北諸県郡医 師会産婦人科医 会・東洋医学会学術 講演会</b> 1月24日(火) 19:00～20:30 ホテル中山荘	<b>大腸癌化学療法患者の食欲不振・全身倦怠感に漢方が 有効であった一例</b> 三州病院副院長緩和ケア病棟医長 横山 晶子    <b>がんと治療と漢方ー化学療法を続けるためにー</b> 宮崎市郡医師会病院緩和病棟医長 永井 公洋	51 (0.5) 81 (0.5) 83 (0.5)	◇主催 都城市北諸県郡医師会東洋医学会 ◇共催 都城市北諸県郡医師会産婦人科医 会宮崎県医師会東洋医学会 (株)ツムラ (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711
<b>宮崎木曜会学術講 演会</b> 1月26日(木) 19:00～20:00 MRT-micc	<b>胆道結石に対する内視鏡治療(仮)</b> 宮崎大学医学部医学科消化器内科学講座教授 河上 洋	54 (1.0)	◇主催 宮崎木曜会 ◇共催 ※大日本住友製薬(株) ☎0985-29-5855

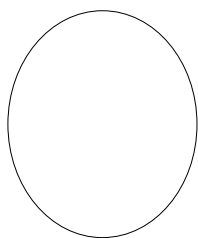
名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>宮崎疼痛診療セミナー</b> 1月27日(金) 19:00～20:10 潤和会記念病院	<b>日常診療での鎮痛薬の使い分け</b> 潤和会記念病院ペインクリニック科部長 立山 真吾	60 (0.5) 62 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※エーザイ(株) ☎0985-26-2676 ファイザー(株)
<b>延岡医学会学術講演会</b> 1月27日(金) 19:00～20:30 ホテルメリージュ 延岡	<b>アルツハイマー型認知症の診断と治療 ーガランタミンの有効性と安全性を含めてー</b> 昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門教授 小野 賢二郎	12 (0.5) 15 (0.5) 29 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 武田薬品工業(株) ヤンセンファーマ(株) ◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
<b>都城北諸県郡医師会学校医部会講演会</b> 1月27日(金) 19:00～20:30 都城市北諸県郡 医師会館	<b>子どものがん</b> 宮崎大学医学部生殖発達医学講座 小児科学分野准教授 盛武 浩	9 (0.5) 73 (0.5) 81 (0.5)	◇主催 都城市北諸県郡医師会学校医部会 ◇後援 都城市教育委員会 (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711
<b>平成28年度自賠責保険研修会</b> 1月28日(土) 14:30～17:30 シーガイアコンベンションセンター	<b>自賠責保険(共済)損害調査のしくみ</b> 損害保険料率算出機構 宮崎自賠責損害調査事務所長 大坪 秀憲	6 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共済 宮崎県損害保険医療協議会 ※宮崎県医師会労災部会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん機	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>平成28年度自賠責 保険研修会</b> 1月28日(土) 14:30～17:30 シーガイアコンベンションセンター	<b>外傷性頸部症候群の診断と治療</b> 宮崎大学医学部感覚運動医学講座 整形外科学分野助教 濱中 秀昭	57 (0.5) 63 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共済 宮崎県損害保険医療協議会 ※宮崎県医師会労災部会 ☎0985-22-5118
	<b>自賠責保険の医療費請求について</b> 損害保険料率算出機構 宮崎自賠責損害調査事務所長 大坪 秀憲	6 (0.5)	
<b>高次脳機能障がい 講演会(TV会議)</b> 1月30日(月) 19:00～21:00 県医師会館(TV会議場：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸・西臼杵(高千穂国保病院))	<b>高次脳機能障がい者の自動車運転再開の現状と今後について</b> 産業医科大学若松病院 リハビリテーション科診療教授 岡崎 哲也	9 (0.5) 29 (0.5) 32 (0.5) 78 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
<b>第54回ひむか運動 器セミナー</b> 1月31日(火) 19:00～20:15 宮崎観光ホテル 参加費：500円	<b>膝関節疾患・外傷の病態・診断・治療 ー変形性膝関節症を中心にー</b> 帝京大学医学部整形外科学講座教授 中川 匠	57 (0.5) 61 (0.5)	◇主催 ひむか運動器セミナー ◇共催 ※大正富山医薬品(株) ☎092-451-7884 帝人ファーマ(株)
<b>第26回宮崎臨床免 疫研究会</b> 2月3日(金) 19:00～20:30 宮崎観光ホテル 参加費：1,000円	<b>原発性免疫不全症の診断と治療法の現状と今後の展望</b> 国立成育医療研究センター研究所 成育遺伝研究部長 小野寺 雅史	24 (0.5) 73 (0.5)	◇主催 宮崎臨床免疫研究会 ◇共催 宮崎県内科医会 ※旭化成ファーマ(株) ☎0985-28-2736

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連 絡 先
<b>第2回宮崎ロコモ 研修会</b> 2月10日(金) 19:00～20:00 日向保健所	<b>長寿社会, いつまでも歩き続けるためのロコモ対策</b> あたご整形外科理事長 佐藤 信博	12 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎大学医学部整形外科 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科学教室 ☎0985-85-0986
<b>宮崎県医師会産業 医研修会</b> 2月10日(金) 19:00～21:00 県医師会館	<b>メンタルヘルス不全一病気療養期間に行うこと(Ⅱ)ー</b> 産業保健相談員・西都病院 植田 勇人  生涯研修の専門研修会 : 2単位	1 (0.5)  5 (0.5)  11 (0.5)  70 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511 ◇共催 宮崎県医師会
<b>平成28年度うつ病 等医療連携システ ム推進事業研修会</b> 2月21日(火) 19:00～20:30 宮崎市保健所	<b>最新!! うつ病の知識</b> <b>ー見逃したくない兆候・身体症状・対応のポイント</b> 久留米大学医学部長神経精神医学講座医学部長 内村 直尚	70 (1.0)	◇主催 ※宮崎市健康支援課 ☎0985-29-5286
<b>第3回宮崎ロコモ 研修会</b> 3月2日(木) 19:00～20:00 小林保健所	<b>歩ける喜びロコモ予防</b> <b>ーロコモ予防で心もからだも健康長寿ー</b> 宮崎大学医学部整形外科教授 帖佐 悦男	13 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎大学医学部整形外科 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科学教室 ☎0985-85-0986

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第55回ひむか運動器セミナー</b> 3月4日(土) 16:30～18:30 宮崎観光ホテル  参加費：500円	<b>慢性腰痛症に対する当院の取り組み</b> 琉球大学医学部附属病院 整形外科助教 六角 高祥	60 (0.5)  63 (0.5)	◇主催 ひむか運動器セミナー ◇共催 ※日本イーライリリー(株) ☎092-724-0450 塩野義製薬(株)
	<b>運動器疼痛におけるデュロキセチン塩酸塩の立ち位置を考える</b> 広島赤十字・原爆病院第二整形外科副部長 柳澤 義和	61 (0.5)  73 (0.5)	
<b>延岡医学会学術講演会(宮崎県北地区消化器内視鏡懇談会)</b> 3月14日(火) 18:50～20:00 ホテルメリージュ 延岡	<b>大腸腫瘍性病変に対する内視鏡診断－診断の基礎と応用－</b> 札幌医科大学消化器内科学講座 消化器内視鏡センター准教授 山野 泰穂	1 (0.5)  15 (0.5) (大腸)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 宮崎県北地区消化器内視鏡懇談会 画像診断研究会 EAファーマ(株) エーザイ(株) ◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
<b>第56回宮崎県スポーツ学会</b> 3月25日(土) 15:00～19:00 宮日会館  参加費：1,000円	<b>アンチ・ドーピングの最新情報</b> 早稲田大学スポーツ科学学術院教授 赤間 高雄	7 (1.0)	◇主催 宮崎県スポーツ学会 ◇共催 久光製薬(株) ◇後援 宮崎県医師会 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科科学教室 ☎0985-85-0986

## 診療メモ

DPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team  
災害派遣精神医療チーム)について県立宮崎病院精神医療センター かわ の じ ろう  
河 野 次 郎

## はじめに

最初に、平成28年4月14日に発生した一連の熊本地震で被災された皆様方に、心からお見舞い申し上げます。地震発生から半年が過ぎた現在も、家庭や仕事において、生活に大きな影響が続いている方々も多いことと存じます。一日も早い回復・復興を願っております。

## DPATとは

さて、DPATとは、自然災害や航空機・列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後、被災地域に入り、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門的チームとして、平成25年度に厚生労働省が活動要領を定め、各都道府県等で体制を整備し始めたものです。

皆様は、災害時に活動を行うDMAT (Disaster Medical Assistance Team 災害派遣医療チーム) については、既にご存じでしょう。DMATは平成7年の阪神・淡路大震災を教訓に、平成17年に発足しました。DMATの活動はEMIS (Emergency Medical Information System 広域災害救急医療情報システム)により共有されるようになっていきます。宮崎県では福祉保健部医療薬務課が管轄しています。

一方、DPATは、平成23年に発生した東日本大震災における「こころのケアチーム」活動の課題を整理する形で生まれました。特に、発災後急性期における精神保健医療の支援の必要性が挙げられました。具体的には、被災して孤立した精神科病院への支援が遅れたこと、災害ス

トレスによる精神的問題を抱えた被災者への対応の困難、精神保健医療のニーズの把握・評価の不足、などでした。また、その中で、他地域から被災地に入る医療資源を適切に配置するための指揮命令システムの必要性、情報や通信が混乱することから資機材の確保や災害支援の人材養成等の事前準備の必要性も課題としてあげられました。そこで、DMATを参考に、精神保健医療分野に特化して整備されてきたのがDPATです。EMISにない精神科領域の情報収集と共有を目的としてDMHIS (Disaster Mental Health Information Support System 災害精神保健医療情報支援システム)が運用されています。宮崎県では福祉保健部障がい福祉課が管轄しています。

図1はDPATのロゴマークです。

図2に災害発生からの時間経過とDPATの連携体制を示しています。

## 主な活動

- 地域精神科医療機関の機能の補完
- 避難所、在宅の精神疾患を持つ被災者への精神科医療の提供(例えば、認知症を持つ避難者のBPSDへの医療対応)

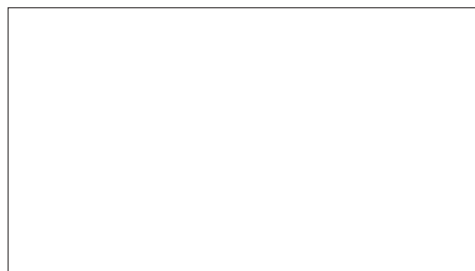
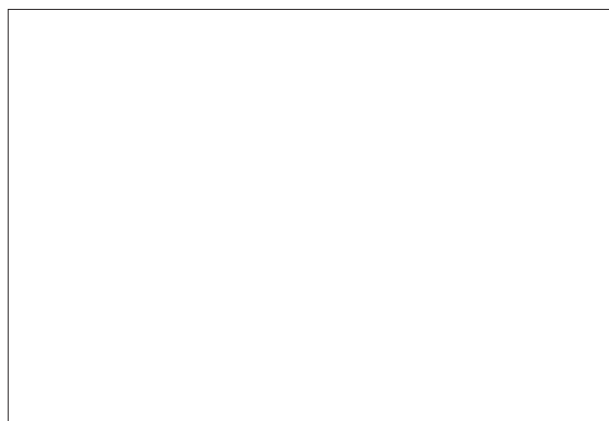


図1 DPATロゴ

図2 DPATのフェイズごとの連携体制(平成27年度  
DPAT研修資料より DPAT事務局作成)  
「DPAT事務局: <http://www.dpat.jp/>」

- 災害のストレスによって新たに生じた精神的問題を抱える一般住民への対応(例えば、急性ストレス反応への精神科救急対応)
- 支援者への支援(例えば、自治体職員の過労による自殺の予防など)

### 活動事例

- ①平成26年8月豪雨⇒全国初のDPAT派遣  
広島市から広島県へDPAT派遣要請し、広島県・市DPATが避難所を巡回し、診察・相談を実施。
- ②御嶽山噴火(平成26年9月)  
長野県が県立木曽病院にDPATを派遣。登山者、遺族等の診察・相談を実施。
- ③関東・東北豪雨による災害(平成27年9月)  
茨城県精神医療チームが、JMAT(Japan Medical Association Team 日本医師会災害医療チーム)・日本赤十字等と連携して活動。DPAT事務局も本部支援のため事務局員を派遣。
- ④熊本地震(平成28年4月)  
熊本県から全国にDPAT派遣要請。地震災害での初めてのDPAT活動。宮崎県DPATの初めての活動。発災翌日の4月15日から活動開始。全国から延べ約1,000チームが支援に入り、10月28日に活動終了した。

### 熊本地震における宮崎県DPATの活動

熊本地震では発災した翌日の4月15日未明には、精神科病院が倒壊の恐れにより全入院患者

の避難が必要との情報が入り、DPATの活動が開始されました。最初に派遣されたチームは、突然の初めての出動であったため、十分な装備を準備する余裕もなく、慌ただしく出発し、現地で本震を迎えました。以下に宮崎県チームの概要を記します。7月1日以降は、地元のDPATチーム(2ヵ月間で急遽研修会を重ね、組織された)に引き継ぎました。

派遣期間 平成28年4月15日～6月30日  
(延べ72日間)

DPAT構成員 精神科医師、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、保健師等：1班4名前後で構成  
派遣班数 16班(実人数66名、延べ人員298名)

### おわりに

熊本地震は、誕生したばかりのDPATが全国規模で実際に機能するかどうかが初めて試された災害でした。私たちが、発災の翌朝に、とりあえず支援に出発することが出来たのは、県立宮崎病院の院長をはじめとしたスタッフや宮崎県福祉保健部障がい福祉課の皆様の多大なご理解とご支援のおかげでした。この場を借りて心からお礼申し上げます。

被災地に集まる多種多様な支援組織のなかに、精神科医療保健福祉・心のケアを専門とするDPATができて、活動し始めたことをご紹介いたしました。

活動期間	所属機関	活動地域	主な活動内容
4/15～4/17	県立宮崎病院 先遣隊	熊本市 益城町	転院支援
4/18～4/25	古賀総合病院 先遣隊	熊本市 阿蘇市	転院支援 避難所支援
4/25～4/28	県(精神保健福祉センター等)	阿蘇市	避難所支援 訪問
4/29～5/2	宮崎大学		
5/3～5/6	宮崎大学、古賀総合病院		
5/7～5/10	県立宮崎病院		
5/16～5/19	野崎病院	益城町	避難所支援 訪問 支援者支援
5/20～5/23	古賀総合病院		
5/24～5/27	内村病院		
5/28～5/31	高宮病院		
6/1～6/5	県立宮崎病院	西原村	避難所支援 訪問 支援者支援 予防啓発
6/6～6/10	宮崎大学		
6/11～6/15	藤元病院		
6/16～6/20	高宮病院		
6/21～6/25	高宮病院		
6/26～6/30	宮崎大学、谷口病院		

(平成28年熊本地震における宮崎県DPAT活動報告会資料より  
宮崎県福祉保健部障がい福祉課作成 平成28年10月5日)

## 宮大医学部学生のページ

## 〔宮崎大学学園祭〕第12回清花祭～清花爛漫～

平成28年11月19日、20日に開催されました第12回清花祭の様様を、清武キャンパス実行委員長と医学展実行委員長より報告させていただきます。

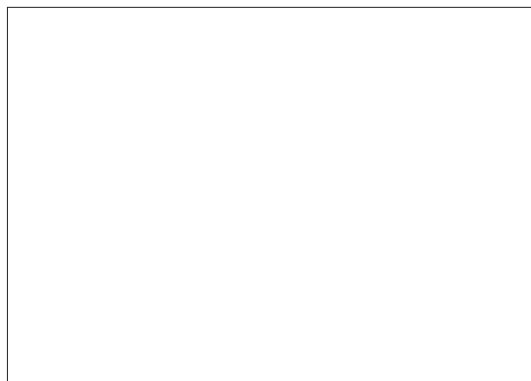
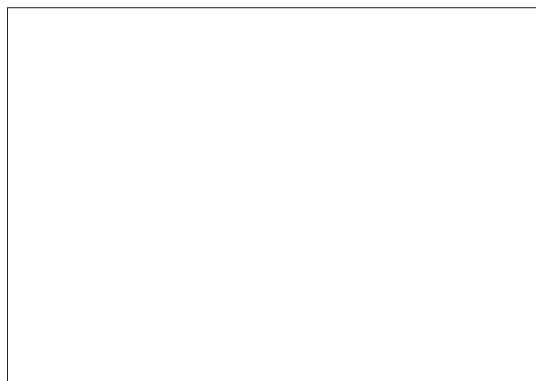
## ○第12回清花祭清武キャンパス実行委員長 井手 雄太郎

宮崎医科大学と宮崎大学の統合に伴い、平成17年に「清花祭」として生まれ変わった大学祭を今年度も無事に開催できましたのも、厚い御支援と御協力を賜りました皆様のおかげです。心よりお礼申し上げます。

今回のテーマは「清花爛漫」となっており、このテーマには両キャンパスの学生が協力して華やかにこの清花祭を盛り上げていこうという意味が込められています。1日目は残念ながら天候に恵まれず、雨の中の開催となりました。2日目は曇りではありましたが、足場の悪い中、多くの方にご来場いただきました。中庭での模擬店や屋外イベントの開催は今年で2年目となりましたが、その風景もすっかり定着してきたように感じます。

イベントでは、迫力あるすずかけ太鼓によるステージや軽音楽部によるライブ、管打楽器部や室内楽部の心休まる演奏などが行われました。また、地域の子供たちを対象とした運動会やお化け屋敷もたくさんの方に参加していただくことができました。

医学科4年生と看護科2年生で組織された幹部として活動させていただきましたが、清花祭直前だけに限らず、1年を通して様々な場面で助けてくれた幹部の仲間たちはかけがえのない存在です。大学祭の成功に向かってチームとして活動したこの経験を、将来医療人となったときに活かしていきたいと考えています。来年からはカリキュラム変更により大学祭の運営も変革の年を迎えますが、来年以降も変わらず清花祭が運営されていくことを願っています。最後になりましたが、今年度の清花祭に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。



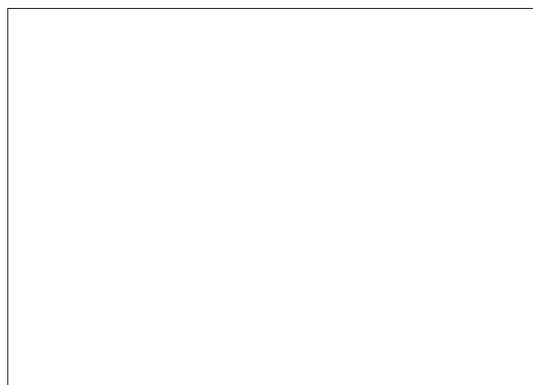
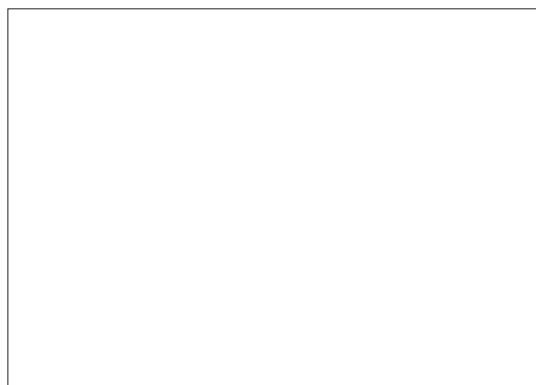
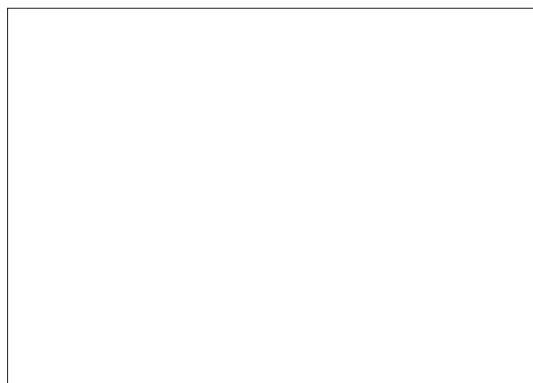
**○医学展実行委員長 金谷 拓司**

医学展では今年も多く企画が発足し、医学に関する展示物や体験コーナー、スタンプラリーなどお子様からご年配の方まで皆様が楽しんでいただけるような医学展を開催することが出来ました。今年は、11月19日、20日の2日間で来場者数がのべ1,000人を超え、多くの方から医学展を楽しむことが出来たと聞き、我々医学生一同心より嬉しく思っております。一般の方々が普段なかなか接する機会の少ない医学を、医学展と私たち医学生を通じて少しでも身近に感じていただけたのではないかと思います。

また、我々医学生も、日頃からお世話になっている清武町をはじめとする一般の方々とより一層の交流を深めることができ、皆様のおかげで学生生活を営むことが出来ているのだと改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。

来年は新しい学生が医学展の運営に携わりますが、皆様には来年もぜひ会場に足を運んでいただければと思います。

最後に、今年の医学展を開催するにあたり、非常に多くの方々に御協力を賜りましたことを、紙面上ではございますが、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後も医学展をよろしく願いたします。



## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会にお問い合わせください。また、MMA通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。県医師会学術広報課(TEL 0985-22-5118)までご連絡ください。

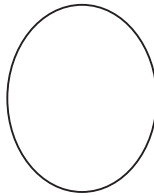
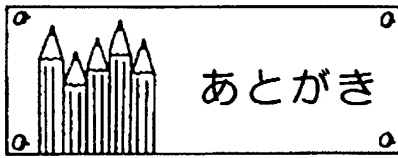
送付日	文 書 名
11月 1 日	・「安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって」の一部修正について
11月 2 日	・平成28年の医師の届出及び調査の協力依頼について
11月 7 日	・労働契約法の無期転換ルール等に関する周知について     ・ヴィキラックス配合錠及びレベトールカプセル200mgの医薬品医療機器法上の効能・効果等の変更に伴う留意事項の一部改正について     ・公知申請に係る事前評価が終了し、医薬品医療機器法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険上の取扱いについて     ・「保険者番号等の設定について」の一部改正等について     ・ペムプロリズマブ(遺伝子組換え)製剤使用時の劇症1型糖尿病に関する周知について
11月 8 日	・麻薬譲受証に記載すべき譲受人氏名及び押印する麻薬専用印について
11月15日	・がん検診実施機関等の登録に係る申請について     ・平成28年度病院前医療体制における指導等研修(初級)に係る受講者の再募集について     ・介護予防・日常生活支援総合事業の円滑な施行について     ・平成28年度乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間の実施について     ・冷凍メンチカツによる腸管出血性大腸菌食中毒(疑い)事案について     ・平成28年度「児童虐待防止推進月間」の実施について     ・精神科救急医療体制整備事業の実施について     ・「病原微生物検出情報」の送付について     ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について     ・インフルエンザのウイルスサーベイランスに関する質疑応答(Q&amp;A)について     ・表示・通知義務対象物質の追加に係る周知について
11月16日	・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて
11月18日	・平成28年熊本地震に伴う診療報酬等の特例措置による対応状況の調査について
11月21日	・中小企業向け個人情報保護法全国説明会の開催について     ・医薬品副作用被害救済制度等の広報について     ・「平成28年度診療報酬改定関連通知の一部訂正について」及び厚生労働省「疑義解釈資料の送付について(その8)」の送付について

送付日	文 書 名
11月25日	・ 新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定に基づく特定接種(医療分野)の登録について     ・ 平成29年度「世界自閉症啓発デー」及び「発達障害啓発週間」に係る普及啓発の推進について     ・ 今冬のインフルエンザ総合対策の推進について     ・ Escherichia albertiiに係る報告について     ・ 特定接種の接種体制に関する覚書について     ・ 「平成28年度介護報酬改定検証・研究調査への協力依頼について」の送付について     ・ 社会福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等及び経過措置に関する政令(平成28年政令第349号)による組合等登記令の一部改正について     ・ 健康日本21推進全国連絡協議会平成28年度第2回分科会の開催について     ・ 胃内視鏡検診における自動洗浄消毒機について     ・ 平成28年度院内感染対策講習会の受講申込結果について     ・ 精神保健指定医の行政処分を踏まえた今後の対応について     ・ 鹿児島県で採取された環境試料からの高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N6亜型)の検出について     ・ 肝炎治療特別促進事業におけるエレルサ錠及びグラジナ錠の取扱いについて     ・ 医療事故情報収集等事業「医療安全情報No.120」の提供について     ・ インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る全国的な動向に関する研究に対する協力について     ・ 医師法施行規則の一部を改正する省令について(医師届出票の一部改正)
11月26日	・ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について(一部改正)
11月30日	・ 県民公開講座「知っちゃる？宮崎には大学附属の動物病院があるっちゃが！」の開催について
12月1日	・ 厚生労働科学特別研究「医療従事者養成課程におけるB型肝炎に関する教育についての研究」へのご協力をお願い
12月2日	・ 今冬のインフルエンザ総合対策の推進について     ・ 平成28年度在宅医療・介護連携推進事業プラン作成強化セミナーの資料掲載及び動画配信について     ・ 「平成27年国民健康・栄養調査結果の概要」の送付について     ・ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の公布及び施行等について     ・ 結核に関する特定感染症予防指針の一部改正等について     ・ 国民健康保険被保険者証を無効とすることについて     ・ 中小企業向け個人情報保護法全国説明会の開催について(再周知)

.....

あなたできますか？(解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b	a	a, e	e	a	e	e	c	b	e



あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

先日、宮崎の大学生を中心としたアカペラライブイベントが宮崎市内で行われ、私の所属する宮崎大学医学部のアカペラサークルがライブハウスでデビューを果たしました。このサークルは4年前に私と2つ上の先輩とで立ち上げたサークルで、ライブの際には、メンバー集めに奔走し、楽譜の

おたまじゃくしとにらめっこし、練習時間や場所の確保のために他団体と交渉し、深夜まで大学の廊下で練習した日々が思い出され、感無量でした。何度も「もうダメだ」と思うことがありましたが、みんなで知恵をしばって策を考え、何とかサークルを継続していく中で活路を見出してきた4年間でした。

さて、広報委員会では昨年12月に「宮崎の医療を考える会」を催し、若手記者の方々と救急医療について意見を交わしました。会の中では、各病院施設、救急に関連する各科の先生方が具体的な宮崎の救急医療の現状をデータとして提示することで、救急科、小児科、産婦人科などの科におけるマンパワー不足が喫緊の課題であることを参加者全員で共有できたように思います。救急医療の問題は、医療を提供する医療者のみならず、医療を受ける地域住民の問題でもあるため、県民総力戦で考えることで活路が見出せると思います。今回の「宮崎の医療を考える会」がその契機となることに期待しつつ、私達学生も救急医療について将来直面する問題として、目をそらさずに真摯に考えていく必要があると強く感じました。(押川)

* * *

先日、本に発生するといわれるチャタテムシを退治するため、バルサンを買ってきました。その夜、さっそく2階の書斎を閉め切り、水の中にバルサンをセット。1分ほどで煙が出てくるとの事で、あわててドアを閉め1階に下りた途端、「火事です！火事です！別の部屋で火事です！」と家中に警報が鳴り響きはじめました。子供は怖がり、むちうちで起き上がれず2階で寝ていた妻もいつの間にか1階に。すぐに窓を開け、火災報知器が家についているなんて思ってもいなかったと言いつつ訳をしましたが、「法律でどこの家にも付いているでしょ！」と、妻にあきれられました。ちなみに今日もチャタテムシが元気であることは言うまでもありません。(沖田)

* * *

ソアラ、スープラ、プレリウド。新車の名前ではありません、昔あこがれていた車です。大盛り、おかわり、食べ放題。昔心ときめいていた言葉です。車も食も興味がなくなりましたが、老けたのか選ぶ基準が以前とは変わってきました。はまゆう随筆や新春随想を読んで他の先生方のいろいろなものへの好奇心、枯れてない気持ちに触発されました。今年は気持ちを若くもって頑張りたいと思います。(西田)

* * *

あけましておめでとうございます。本年はとり年です。最近わが家の車に同じ鳥が糞をするようになりました。カーポートの後ろ側に防鳥ネットを張ったのですが、敵もさるもの、すぐに前側からやってきて同じ場所に糞を落とすようになりました。有効な対策が思い浮かばず、とり年に運(?)が落ちてくるのは何かいいことがある予兆かもしれない、と自分に言い聞かせて様子をみています。よい方法があったら教えて下さい。(中村)

* * *

みなさんは大晦日とお正月はどちらが好きですか？私は断然大晦日です。子供の頃は、遠足ではなく前日のおやつ買い出し。運動会の前に買う運動靴。大学生になったら、学園祭ではなく前夜祭。大人になっても、旅行は目的地に行くまでが楽しくて、山登りも頂上よりも登っている途中がいい。簡単に表現すると、日曜日よりも土曜日が好きなタイプです。人生ずっとワクワクしていたいじゃないですか。お正月なのにもう大晦日気分です。(野村)

* * *

4年生では1月中旬にCBTという共用試験がありますが、12月になりいよいよという感じがしています。問題集で勉強していると、今までの勉強の中で抜けている知識がどんどん出てきて、もう少し勉強しておけばよかったと後悔しつつ頑張っています。もうすぐクリスマス、お正月とイベントが続きますが、今年は受験期のような年越しをする予定です。これが届く頃には年が明けていると思います。皆さまよいお年をお迎えください。(馬場)

* * *

宮崎県医師会のウェブサイト(ホームページ)をリニューアルしました。新しいサイトでは必要な情報に素早くアクセスできるよう、主要なコンテンツのアイコンを県民向けはグリーン、医師向けはブルーで色分けしています。今回はスマートフォンでの表示にも対応しています。また、トップページには日州医事の表紙の画像を表示しています。ぜひ、パソコン・スマートフォンから新しい県医ウェブサイトをご活用ください。<http://www.miyazaki.med.or.jp/>

(荒木)

* * *

## 今月のトピックス

### 年頭所感・年頭のご挨拶

あけましておめでとうございます。日本医師会横倉義武会長をはじめ、宮崎県医師会顧問、各郡市医師会長、各専門分科医会長より年頭所感を、河野宮崎県知事、池ノ上宮崎大学長そして国会・県議会議員の先生方より年頭のご挨拶をいただきました。

4 ページ

### 新春随想 (その1)

毎年恒例の新春随想を掲載します。今年もたくさんの作品をお寄せいただきありがとうございました。1月号に18編、2月号に14編掲載予定です。趣味や思い出など先生方の意外な一面を垣間見ることができます。お楽しみください。

25ページ

### 診療メモ DPAT(Disaster Psychiatric Assistance Team災害派遣精神医療チーム)について

平成23年の東日本大震災を教訓に生まれた災害派遣精神医療チーム(DPAT)。全国初のDPAT派遣は平成26年8月の豪雨災害(広島県)であり、宮崎県DPATに関しては、昨年4月の熊本地震から活動を開始されました。DPATおよびその活動に関し、日本DPAT隊員である河野次郎先生に解説していただきました。

94ページ

## 日 州 医 事 第809号(平成29年 1 月号)(毎月 1 回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行  
〒880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550  
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 沖田 和久・副委員長 西田 隆昭, 岡本健太郎

委 員 中村 豪, 野村 勝政, 押川 隆, 馬場 萌子

山崎 俊輔, 稲倉 琢也, 上山 貴子, 佐井 佳世, 柴野 雅資

担当副会長 富田 雄二・担当理事 荒木 早苗, 佐々木 究

事 務 局 学術広報課 立山 幸恵, 牧野 諭

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円(但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)